

本書の構成

第1章 概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

第2章 OS インストールの前に

この章では、OS インストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

第3章 サーバのインストール

この章では、サーバに OS をインストールする方法について説明しています。

第4章 OS インストール後の操作

この章では、OS インストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

第5章 高信頼ツール

PRIMERGY では、高信頼ツールを導入することを推奨しています。この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

第6章 クライアントのインストール

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

第7章 各種ドライバディスク

この章では、ドライバの作成方法とインストール方法について説明しています。

付録

この章では、トラブルシューティングと、ネットワークパターンについて説明しています。また、ServerStart を使用してインストールを行う場合に有効なデザインシートを添付しています。

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【 】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【 】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
          ↑ ↑
```

の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「 」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows®95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows®98 Operating System	Windows 98
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me
Windows 95 および Windows 98、Windows Me	Windows 95/98/Me
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT Workstation 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Professional
Microsoft® Windows® 2000 Server および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Server、または Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 および Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT Server 4.0、また は Windows NT 4.0
Microsoft® Windows®XP Professional	Windows XP
Microsoft® Small Business Server 2000	SBS 2000
NetWare® 5.1	NetWare 5.1

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStart をお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」というファイル名で、ServerStart CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ ServerStart に関する最新情報について

ServerStart に関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページでご確認ください。

<http://www.fmwORLD.net/biz/>

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Xeon は、米国インテル社の商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
NetWare および IntranetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章 概要

1.1 サーバセットアップの流れ	12
1.2 ServerStart の特長	13
1.3 高信頼ツールについて	17
1.3.1 サーバ監視ツール	17
1.3.2 運用管理支援ツール	18
1.3.3 システム診断支援ツール	18
1.3.4 遠隔保守支援ツール	19
1.3.5 高信頼ツールの導入について	20

第 2 章 OS インストールの前に

2.1 インストール方法の選択	22
2.2 システム要件	23
2.3 ServerStart を起動する前に	25
2.3.1 サーバ導入前の準備	25
2.3.2 Service Pack について	27
2.3.3 情報ファイルについて	27
2.3.4 ServerStart 使用時の注意事項	28
2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード	30
2.4 OS を手動インストールする前に	31
2.4.1 Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server 共通注意事項	31
2.4.2 Windows 2000 Server をインストールする場合	32
2.4.3 Windows NT Server 4.0 をインストールする場合	33

第 3 章 サーバのインストール

3.1 OS インストールタイプの開封	36
3.1.1 ServerStart を使用して開封する	36
3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する	39
3.2 ガイドモード	40
3.2.1 ガイドモードの起動	40
3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く / 作成する	43
3.2.3 RAID ウィザード	43
3.2.4 ディスクウィザード	44
3.2.5 OS インストールウィザード	46
3.2.6 アプリケーションウィザード	51
3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード	52
3.2.8 クライアント一括導入ウィザード	52
3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する	55
3.2.10 インストールの開始	55

3.3 事前設定モード	58
3.3.1 事前設定モードの起動	58
3.3.2 各ウィザードの設定を行う	61
3.3.3 インストールの開始	61
3.4 エキスパートモード	64
3.4.1 エキスパートモードの起動	64
3.4.2 RAID システム構成ツール	67
3.4.3 メンテナンス区画の作成	67
3.4.4 ディスクアドミニストレータ	68
3.4.5 OS インストールウィザード	69
3.4.6 アプリケーションウィザード	74
3.4.7 インストールの開始	74
3.5 複数台（2 台目以降）へのインストール	77
3.5.1 インストールの準備	77
3.5.2 ガイドモードでインストールを行う	77
3.5.3 事前設定モードでインストールを行う	79
3.6 再インストール	81
3.6.1 再インストールの前に	81
3.6.2 OS インストールタイプの再インストール	81
3.6.3 ガイドモード / 事前設定モードでの再インストール	82
3.6.4 エキスパートモードでの再インストール	83
3.7 OS の手動インストール	84
3.7.1 Windows 2000 Server のインストール	84
3.7.2 Windows NT Server 4.0 のインストール	88
3.7.3 Linux のインストール	91

第 4 章 OS インストール後の操作

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定	94
4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows 2000 Server の場合）	94
4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法（Windows NT Server 4.0 の場合）	98
4.2 システム修復ディスクの作成	102
4.2.1 システム修復ディスクの作成（Windows 2000 Server の場合）	102
4.2.2 システム修復ディスクの作成（Windows NT Server 4.0 の場合）	103
4.3 保守ツールの作成	104
4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成	104
4.3.2 Global Array Manager / Storage Manager の作成方法	106
4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法	107
4.4 サーバ運用前の留意事項	110
4.4.1 Windows Update（システムを最新にする）	110
4.4.2 Code Red ワーム対策プログラムの適用について	110
4.4.3 手動で OS のインストールまたは開封を行った場合	112
4.4.4 Service Pack の適用	113

4.4.5 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて	113
4.4.6 不要なファイルについて	114
4.4.7 CD-ROM からの自動実行機能について	114
4.4.8 OS インストールタイプをお使いの方へ	115
4.4.9 バックアップについて	118

第 5 章 高信頼ツール

5.1 RAS 支援サービス	120
5.1.1 RAS 支援サービスのインストール方法	120
5.1.2 RAS 支援サービスの使用方法	121
5.1.3 部品寿命情報	122
5.1.4 障害の通知方法の設定	124
5.2 サーバ監視ツール [ServerView]	126
5.2.1 ServerView のインストール	126
5.2.2 インストール後の処理について	126
5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	127
5.4 システム環境の診断機能 [FM Advisor]	128
5.4.1 診断方法	128
5.4.2 定義ファイルの入手方法	129
5.5 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO]	130
5.5.1 インストール方法	130
5.5.2 動作環境を定義する	131
5.5.3 初回インストール時の初期設定について	131
5.5.4 アンインストール方法	132
5.5.5 シンボルファイルの準備	132
5.6 トラブル原因の早期発見 [DSNAP]	133
5.7 サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]	134
5.7.1 インストール方法	134
5.7.2 運用の手順	135
5.7.3 起動と終了の方法	136
5.7.4 アンインストール方法	136
5.8 REMCS エージェント	137
5.8.1 REMCS エージェントのインストール	137

第 6 章 クライアントのインストール

6.1 クライアントのセットアップ	140
6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ	140
6.1.2 WizardConsole の各機能	141
6.1.3 各 OS 環境における利用可能な機能	142
6.1.4 WizardConsole を利用するための準備	143
6.2 クライアントコンピュータの追加/変更	145
6.2.1 コンピュータの変更、追加	148
6.2.2 コンピュータ情報の取得	148

6.2.3 コンピュータの一括導入	149
6.2.4 コンピュータの削除	149
6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加/変更	150
6.3.1 ユーザの追加/変更	151
6.3.2 グループの追加/変更	151
6.3.3 共有資源フォルダの追加/変更	152
6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け	153
6.4 リモート OS セットアップ	157
6.4.1 リモート OS セットアップを起動する	157
6.4.2 OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Professional の場合)	159
6.4.3 OS セットアップ情報を設定する (Windows NT Workstation 4.0 の場合)	160
6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する	161
6.4.5 OS セットアップ情報を確認/変更する	161
6.4.6 CD-ROM イメージを削除する	161
6.5 クライアントセットアップ	162
6.5.1 クライアントセットアップを起動する	163
6.5.2 セットアップ情報 (アプリケーション) を追加する	165
6.5.3 セットアップ情報 (ファイル) を追加する	168
6.5.4 セットアップ情報 (実行コマンド) を追加する	168
6.5.5 セットアップ情報の内容確認/設定変更	169
6.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する	169
6.5.7 セットアップ資源の登録解除	171
6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する	172
6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作	174
6.6.2 デスクトップ環境の設定	175
6.7 クライアントブート設定	177
6.7.1 クライアントブート設定を起動する	178
6.7.2 OS セットアップ用	179
6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成	181
6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更	182
6.8 クライアントへのインストール	183
6.8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合	183
6.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合	184
6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング	187
6.9 変更した情報の登録	188
6.10 WizardConsole 使用時の留意事項	189
6.10.1 トラブルシューティング	189
6.10.2 バックアップドメインコントローラ (BDC) に関する留意事項 (Windows NT Server 4.0 の場合)	191
6.10.3 クライアントコンピュータの追加/変更時の留意事項	192
6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項	192
6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて	195
6.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成	196
6.11.1 動作環境	197

6.11.2 WizardMenu を作成する	197
6.12 WizardConsole のアンインストール	200

第 7 章 各種ドライバディスク

7.1 ドライバの作成方法	204
7.1.1 ドライバの作成方法	204
7.2 ドライバのインストール	208
7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)	208
7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)	209
7.2.3 最新のドライバについて	210

付録

A トラブルシューティング	212
A.1 インストール先区画サイズについて	212
A.2 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項	212
A.3 LAN ドライバの詳細設定について	213
A.4 Windows 2000 セットアップ中に自動ログオンされない場合	217
A.5 Active Directory 構築中に入力画面で停止した場合	218
A.6 インストール時に表示されるエラーメッセージについて	218
A.7 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて	219
A.8 スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクの使用法	219
A.9 Windows 2000 インストール後に発生するイベントログのエラーについて	220
A.10 メモリダンプが取得できない場合	221
A.11 カスタムメイドにおけるプレインストールタイプについて	222
A.12 システムの修復について	222
A.13 プリンタのセットアップについて	224
A.14 ServerStart のアンインストール	224
B ネットワークパターン別設定方法	225
B.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン	225
B.2 Windows NT 4.0 ドメインの構成	228
B.3 Active Directory の構成 (新しいフォレスト)	229
B.4 Active Directory の構成 (新しいツリー)	232
B.5 Active Directory の構成 (追加ドメインコントローラ)	237
B.6 Active Directory の構成 (子ドメイン)	240
B.7 ドメインメンバサーバの構成	244
B.8 スタンドアロンサーバの構成	246
C IDE RAID 管理ツールについて	248
C.1 FastCheck Monitoring Utility	248
C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)	254
C.3 FastTrak Service	255
D デザインシート	256
RAID ウィザード	256
ディスクウィザード	257

OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)	258
OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード).....	262
アプリケーションウィザード	266
サーバアプリケーションセットアップウィザード	266
クライアント一括導入ウィザード (クライアントシステム設計)	267
クライアント一括導入ウィザード (クライアントセットアップ)	269
クライアント一括導入ウィザード (デスクトップ設計).....	271

第 1 章

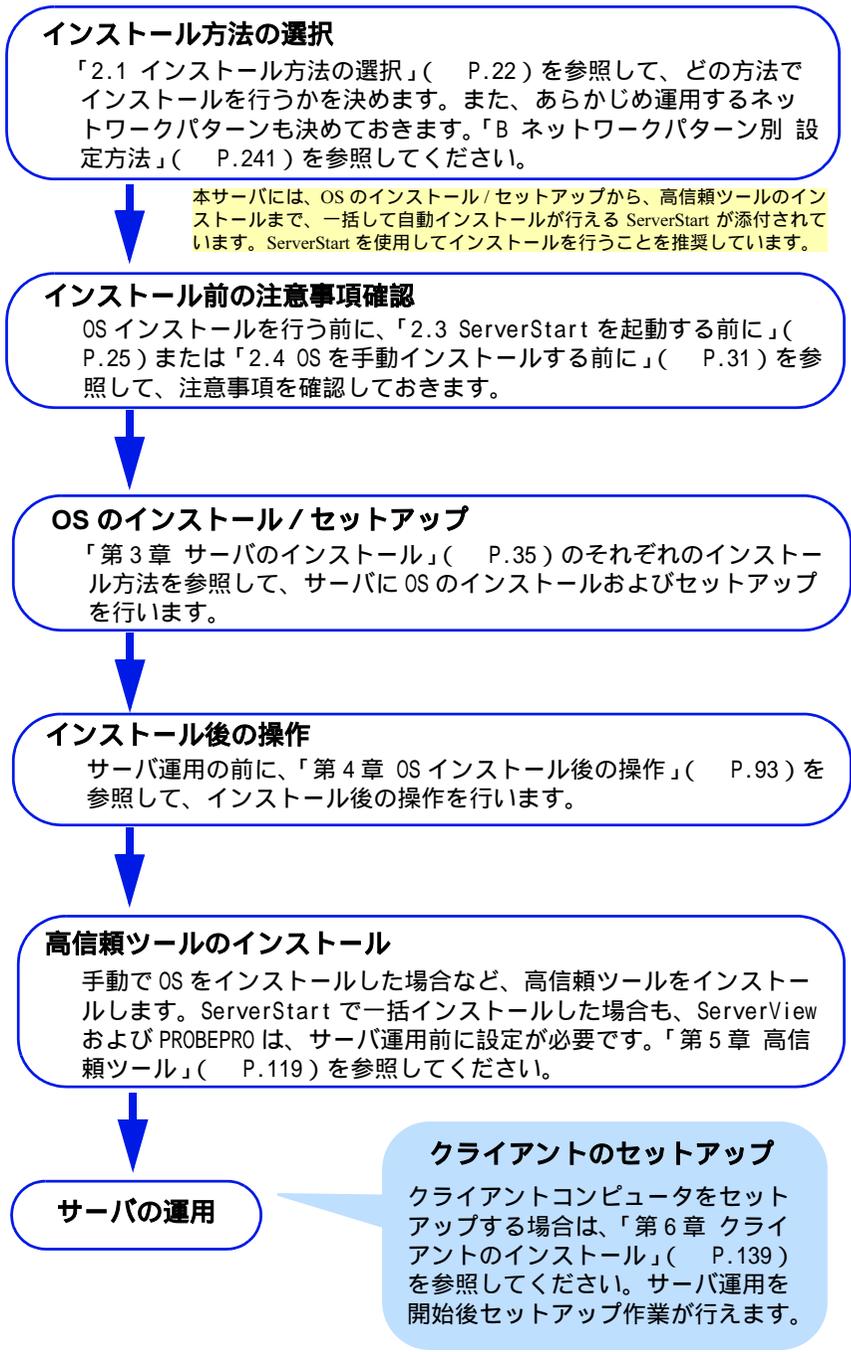
概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

1.1 サーバセットアップの流れ	12
1.2 ServerStart の特長	13
1.3 高信頼ツールについて	17

1.1 サーバセットアップの流れ

本体の設置が完了したら、サーバに OS のインストールとセットアップを行います。以下の流れでセットアップを行ってください。



1.2 ServerStart の特長

ServerStart は、PRIMERGY の初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。ServerStart は、導入作業の簡素化、推奨ドライバの確実なインストールを実現します。

ServerStartの導入

使用しない

- 複雑なハード設定（RAIDの設定など）
- ユーザ定義、アクセス権、ネットワークの設定
- 導入時、逐次入力が必要でミスがおきやすく時間がかかる

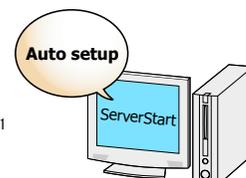
例) IPアドレスの設定、ユーザ作成、コンピュータ名の登録等の作業が必要



使用する

- RAIDの自動構成が可能
- 推奨ドライバ（SCSIやLAN等）の自動インストールにより、信頼性の高いインストールを実現
- 高信頼ツールの自動インストールが可能 ※2

例) OSインストール時の作業等を自動化 ※1



※1 一部の入力（使用許諾等）と媒体の入れ替えを除く

※2 高信頼ツールは、サーバの管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェアです

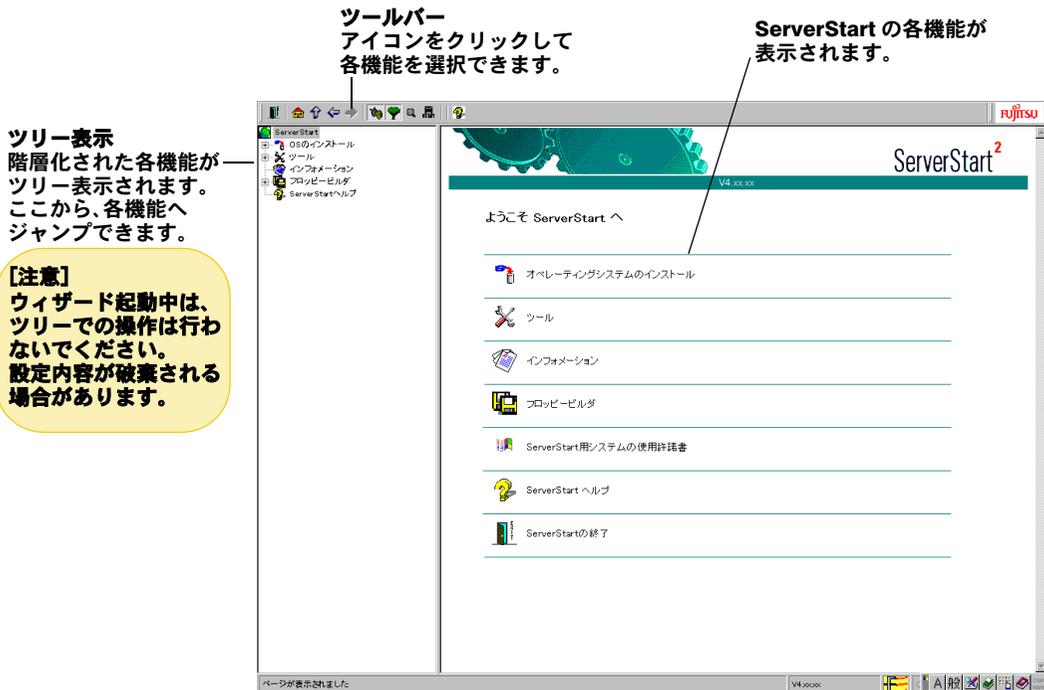
■ わかりやすいユーザインタフェース

わかりやすいユーザインタフェースにより、必要な情報を簡単に設定できます。

● メイン画面

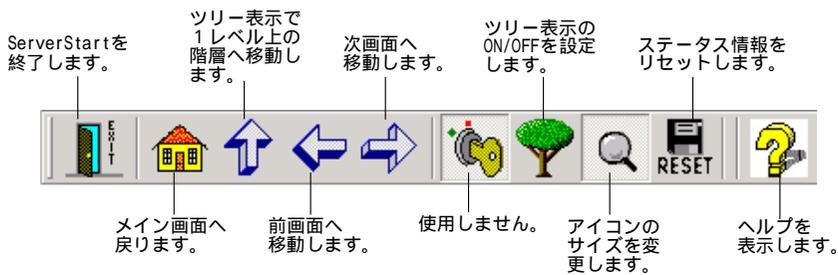
ServerStart を起動すると、次の画面が表示されます。

画面およびツールバーは、各モードにより異なります。



● ツールバー

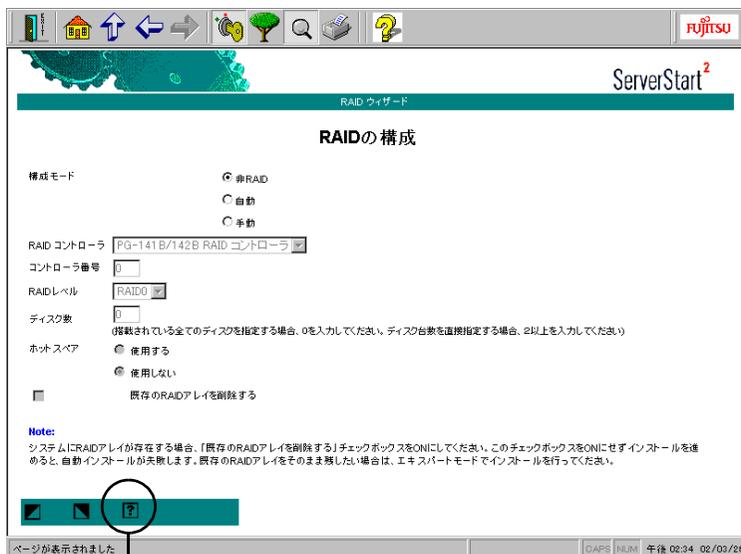
・ ガイドモード / エキスパートモードの場合



● ウィザード画面

各ウィザードをクリックすると、ウィザード画面が表示されます。

ウィザード画面で、各項目を設定していきます。ウィザード画面では、画面下の  をクリックすると、項目設定のヒントとなる説明が表示されます。



ここをクリックすると、項目の説明が表示されます。

■ ネットワークの構築ができます

ServerStart では、サーバの導入時に Windows NT Server 4.0 および Windows 2000 Server のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、WizardConsole を利用し、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップを簡単に行うことができます。

WizardConsole には、主に以下の機能があります。

- ・ コンピュータの追加 / 変更
- ・ リモート OS セットアップ
- ・ クライアントセットアップ
- ・ クライアントブート設定
- ・ コンフィグレーションファイルの作成
- ・ 設定したアカウント (グループ / ユーザ / 共有資源) の一覧表示

WizardConsole の操作など、詳細は「第 6 章 クライアントのインストール」(P.139) を参照してください。構築できるネットワークパターンについて、詳細は「B ネットワークパターン別 設定方法」(P.241) を参照してください。

■ ドライバの自動インストール

自動認識したオプションカードなどに対して、インストール時に推奨ドライバを組み込みます。これにより、誤って古いバージョンのドライバを組み込んだり、サーバ添付以外のドライバを組み込むというようなドライバの入れ間違いを防止し、潜在的なインストールのミスを防ぎます。

■ RAID の自動構成

アレイコントローラカードを使用する場合は、事前に RAID の種類と使用するディスクの本数を指定し、RAID のユーティリティを起動せずにディスクアレイを構成できます。

■ OS インストールモデルの開封

開封とは、OS インストールモデルのプロダクトキーの入力やネットワークの設定を行い、インストールを完了させることです。開封に必要な情報をあらかじめ設定できるので、開封時に設定内容を確認しなくても、すでに設定した内容に従ってスムーズに開封できます。

1.3 高信頼ツールについて

高信頼ツールは、サーバの運用において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧まで、次の各ツールが役割を分担します。

- ・サーバ監視ツール
- ・運用管理支援ツール
- ・システム診断支援ツール
- ・遠隔保守支援ツール

1.3.1 サーバ監視ツール

サーバ監視ツールは、管理者に代わってハードウェアの状態を監視し、異常発生時には管理者に異常を通知します。

役割	サーバ監視ツール	対象 OS
サーバ異常の早期発見	ServerView	Windows NT / Windows 2000 / Linux
ディスク異常の早期発見	RAID 管理ツール	
定期交換部品の状況監視	RAS 支援サービス	Windows NT / Windows 2000

■ サーバ異常の早期発見 [ServerView]

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下に置かれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されます。これにより、サーバの管理者は早期に対応してシステムの異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

■ ディスク異常の早期発見 [RAID 管理ツール]

RAID 管理ツールは、ディスクアレイの監視を行うソフトウェアです。RAID 管理ツールは Windows NT / Windows 2000 システムのサービスとして動作し、イベントが発生した場合、イベントビューアのアプリケーションログにイベントログを残し、同時にウィンドウがポップアップしてハードディスクの故障、リビルド状況などを表示して知らせます。

■ 定期交換部品の状況監視 [RAS 支援サービス]

RAS (Reliability, Availability, Serviceability) 支援サービスは、サーバの定期交換部品である電源、ファン、SCSI アレイコントローラカード上のバッテリー、UPS のバッテリーの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知するソフトウェアです。

1.3.2 運用管理支援ツール

運用管理支援ツールは、サーバの運用が正常に行われるようにするための、装置の管理を支援します。

役割	運用管理支援ツール	対象 OS
テープ装置の管理	Tape Maintenance Checker	Windows NT / Windows 2000
サーバ同士の時刻合わせ	Chronoworker/S	

■ テープ装置の管理 [Tape Maintenance Checker]

テープ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知します。これにより、確実なバックアップを実現します。

■ サーバ同士の時刻合わせ [Chronoworker/S]

サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせを行います。

1.3.3 システム診断支援ツール

システム診断支援ツールは、通常の運用時や万一のトラブル発生時などのシステム状態の診断を支援します。

役割	システム診断支援ツール	対象 OS
システムの健康診断	FM Advisor	Windows NT / Windows 2000
トラブル原因の早期発見	PROBEPRO、DSNAP	

■ システムの健康診断 [FM Advisor]

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、サーバの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

■ トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO / DSNAP]

PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows NT / Windows 2000 システムでトラブルが発生した際に、サポート要員がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、Windows NT / Windows 2000 システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中にシステム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を収集します。

収集したパフォーマンス情報から、システム全体やプログラム単位のメモリ使用量をグラフ作成することができます。

DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows NT / Windows 2000 システムに問題が発生した際に、サポート要員がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共にサポート要員にお渡しください。

1.3.4 遠隔保守支援ツール

遠隔保守支援ツールは、遠隔地からのサーバの保守を支援します。

役割	遠隔保守支援ツール	対象 OS
サポートサービス	REMCS エージェント	Windows NT / Windows 2000

■ サポートサービス [REMCS エージェント]

弊社サポートセンターとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

REMCS エージェントを使用するには、動作環境として「ServerView」が必要です。

1.3.5 高信頼ツールの導入について

PRIMERGY に添付の高信頼ツールは、ServerStart を使用した場合、OS インストール時、または OS インストールタイプ開封時に「アプリケーションウィザード」で指定することにより、一括してインストールできます。また、OS インストールタイプの場合は、あらかじめブレインストールされているツールもあります。

それぞれの場合について、インストールされる高信頼ツールは、以下のとおりです。

高信頼ツール	ServerStart で一括インストール	OS インストールタイプ	
		ServerStart 開封	手動開封
RAS 支援サービス			×
RAID 管理ツール	*	*	×
FM Advisor			
ServerView			×
DSNAP			
PROBEPRO			
Tape Maintenance Checker	×	×	×
Chronoworker/S	×	×	×
REMCS エージェント	×	×	×

：必ずインストールされます。

：インストールする場合、選択が必要です。

×：手動でインストールしてください。

*：RAID コントローラが搭載されていない場合はインストールされません。

Linux では、ServerStart による一括インストールをサポートしていません。

重要

- ▶ 高信頼ツールを ServerStart で一括インストールした場合
ServerView および PROBEPRO については、インストール後、設定作業が必要です。「第5章 高信頼ツール」(P.137) を参照してください。

ServerStart を使用した OS インストール時 (OS インストールタイプの開封時) に高信頼ツールをインストールしなかった場合や、手動で OS をインストール (OS インストールタイプを開封) した場合などは、各ツールの標準のインストーラを使用してインストールしてください。標準のインストーラを使用したインストール方法については、「第5章 高信頼ツール」(P.137) を参照してください。

■ ServerView のインストールについて

ServerView を ServerStart の一括インストールでインストールした場合、インストールされるのは ServerView Basic です。ServerView Full をインストールしたい場合は、ServerStart でインストールせずに、手動でインストールを行ってください。

また、運用形態によりインストールするソフトウェアが異なります。ServerView の概要、およびインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

第 2 章

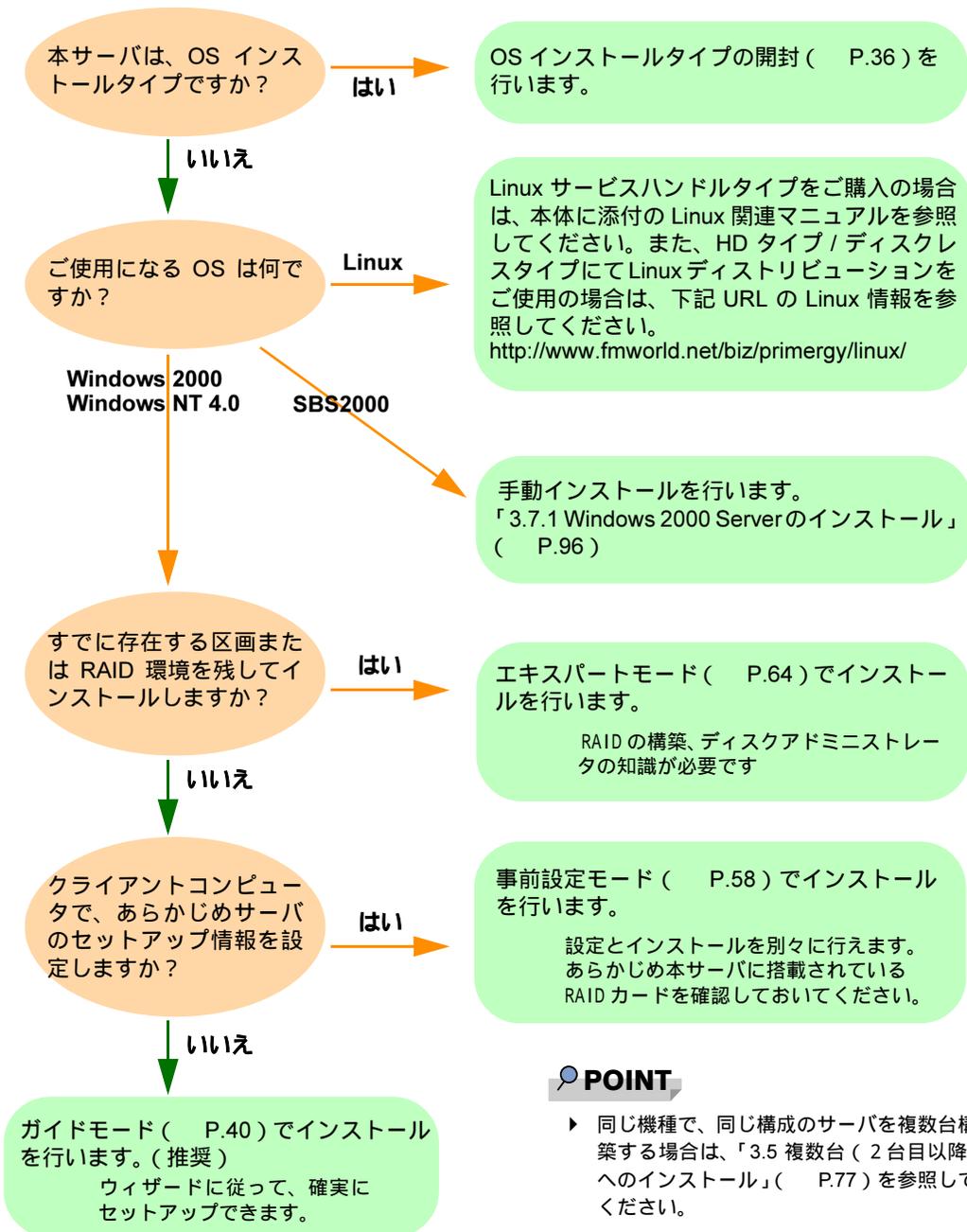
OS インストールの前に

この章では、OS インストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

2.1 インストール方法の選択	22
2.2 システム要件	23
2.3 ServerStart を起動する前に	25
2.4 OS を手動インストールする前に	31

2.1 インストール方法の選択

初めて OS をインストールする場合、インストール方法には、いくつかの方法があります。以下を参考に、どの方法でインストールを行うか決定してください。再インストールの場合は、「3.6 再インストール」(P.81)を参照してください。



POINT

- ▶ 同じ機種で、同じ構成のサーバを複数台構築する場合は、「3.5 複数台 (2 台目以降) へのインストール」(P.77)を参照してください。

2.2 システム要件

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

■ 事前設定モードを使用するとき

ハードウェア	当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、 Windows 2000 Professional が動作するパーソナルコンピュータ本体 (CD-ROM ドライブ必須、10MB 以上の空き容量が必要)
ソフトウェア	Microsoft® Internet Explorer 5.01 以上

■ サーバをセットアップするとき

ハードウェア	お買い上げいただいた PRIMERGY 本体 複数の LAN カードを搭載した場合、WizardConsole は利用できません。
ソフトウェア	使用する OS (Windows NT、Windows 2000 Server) の CD-ROM ServerStart の CD-ROM 同じモデルを複数台導入するとき、異なる版数の CD-ROM がある場合は、最新のものを使用してください。 コンフィグレーションファイル登録用のフロッピーディスク (本製品に添付の「ServerStart フロッピーディスク」を用意してください。) 修復ディスクを作成するための未使用のフロッピーディスク... 1 枚 Service Pack の CD-ROM Windows NT / Windows 2000 で ServerStart の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。 アプリケーションのインストール用 CD-ROM サーバアプリケーションをインストールする場合に必要です。 (BrightStor ARCserve 2000、ARCserve 2000 など) オプションカードに添付されているドライバのフロッピーディスク など PRIMERGY ドキュメント & ツール CD

■ クライアントをセットアップするとき

ハードウェア	<p>当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP が動作するパーソナルコンピュータ本体 (LAN カード搭載) ハブユニット、ルータ LAN ケーブル (必要本数分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。 ・ 複数の LAN カードを搭載した場合、リモート OS セットアップおよびクライアントセットアップは利用できません。
ソフトウェア	<p>クライアントセットアップファイル登録用のフロッピーディスク (未使用のフロッピーディスク ... 必要枚数) 「クライアントブート設定」で使用します。 クライアントにインストールする OS の CD-ROM (クライアントに OS をインストールする場合) Microsoft® Internet Explorer 3.02 以上 (デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合)</p>

2.3 ServerStart を起動する前に

ServerStart を使用して OS をインストールする前に、以下の事項をよくお読みください。

2.3.1 サーバ導入前の準備

■ 内蔵オプション取り付け時の注意

ServerStart を使用して OS をインストールするとき、内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

- ・『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。
- ・OS のインストール先となるハードディスク以外は接続しないでください。
- ・SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップが終了してから電源を切断して接続を行ってください。

■ ハードウェアの設定

ServerStart は、ハードウェアセットアップ（BIOS、SSU ユーティリティ等）には対応していません。『ハードウェアガイド』を参照し、ご使用の環境に合わせた設定を行ってください。なお、オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。

■ サーバ導入時に搭載するメモリ容量について

Windows NT Server 4.0 の場合、OS インストール時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、サーバの電源を切断してメモリの増設を行ってください。

ただし機種によっては、2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。『ハードウェアガイド 第7章 技術情報』でご確認ください。

重要

- ▶ Windows NT Server 4.0 インストール時に、2GB を超えるメモリを搭載した場合は、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続できなくなります。

POINT

- ▶ ServerStart のサポートについて
ServerStart がサポートするオプションカードや、自動インストールするデバイス、アプリケーションについては、「2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード」（P.30）を参照してください。

■ RAID 構築について

すでに構築済みの RAID 環境を残してインストールする場合は、エキスパートモードをご利用ください。

SCSI アレイコントローラカードの交換等で、すでに構築済みのディスクを利用する場合は、SCSI アレイコントローラカードを交換する前に、フィジカルバックを削除しておく必要があります。

フィジカルバックを削除する方法は、SCSI アレイコントローラカードによって異なります。サーバ本体、または SCSI アレイコントローラカードに添付されているマニュアルの FastBuild、Storage Manager On ROM (SMOR) または EzAssist の使用方法 (SCSI アレイコントローラカードによって異なります) を参照してください。

ServerStart で RAID 構築する場合、アレイの初期化はバックグラウンド初期化 (BGI) 機能を利用します。初期化が完了しているか確認する場合は、各 SCSI アレイコントローラカードの管理ツールで確認することができます。管理ツールの利用方法は、管理ツール (FastCheck Monitoring Utility、Storage Manager または Global Array Manager) のヘルプ、または SCSI アレイコントローラカードの『取扱説明書』を参照してください。

■ LAN ケーブルについて

LAN カードに LAN ケーブルを接続せずに、OS のインストールやアプリケーションの自動インストールを行った場合、セットアップ後、イベントビューアにエラーが記録される場合があります。セットアップ時には、必ず LAN ケーブルを接続してください。

2.3.2 Service Pack について

ServerStart CD-ROM には、Microsoft® Windows NT® Version 4.0 および Microsoft® Windows® 2000 Service Pack が収められています。Service Pack の種類については、CD-ROM のレーベルに記述されているので確認してください。

■ Service Pack の適用

事前設定モードまたはガイドモードの「アプリケーションウィザード」で、「Service Pack」を選択しなかった場合は、Service Pack は適用されません。この場合、OS インストール後に適切な Service Pack (Option Pack 含む) を適用してください。

適用可能な Service Pack については、ServerStart を起動し、「インフォメーション」-「ServerStart ソフトウェア情報」を参照してください。

2.3.3 情報ファイルについて

ServerStart では、コンフィグレーションファイル、クライアントセットアップファイルの2つのファイルを使用します。

■ コンフィグレーションファイル (SerStartBatch.ini)

コンフィグレーションファイルには、ServerStart で設定したサーバの情報およびクライアントの情報が登録されます。

サーバ情報ファイルは、1枚のフロッピーディスクに1ファイルのみ登録してください。

重要

- ▶ コンフィグレーションファイルの名前について
コンフィグレーションファイルの名前は、任意の名前を付けることができますが、ガイドモードまたは事前設定モードでインストールする際に使用できる名前は「SerStartBatch.ini」のみです。インストールを実行する場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに「SerStartBatch.ini」のファイル名で保存して使用してください。

■ クライアントセットアップファイル (.CPD)

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerStart でサーバをインストールしたあとに、WizardConsole 機能を使用して作成します。

クライアントセットアップファイルを登録したフロッピーディスクを使うと、クライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップ時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

クライアントごとに1つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアントごとにセットアップします。全クライアントを1つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップを行ってください。

2.3.4 ServerStart 使用時の注意事項

■ ServerStart の操作について

ServerStart の操作は、主にマウスを使用します。Tab キーおよびカーソルキーで項目の移動などが行えない場合があります。ServerStart ご利用時には、必ずマウスをご用意ください。

■ CD-ROM の取り出しについて

ServerStart 起動中は、ServerStart CD-ROM を取り出さないでください。ServerStart CD-ROM を取り出し、再度挿入すると、複数の ServerStart が起動し、それまで入力していた設定内容が失われる可能性があります。

■ ServerStart 起動時の画面解像度と色数について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動する際、システム搭載メモリが 256MB より少ない場合、ServerStart の解像度は 800 × 600 ドット、16 色表示となります。このため、アイコン表示や、ハイライト表示等が一部見にくくなることがあります。ご了承ください。

■ エキスパートモード／ガイドモード時の IME について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動して、エキスパートモードまたはガイドモードを使用する場合、日本語を入力することができます。この時、画面右下に IME ツールバーが表示されますが、この IME ツールバーを「タスクバーにドッキング」しないでください。一度 IME ツールバーをタスクバーにドッキングすると、ServerStart 実行中、IME ツールバーが表示されなくなります。

■ モードの移動について

コンフィグレーションファイルを開いて、ウィザードでインストール項目を入力している際に、別のモードへ移動しないでください。（例えば、Windows NT 4.0 ガイドモード実行中に Windows 2000 ガイドモードを実行しないでください。）

入力中のモードから別のモードに移動する場合、コンフィグレーションファイルを保存する必要があります。なお、コンフィグレーションファイルを保存せずに [キャンセル] をクリックすると、それまでに入力した内容は破棄されます。

■ インストール中の問題について

Windows NT Server 4.0 のインストール時、GUI セットアップ完了後の再起動でシステムがハングすることがあります。この場合、セットアップは正常に行われているので、一旦電源を切断し、再度電源を入れてセットアップを続行してください。

■ ServerStart の終了について

エキスパートモード／ガイドモード実行後、ServerStart を終了すると、システムが再起動されます。シャットダウン完了後画面の表示が消えたところで電源ボタンを押し、システムの電源を切断してください。

■ ServerStart 用システムの使用許諾書について

ServerStart 起動画面からリンクされている「ServerStart 用システムの使用許諾書」は、ServerStart CD-ROM 内に含まれている Windows NT に関する使用許諾書です。ServerStart 起動用の Windows NT は、別途正規にライセンスされた Windows NT または Windows 2000 Server をインストールするためだけに使用可能です。

■ RAID の初期化について

ServerStart で RAID の自動構築を行った場合、RAID の初期化はバックグラウンドで行われます。ディスクを取り外す場合、RAID ユーティリティなどで初期化が完了したかどうかを確認してから作業を行ってください。

■ PRIMERGY 以外のコンピュータでシステムを ServerStart CD-ROM から起動した場合について

ServerStart CD-ROM は、PRIMERGY 以外では起動しません。PRIMERGY 以外で起動した場合は、次のメッセージが表示されます。

この場合、ServerStart CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
Manufacture string is "xxxx"
Product name is "xxxx"
Start of ServerStart rejected !
ServerStart is allowed to run on PRIMERGY systems only !
Remove the CD from it's drive and reboot the computer
```

また、一部のコンピュータでは、次のメッセージを表示したまま停止することがあります。この場合も、ServerStart CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
```

■ システム管理ポート用 IP アドレスの設定について

システム管理ポート用 IP アドレスを設定する場合は、ガイドモードの「システム構成ウィザード」で値を設定し、「アプリケーションウィザード」で「ServerView」をインストールするように設定してください。

■ FMV-DP849 での ServerStart 起動時の画面解像度と色数について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動する際、ディスプレイに FMV-DP849 を接続した場合、ServerStart の解像度は 640 × 480 ドット、16 色表示となります。このため、アイコン表示やハイライト表示などが一部見にくくなる場合があります。ご了承ください。

2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード

ServerStart がサポートするオプションカードは、PRIMERGY がサポートするものの中で、PCI に対応したものです。カードの搭載枚数や搭載位置については、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照してください。

ServerStart でサポートするオプションカードは、以下のとおりです。サポートするカードはサーバの機種により異なりますので、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照してください。

■ ドライバ自動インストールに対応するオプションカードとオンボード I/O

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール
オンボード FDD/IDE	-	-	
オンボード IDE RAID		PCI	
IDE アレイコントローラカード		PCI	
オンボード LAN	-	PCI	
オンボード Video	-	PCI	
LAN カード	PG-1851	PCI	
	PG-1861	PCI	
	PG-1871/ 1871L	PCI	
	PG-188/1881	PCI	
	PG-189/1891	PCI	
SCSI カード	PG-128	PCI	
	PG-129B	PCI	
	PG-130L	PCI	
SCSI アレイコントローラカード	PG-141B	PCI	
ファイバチャネルカード	PG-FC102	PCI	
ISDN 接続 G3/G4 FAX 通信カード	GP5-161	PCI	×
RS-232C カード	GP5-162	PCI	Windows NT Server 4.0 × Windows 2000 Server
通信カード ISDN	PG-1651	PCI	×
通信カード V/X	PG-1631	PCI	×
FAX モデムカード	FMV-FX533	PCI	×
リモートサービスボード	PG-RSB101	PCI	×

2.4 OSを手動インストールする前に

ServerStart を使用せず、OS を手動でインストールする場合、事前に以下の事項をよくお読みください。

2.4.1 Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server 共通注意事項

■ IDE アレイコントローラカード使用時の注意

● IDE アレイコントローラカードの接続確認

OS をインストールする前に、IDE アレイコントローラカードのコンフィギュレーションが終了しており、IDE アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化が終了している必要があります。

■ ハードウェアの設定

『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定について』を参照し、BIOS セットアップユーティリティなどのハードウェアの設定、および確認を行ってください。

■ ブート OS のインストール先

ブート OS は、必ず内蔵ハードディスクユニットにインストールしてください。

■ インストールに必要な容量

OS をインストールする区画サイズには、メモリダンプの取得に必要な空き容量を考慮する必要があります。詳細は、「4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定」(P.94) を参照してください。

■ オプションカード搭載時の注意

オプションカードを使用する場合には、各種オプションカードの留意事項を必ず参照してください。

■ 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など）を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は、「Aトラブルシューティング」(P.212) を参照してください。

■ 拡張 RAM モジュール搭載時の注意

使用する OS によって搭載可能容量が異なります。また、サーバは、一部のメモリ領域を PCI リソースに使用するため、使用可能容量に制限があります。

以下に拡張 RAM モジュールの搭載可能容量と使用可能容量を示します。

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows NT Server 4.0 (*1)	~ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
Windows 2000 Server (*1)	3.25 ~ 4.0GB	3.25 ~ 3.9GB (*2)
Windows 2000 Advanced Server	~ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.25 ~ 4.0GB	3.25 ~ 3.9GB (*2)
	4.0GB ~	搭載メモリ容量 - (0.1 ~ 0.75GB)(*2)

(*1) Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server は、最大 4GB までサポートします。

(*2) PCI リソースとして 0.1 ~ 0.75GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

なお、お使いの機種最大の搭載メモリ容量については、『ハードウェアガイド 第7章 技術情報』を参照してください。

■ 再起動時の注意

- インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージが表示されます。
 - Windows NT Server 4.0 の場合
1 分ほど待ってから、再起動してください。
 - Windows 2000 Server の場合
自動的に再起動するのを待ってください。
- SCSI アレイコントローラカードの機能である、バックグラウンド初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。バックグラウンド初期化処理については、SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。なお、電源は切らないでください。バックグラウンド初期化中に電源を切る必要がある場合は、SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

2.4.2 Windows 2000 Server をインストールする場合

■ CD-ROM ブートの確認

サーバ本体の BIOS 設定で、CD-ROM ブート可能であることを確認してください。

■ SBS 2000 の場合

SBS 2000 をインストールする場合は、4GB 以上の空き容量が必要です。

2.4.3 Windows NT Server 4.0 をインストールする場合

■ メモリ容量について

Windows NT Server 4.0 をインストールする場合のメモリ容量は最大 2GB です。2GB 以上のメモリ容量の場合は、OS のインストールができません。2GB を超えるメモリを増設する場合は、OS をインストールして Service Pack 適用後に増設してください。

■ 複数のハードディスクユニットを接続している場合

本サーバに複数のハードディスクユニットを接続し、Windows NT Server 4.0 をインストールする際に、ハードディスクユニットの容量が正しく表示されず、希望する区画（パーティション）を作成することができない場合があります。

この場合には、本体添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」で DOS プロンプトを起動し、FDISK コマンドを使用して Windows NT Server 4.0 を組み込むハードディスクユニットにあらかじめ 8MB の区画を作成します。その後 Windows NT Server 4.0 のインストールで区画設定を行うときに、作成した区画を削除し、新たに区画を作成し直します。

以下の手順に従って区画を作成してください。

- 1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。
ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、「4.3 保守ツールの作成」(P.104) を参照してください。
- 2 作成したフロッピーディスクをセットします。
MS-DOS 6.2 Startup Menu が表示されます。
- 3 「4.Basic (Japanese Environment)」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されたら、以下のコマンドを入力してください。
A:¥>fdisk 【Enter】
- 4 基本 MS-DOS 領域を作成します。
「1.MS-DOS 領域または、論理 MS-DOS ドライブを作成」を選択して、「1. 基本 MS-DOS 領域を作成」を選択します。以降、画面の指示に従って、8MB の基本 MS-DOS 領域を確保します。
- 5 区画の設定を終えたら、【Esc】キーを押し、FDISK を終了します。
- 6 Windows NT Server 4.0 のインストールを行います。

■ インストール時の注意

インストール時には、最初から CD-ROM をセットせずに、インストール画面で CD-ROM を要求された後にセットしてください。

第 3 章

サーバのインストール

この章では、サーバに OS をインストールする方法について説明しています。

3

3.1 OS インストールタイプの開封	36
3.2 ガイドモード	40
3.3 事前設定モード	58
3.4 エキスパートモード	64
3.5 複数台（2 台目以降）へのインストール	77
3.6 再インストール	81
3.7 OS の手動インストール	84

3.1 OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの場合は、開封作業が必要です。開封作業は、ServerStart を使用して行います。CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルをご使用の場合などは、「3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する」(P.39)を参照して開封作業を行ってください。

3.1.1 ServerStart を使用して開封する

開封するサーバに ServerStart CD-ROM をセットして開封します。ハードウェア構成を変更する場合は、開封作業完了後に行ってください。

POINT

- ▶ あらかじめ事前設定モードで各種設定を行い、コンフィグレーションファイルを作成して開封することもできます。この場合は、事前設定モードでのインストールと同様の操作になります。操作方法については、「3.3 事前設定モード」(P.58)を参照してください。

- 1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

重要

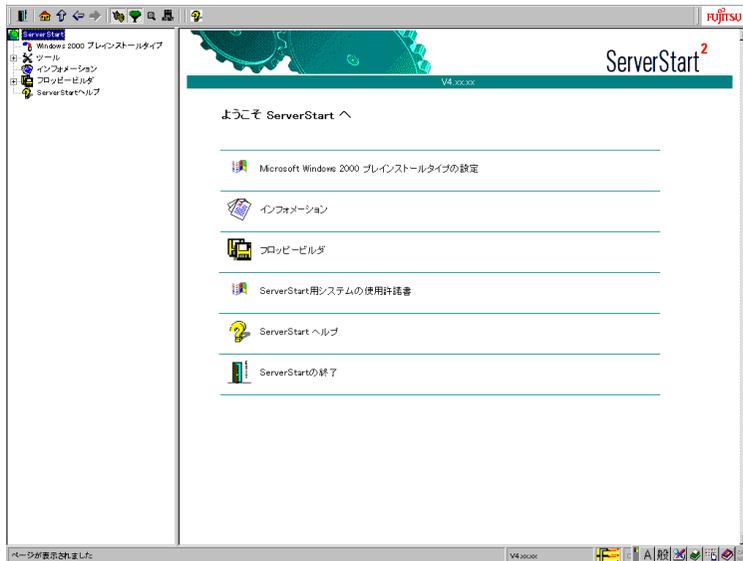
- ▶ 電源を入れた後、すぐに ServerStart CD-ROM をセットしてください。セットせずにいると、ハードディスクから OS が起動します。この場合は「3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する」(P.39)を参照して開封作業を行ってください。

- 2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成]をクリックします。
OS プレインストールタイプの開封を行うか、新規インストールを行うかのメッセージが表示されます。

- 3 [OK]をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



- 4 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。
- 5 [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



- 7 [Microsoft Windows 2000 プレインインストールタイプの設定] をクリックします。
プレインインストールモードが起動します。



- 8 [Windows 2000 インストールウィザード] [アプリケーションウィザード] を起動し、ウィザードに従って OS インストールタイプの開封情報を入力します。「3.2.5 OS インストールウィザード」(P.46) 「3.2.6 アプリケーションウィザード」(P.51) を参照して設定を行ってください。

 **重要**

▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。

9 [Windows 2000 のインストールを開始する] をクリックします。
メンテナンス区画の使用許諾画面が表示されます。

10 [OK] をクリックします。
ライセンス契約の同意画面が表示されます。

11 [同意する] をクリックします。
インストールが開始されます。以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

 **重要**

- ▶ 設定情報によって、途中アプリケーションの CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。指示に従って CD-ROM をセットして [OK] をクリックしてください。
- ▶ インストール中、あらかじめ設定した内容 (CD キーなど) に誤りがあると、エラーが表示されず。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。

12 完了メッセージが表示されます。何かキーを押します。

13 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。
これで OS インストールタイプの開封は終了です。
[アプリケーションウィザード] で「ServerView」を選択した場合は、インストール完了後、「SNMP Service」の「スタートアップの種類」の設定を「自動」に変更してください。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」(P.93) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する

以下の手順に従って、Windows 2000 Server のセットアップを行ってください。開封時の設定の詳細については『ファーストステップガイド』を参照してください。

- 1** サーバの電源を入れます。
Windows 2000 Server セットアップが起動します。
[次へ] をクリックして、セットアップを続行します。
- 2** ソフトウェア使用許諾契約に同意します。
表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、[同意します] を選択して [次へ] をクリックします。
- 3** 名前と組織名を入力します。
名前と組織名を入力し、[次へ] をクリックします。組織名は省略できます。
- 4** プロダクト ID を入力します。
本体側面に貼付の「Certificate of Authenticity」のバーコード上に印刷されている番号(プロダクト ID) を入力し、[次へ] をクリックします。
- 5** ライセンスモードが表示されます。設定を変更せずに [次へ] をクリックします。
- 6** コンピュータ名と、Administrator のパスワードを設定します。
コンピュータ名は自動的に作成され表示されますが、変更できます。コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力して [次へ] をクリックします。
- 7** ネットワークの設定を行います。
「カスタム設定」を選択した場合は、「ネットワークコンポーネントの設定」画面が表示されます。設定を行って [次へ] をクリックします。
- 8** ワークグループ、またはドメイン名の設定を行い、[次へ] をクリックします。
- 9** セットアップが開始されます。完了画面が表示されたら、[完了] をクリックします。
システムが再起動されます。
これで Windows 2000 Server のセットアップは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」(P.93) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.2 ガイドモード

ガイドモードでは、ウィザードに従って、ハードウェアの構成やインストール OS の設定等を行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存後、引き続き OS をインストールします。

3.2.1 ガイドモードの起動

ガイドモードを起動します。

- 1 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

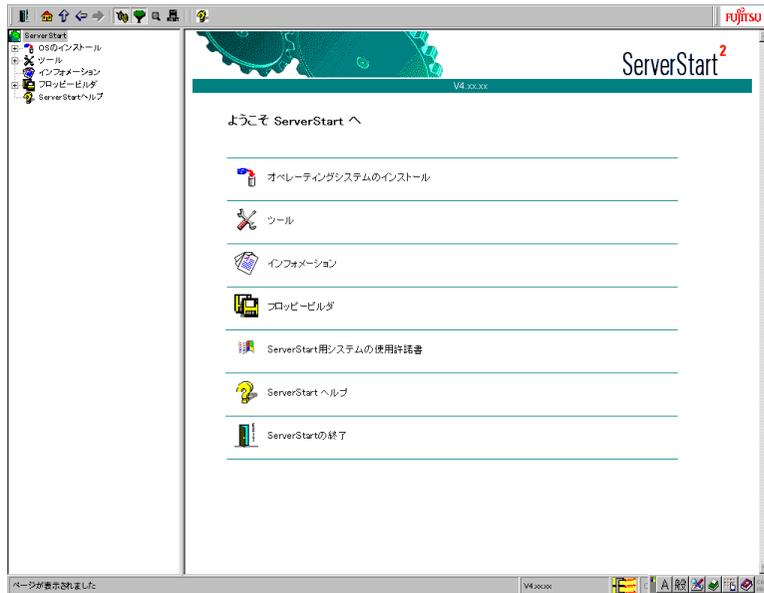


- 2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



- 3 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクが作成されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

- 5** [OK]をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

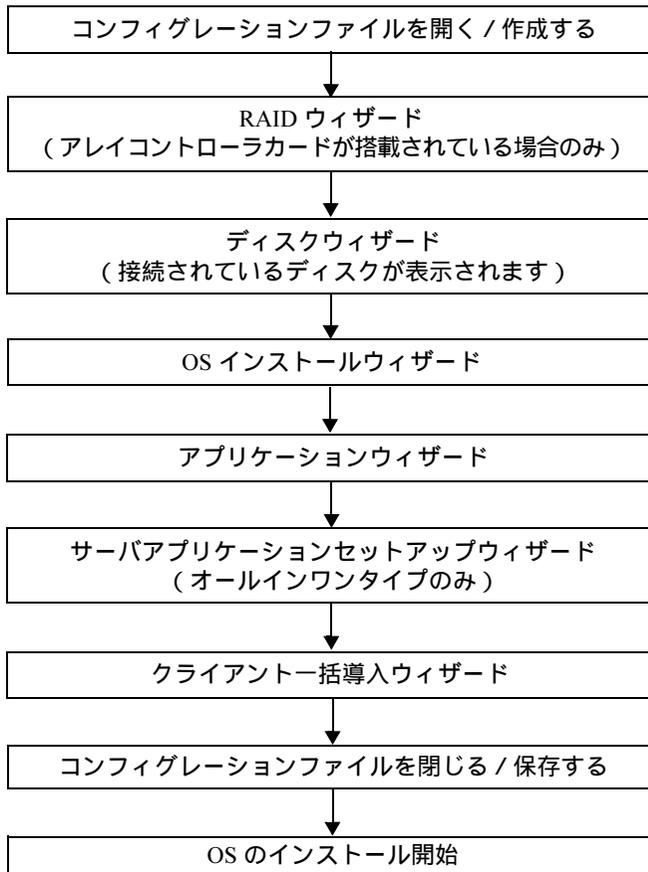


- 6** [オペレーティングシステムのインストール]をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
- 7** [Microsoft Windows Operating Systems のインストール]をクリックします。
「Microsoft Windows Operating Systems のインストール」画面が表示されます。
- 8** インストールする OS を選択します。

9 [(OS)のインストール - ガイドモード]をクリックします。
 選択したOSのガイドモードが起動します。



以下の流れで、各ウィザードを起動して設定を行ってください。
 ウィザードを終了すると、ガイドモード画面に戻ります。



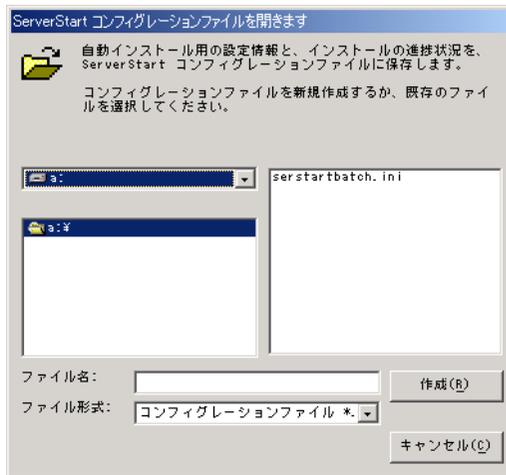
重要

- ▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。
- ▶ システム構成ウィザードについて
通常は、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する

コンフィグレーションファイルを開きます。または、新規に作成します。

- 1 [コンフィグレーションファイルを開く / 作成する] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

**重要**

- ▶ 一度コンフィグレーションファイルを開くと、[コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する] をクリックするまで、別のファイルを読み込むことはできません。

- 2 コンフィグレーションファイルを選択して、[作成] をクリックします。

3.2.3 RAID ウィザード

RAID の構成を行います。ガイドモードでは、アレイコントローラカードが搭載されている場合のみ、RAID ウィザードが表示されます。

重要

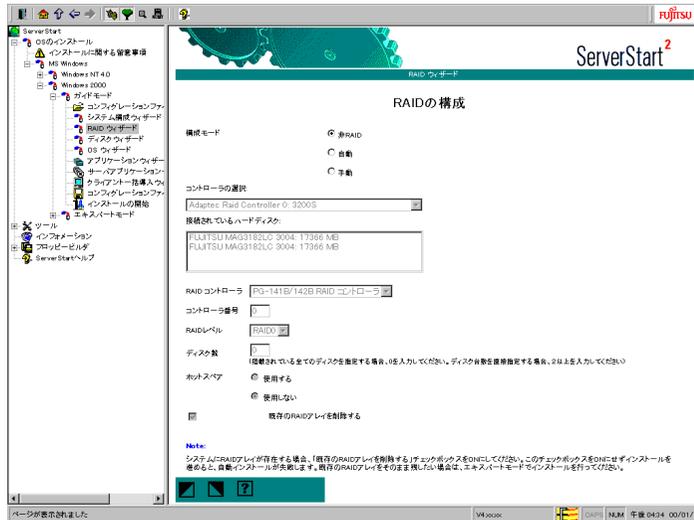
- ▶ アレイコントローラカードを変更する場合は、フィジカルバックを削除してから搭載カードを変更してください。フィジカルバックの削除方法は、サーバ本体、または各アレイコントローラカードのマニュアルを参照してください。

1 [RAID ウィザード] をクリックします。

「RAID の構成」画面が表示されます。

すでに組み込まれているアレイコントローラカードのみ表示されます。

また、アレイコントローラカードに接続されているディスク数が表示されます。

**2** 各項目を設定し、[ (ウィザード終了)] をクリックします。

RAID ウィザードが終了します。

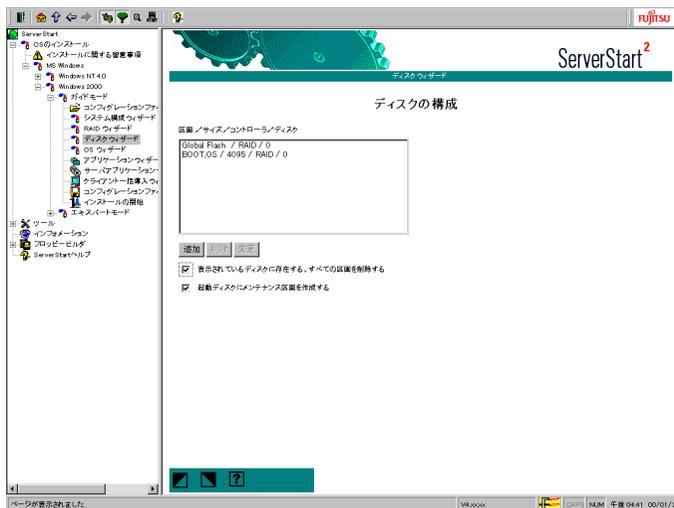
3.2.4 ディスクウィザード

ハードディスクの区画作成とフォーマットを行います。

重要

- ▶ ディスクウィザード起動時には、デフォルト値が設定されています。必ず[変更] をクリックして、内容を確認してください。また、必要に応じて適切な設定に変更してください。

- 1 [ディスクウィザード] をクリックします。
「ディスクの構成」画面が表示されます。



POINT

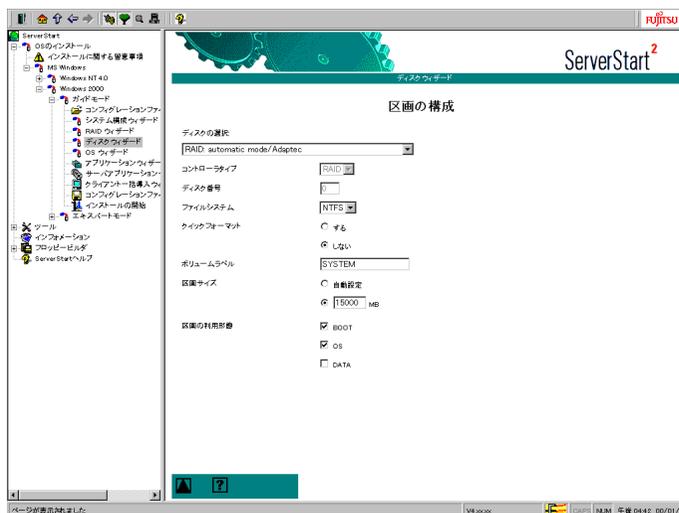
- ▶ インストール先ディスクに、すでに区画が存在する場合は、「表示されているディスクに存在する、すべての区画を削除する」にチェックを付けてください。
- ▶ インストール先ディスク以外のディスクで、すでにアクティブパーティションが存在する場合は、アクティブパーティションが存在するディスクに区画を作成後、「表示されているディスクに存在する、すべての区画を削除する」にチェックを付けてください。

- 2 必要に応じて、パーティションを追加 / 削除 / 変更します。

パーティションを追加する

1. [追加] をクリックします。

「区画の構成」が表示されます。



 **重要**

- ▶ FAT ファイルシステムの区画サイズについて
「ファイルシステム」に「FAT」を選択し、「区画サイズ」を 4095MB 以上または「自動設定」に指定した場合は、区画サイズは 4095MB で作成されます。
- ▶ ボリュームラベルの文字制限について
ボリュームラベルには次の文字数制限があります。制限以上入力できる場合がありますが、インストールに失敗する可能性がありますので、制限内で入力してください。
 - ・ FAT 全角 5 文字（半角 11 文字）以内
 - ・ NTFS 全角 / 半角 32 文字以内

2. 各項目を設定し、（上へ）をクリックします。
パーティションリストに新しいパーティションが追加されます。
パーティションを削除する
 1. 削除するパーティションを選択して、 をクリックします。
パーティションが削除されます。
パーティションの構成を変更する
 1. 変更するパーティションを選択して、 をクリックします。
「区画の構成」が表示されます。
 2. 各項目を設定し直し、（上へ）をクリックします。
パーティションが変更されます。

- 3 設定が終了したら、（ウィザード終了）をクリックします。
ディスクウィザードが終了します。

 **重要**

- ▶ 「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」がチェックされていない場合は、確認メッセージが表示されます。メンテナンス区画を作成する場合は  をクリックしてください。

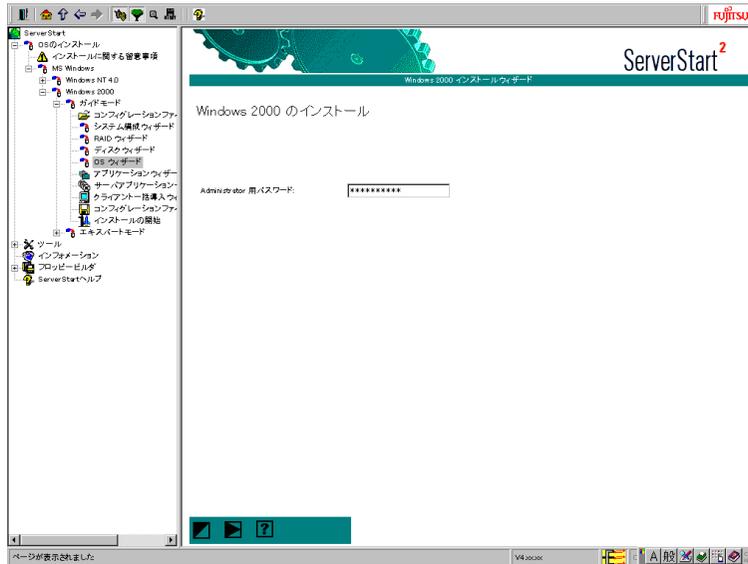
3.2.5 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメインコントローラを構成する場合は、「B ネットワークパターン別 設定方法」（P.241）を参照してください。

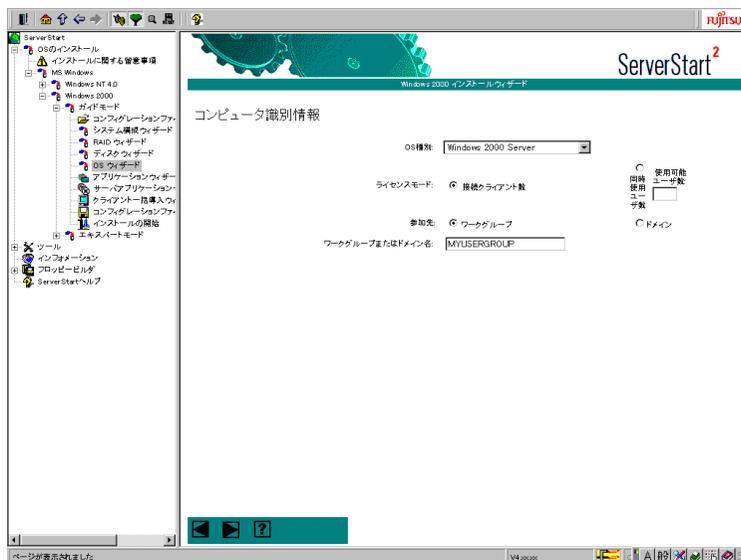
 **POINT**

- ▶ インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

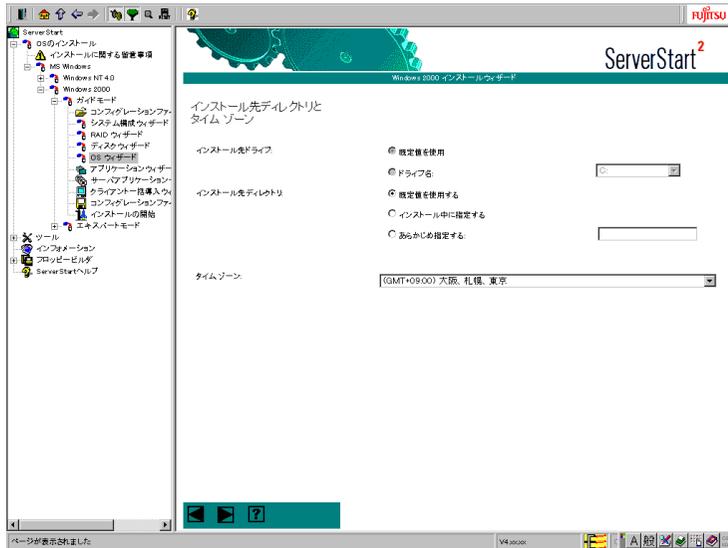
- 1 [Windows 2000 インストールウィザード] をクリックします。
「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。



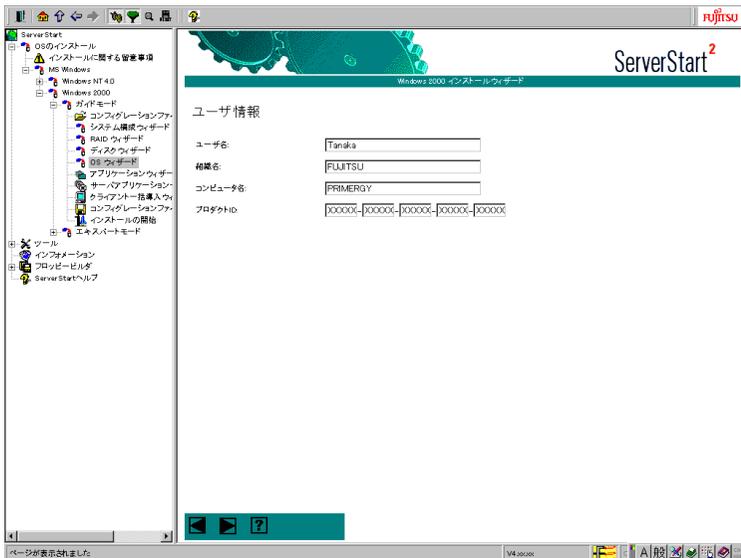
- 2 Administrator 用パスワードを入力して、[ (次へ)] をクリックします。
「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。



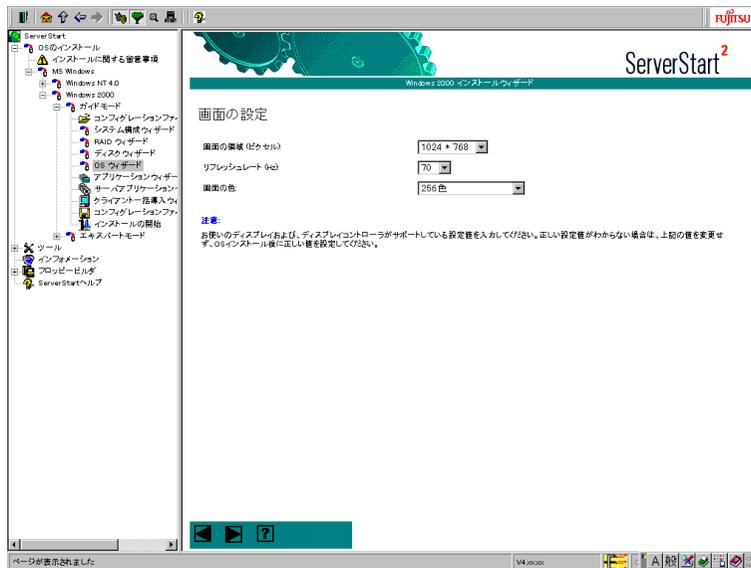
- 3 各項目を設定し、[▶(次へ)]をクリックします。
「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面が表示されます。



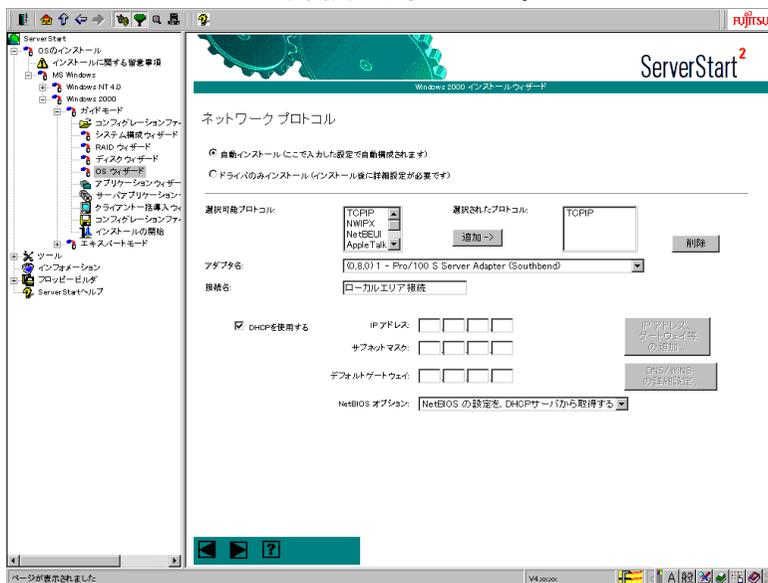
- 4 各項目を設定し、[▶(次へ)]をクリックします。
「ユーザ情報」画面が表示されます。



- 5 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「画面の設定」画面が表示されます。
OS インストールタイプ開封の場合は、手順 6 に進みます。



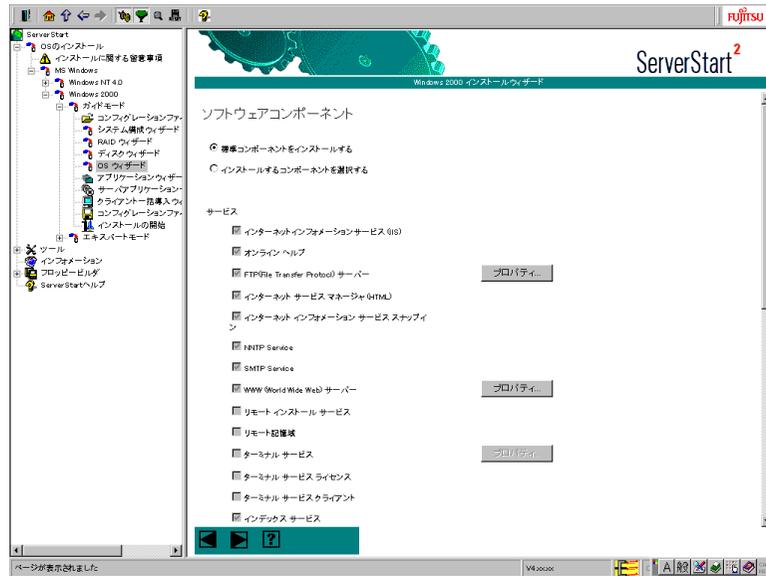
- 6 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。



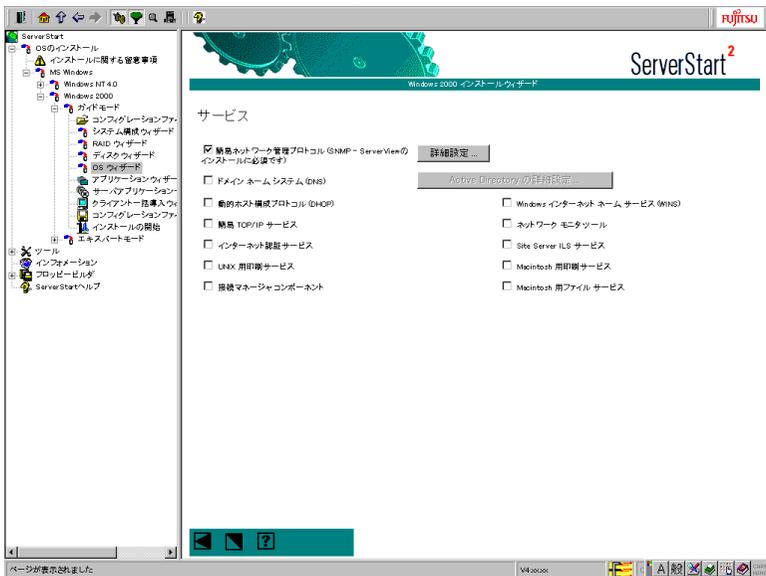
重要

▶ インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手でネットワークの設定を行う」をチェックすると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

- 7 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。



- 8 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「サービス」画面が表示されます。



- 9 各項目を設定し [ (ウィザード終了)] をクリックします。
OS インストールウィザードが終了します。

3.2.6 アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

- 1 [アプリケーションウィザード] をクリックします。
アプリケーションウィザードが表示されます。



重要

- ▶ WizardConsole をインストールする場合
クライアントの導入や、クライアントのインストール / セットアップ等を行う場合は、WizardConsole をチェックしてください。WizardConsole をインストールするには、OS インストールウィザードで、以下のように設定してください。
 - ・ Windows NT 4.0 の場合、「コンピュータ情報」画面で「コンピュータ種別」を「プライマリドメインコントローラ」に設定してください。
 - ・ Windows 2000 の場合は、「サービス」画面で、「ドメインネームシステム (DNS)」を選択し、「Active Directory の詳細設定」をクリックして「Active Directory をインストールする」を設定してください。
- ▶ ServerStart を使用した Service Pack のインストール
ServerStart では CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack をインストールすることができます。CD-ROM のラベルに記載されていない Service Pack をインストールする場合は、ServerStart で OS のインストールを完了後、手動で Service Pack のインストールを行ってください。

- 2 「インストール可能なアプリケーション」リストから、インストールするアプリケーションを選択し、[>>] をクリックします。
インストールするアプリケーションをすべて「インストールするアプリケーション」リストに設定してください。
- 3 [■ (ウィザード終了)] をクリックします。
アプリケーションウィザードが終了します。

3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード

オールインワンタイプをご購入の場合は、インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。

- 1 [サーバアプリケーションセットアップウィザード] をクリックします。
- 2 「サーバアプリケーションセットアップ」 をクリックします。
「アプリケーション一覧」が表示されます。
サーバアプリケーションセットアップで自動インストール可能なアプリケーションは、オールインワンタイプに添付されているアプリケーションのみです。
- 3 インストールするサーバアプリケーションを選択し、[アプリケーション] - [アプリケーション設定] をクリックします。
「アプリケーション資源の設定」画面が表示されます。
- 4 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。
「アプリケーションのインストールパラメータ設定」画面が表示されます。設定画面は、アプリケーションごとに異なります。

重要

- ▶ ARCserve 2000 をインストールする場合は、「BrightStor ARCserve 2000/ARCserve 2000」を選択し、「アプリケーション資源の設定」画面の「アプリケーション CD-ROM ボリューム名」を「As2000aewe」に変更してください。
- ▶ ヘルプには、インストールに関する重要な情報を記載しています。必ず参照してください。また、各アプリケーションの詳細については、アプリケーション添付のマニュアルを参照してください。

- 5 各項目を設定し終わったら、[完了] をクリックします。
「サーバアプリケーションセットアップ」に戻ります。インストールするサーバアプリケーションごとに設定を行ってください。
- 6 [アプリケーション] - [終了] をクリックします。
「セットアップウィザード」に戻ります。
- 7  (ウィザード終了) をクリックします。
ガイドモード画面に戻ります。

3.2.8 クライアント一括導入ウィザード

プライマリドメインコントローラや Active Directory を導入する場合は、ドメインにコンピュータ、ユーザアカウント等を作成できます。

重要

- ▶ クライアント一括導入ウィザードを実行する場合は、[アプリケーションウィザード]で WizardConsole を選択してください。また、OS インストールウィザードで、ドメインコントローラの設定を行う必要があります。詳細は、「B ネットワークパターン別 設定方法」(P.241)を参照してください。

POINT

- ▶ クライアントの導入設定は、インストール終了後に WizardConsole でも設定できます。WizardConsole について詳しくは、「第 5 章 高信頼ツール」(P.119)を参照してください。

1 [クライアント一括導入ウィザード]をクリックします。**2**  「クライアントシステム設計」をクリックします。

サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

クライアントシステム設計の設定方法

1. [クライアントシステム設計]をクリックします。
「コンピュータの設定」画面が表示されます。あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。
2. サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。
[追加]([変更])をクリックすると、「コンピュータの追加/変更」画面が表示されます。
 1. 項目を設定して、[追加]([変更])をクリックします。
続けて追加するコンピュータを設定できます。
 2. すべてのコンピュータを設定後、[閉じる]をクリックします。
コンピュータ情報が登録され、「コンピュータの設定」画面に戻ります。

重要

- ▶ 256 件のコンピュータが登録されているサーバ情報ファイル (WizardConsole で作成) を読み込んだとき、設計中のコンピュータ 1 件と、読み込んだ 256 件 (No.2 ~ No.257) の計 257 件が表示されることがあります。この場合、登録されるのは No.2 ~ No.257 の 256 件のみです。No.258 も入力可能状態になりますが、入力は無効になります。

3. [次へ]をクリックします。
「グループの設定」画面が表示されます。あらかじめ設計しているサーバで予約されているグループ名が表示されます。
4. サーバを利用するグループを登録します。
[追加]([変更])をクリックすると、「グループの追加/変更」画面が表示されます。
 1. 項目を設定して、[追加]([変更])をクリックします。
続けて追加するグループを設定できます。
 2. すべてのグループを設定後、[閉じる]をクリックします。
グループ情報が登録され、「グループの設定」画面に戻ります。

 **重要**

▶ 設計しているサーバで予約されているグループ名は作成できません。

5. [次へ] をクリックします。
「ユーザの設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されているユーザ名が表示されます。
6. サーバを利用するユーザの情報を登録します。
[追加]([変更]) をクリックすると、「ユーザの追加/変更」画面が表示されます。
 1. 項目を設定して、[追加]([変更]) をクリックします。
続けて追加するユーザを設定できます。
 2. すべてのユーザを設定後、[閉じる] をクリックします。
ユーザ情報が登録され、「ユーザの設定」画面に戻ります。

 **重要**

▶ ここではユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも、運用開始時に、必ずパスワードを設定してください。
▶ 設計しているサーバで予約されているユーザ名は作成できません。

7. [次へ] をクリックします。
「共有資源の設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されている共有名が表示されます。
8. ユーザ、グループ等で共有して利用するフォルダ名を登録します。
[追加]([変更]) をクリックすると、「共有資源の追加/変更」画面が表示されます。

 **重要**

▶ 8.3 形式 (xxxxxxxx.xxx) より長いフォルダ名の場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。

1. 項目を設定して、[追加]([変更]) をクリックします。
続けて追加する共有資源を設定できます。
2. すべての共有資源を設定後、[閉じる] をクリックします。
共有資源情報が登録され、「共有資源の設定」画面に戻ります。
9. [完了] をクリックします。
「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
10. 関連付けの操作を行います。
関連付けの操作については、「6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け」(P.153) を参照してください。

3 [ (次へ)] をクリックします。
「クライアントセットアップ」アイコンが表示されます。

4  「クライアントセットアップ」をクリックします。
クライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアントで実行するコマンドを指定します。設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、「6.5 クライアントセットアップ」(P.162) を参照してください。

- 5 [ (次へ)] をクリックします。
「デスクトップ設計」アイコンが表示されます。
- 6  「デスクトップ設計」をクリックします。
サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。
設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、「6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する」(P.172) を参照してください。
- 7 [ (ウィザード終了)] をクリックします。
クライアント一括導入ウィザードが終了します。

3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する

すべてのウィザードの設定が終了したら、コンフィグレーションファイルを保存します。

- 1 [コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルの保存」画面が表示されます。
- 2 [保存] をクリックします。
コンフィグレーションファイルが保存されます。

重要

- ▶ コンフィグレーションファイルの名前は任意に指定できますが、OS インストールが可能な名前は SerStartBatch.ini のみです。OS インストールを行う場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに SerStartBatch.ini という名前で保存してください。

3.2.10 インストールの開始

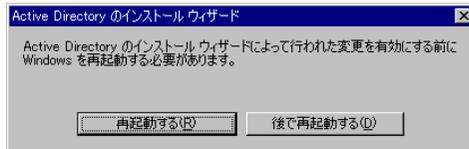
続けてサーバに OS をインストールします。
インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作を行わないでください。インストールに失敗する原因になります。

- 1 [(OS)のインストールの開始]をクリックします。
「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



- 2 [開始]をクリックします。
RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。メンテナンス区画で使用する MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は [OK] をクリックします。
ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。
- 3 PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
ファイルのコピーが行われ、終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。
 1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
 2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 4 OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
ライセンス契約の画面が表示されます。
- 5 [同意する] をクリックします。
ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。
- 6 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。
システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。
自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

7 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する]をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

8 サーバアプリケーションのインストールが行われます。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。



アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされた後、CD-ROM ドライブの CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

9 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストールはすべて自動で行われます。

10 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。
パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。

POINT

- ▶ 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

11 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

12 システムを再起動します。

「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリックし、「再起動」を選択して [OK] をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.3 事前設定モード

事前設定モードでは、Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional がインストールされているコンピュータ(CD-ROM ドライブ搭載、空き容量 10MB 以上)で、インストールに必要な情報を設定し、コンフィグレーションファイルに保存します。保存したコンフィグレーションファイルをサーバにセットしてインストールを行います。

3.3.1 事前設定モードの起動

事前設定モードを起動します。

- 1 事前設定を行うクライアントコンピュータに、すでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストール方法については、「A.14 ServerStart のアンインストール」(P.224)を参照してください。

重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能や、インストールウィザード機能が正常に動作しない可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

- 2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。
「ServerStart Launcher」画面が表示されます。
「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。
はじめて ServerStart をインストールする場合は、次の画面が表示されます。



- 3** すべてチェックされた状態を確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。

インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



- 4** [フロッピービルダ] をクリックします。
「フロッピービルダ」画面が表示されます。



- 5** [ServerStart フロッピーディスクの作成] をクリックします。
フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 6** 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」とメッセージが表示されます。

7 [はい] をクリックします。

ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了メッセージが表示されます。

8 [OK] をクリックします。

9 画面左側に表示されているツリーの、[OS のインストール - 事前設定モード] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

重要

▶ インストール開始前に、[インストールに関する留意事項] をクリックし、参照してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

10 [Microsoft Windows Operating Systems のインストール - 事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

11 インストールする OS を選択します。

「事前設定インストール」画面が表示されます。



3.3.2 各ウィザードの設定を行う

以下の流れで、各ウィザードをクリックして設定を行ってください。設定方法については、ガイドモードの各ウィザード(「3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く / 作成する」(P.43) ~ 「3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する」(P.55))を参照してください。ウィザードを終了すると、事前設定モード画面に戻ります。



重要

- ▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。
- ▶ システム構成ウィザードについて
通常は、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

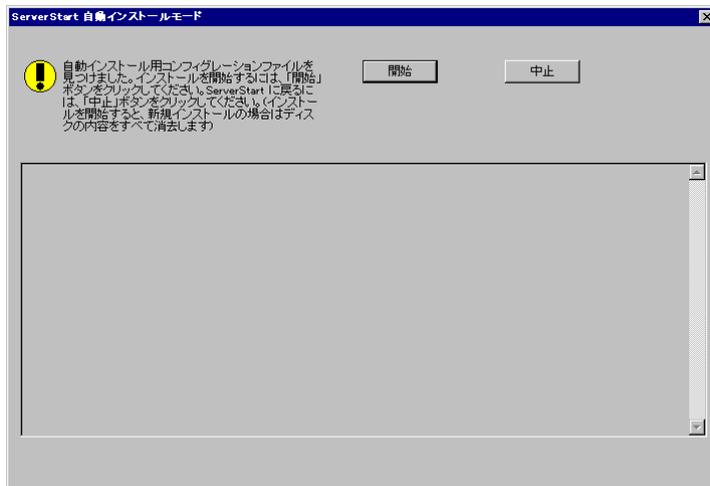
3.3.3 インストールの開始

作成したコンフィグレーションファイルを使用して、サーバに OS をインストールします。インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作は行わないでください。インストールに失敗する原因になります。

- 1 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

- 2** 作成したコンフィグレーションファイルをセットして、[OK] をクリックします。

「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



- 3** [開始] をクリックします。

RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。再起動後、MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は [OK] をクリックします。

ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

- 4** PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。

1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。

OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

- 5** OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

- 6** [同意する] をクリックします。

ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

- 7** CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。

システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。

自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

- 8** 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

- 9** サーバアプリケーションのインストールが行われます (オールインワンタイプのみ)。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。



アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされた後、CD-ROM ドライブの CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

- 10** RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストールはすべて自動で行われます。

- 11** インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。
パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- ▶ 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

- 12** インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

- 13** システムを再起動します。

「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して [OK] をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.4 エキスパートモード

エキスパートモードでは、ウィザードを使用せず、ディスク構成ツールや RAID 構成ツールなどを起動してハードウェアの構成を行い、インストールを行います。

3.4.1 エキスパートモードの起動

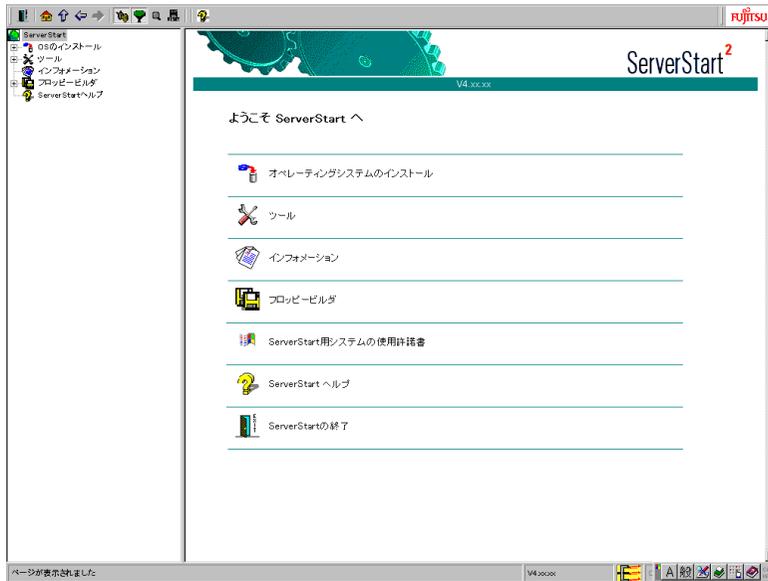
エキスパートモードを起動します。

- 1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



- 3 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」とメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了メッセージが表示されます。

- 5** [OK]をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

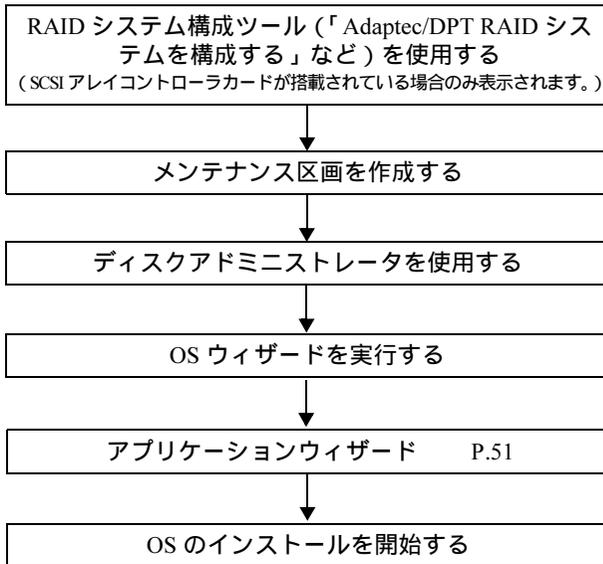


- 6** [オペレーティングシステムのインストール]をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」が表示されます。
- 7** [Microsoft Windows Operating System のインストール]をクリックします。
- 8** インストールする OS を選択します。

9 [エキスパートモード]をクリックします。
エキスパートモードが起動します。



以下の流れで、各設定ツールを起動して設定を行ってください。各ツールでの設定終了後、エキスパートモード画面に戻ります。



POINT

- ▶ エキスパートモードには、ハードウェア構成を行う際に、構成ツールの起動の順番を制御することができる「ガイダンス機能」があります。ガイダンス機能が有効になっていると、ディスクの構成が完了していないと OS のインストールを開始できないなどの制御ができます。ガイダンス機能の ON / OFF は、ServerStart ナビゲーションバーの [自動ガイド] アイコンをクリックして指定します。
- ▶ ガイダンス機能が有効になっている場合、構成ツールを起動できる時は、信号アイコンが青色になります。赤色の場合は、構成ツールを起動できません。

重要

- ▶ サーバ構成ウィザードについて
通常は、サーバ構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

3.4.2 RAID システム構成ツール

RAID の構築を行います。

POINT

- ▶ 搭載しているアレイコントローラカードによってタイトル名が異なります。ここでは、PG-142B カードを搭載した場合を例にとって説明しています。
- ▶ 各項目の詳細については、各 RAID 管理ツールのヘルプを参照してください。
- ▶ RAID 構成ツールおよびヘルプは、英語表記です。

- 1** [Adaptec/DPT RAID システムを構築する] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が表示されます。
- 2** RAID 構成を設定します。
RAID 構成の設定方法は、ヘルプを参照してください。
- 3** 「FILE」メニューから「Exit Adaptec Storage Manager」を選択し、[OK] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が終了し、再起動の確認画面が表示されます。
- 4** [はい] をクリックして再起動します。
再起動後、再度エキスパートモードを起動してください。

3.4.3 メンテナンス区画の作成

メンテナンス区画作成ツールを起動してメンテナンス区画 (Global Flash 区画) を作成します。メンテナンス区画は、サーバ保守用アプリケーションをインストールするための区画です。サポートサービスをご利用される場合は、メンテナンス区画が必要となりますので、必ずメンテナンス区画を作成してください。

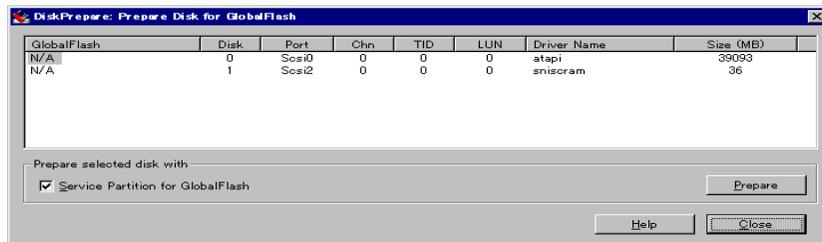
重要

- ▶ 起動ディスクに区画が存在している場合は、ディスクアドミニストレータを使ってすべての区画を削除しておく必要があります。
- ▶ メンテナンス区画作成ツール、ヘルプは英語表記となります。

- 1** [メンテナンス区画を作成する] をクリックします。
MS-DOS の使用許諾メッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

「DiskPrepare: Prepare Disk for GlobalFlash」画面が表示されます。

**3** 作成先ディスクを選択して、[Prepare] をクリックします。

メンテナンス区画が作成されます。

4 [Close] をクリックします。

エキスパートモードの画面に戻ります。

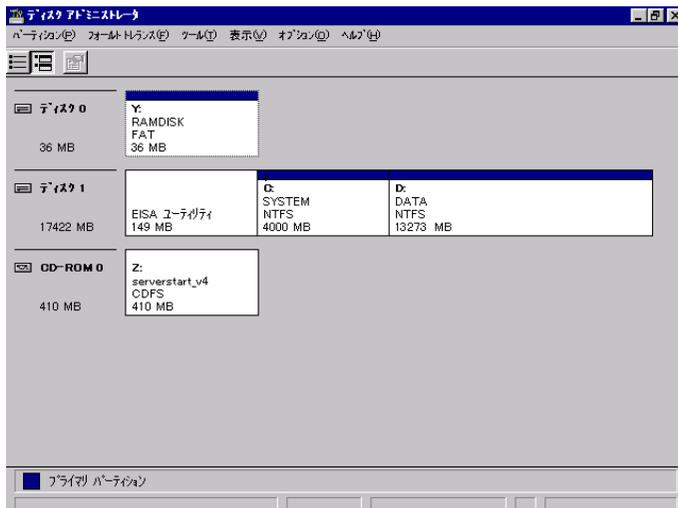
3.4.4 ディスクアドミニストレータ

ディスクアドミニストレータを起動して、区画を作成してフォーマットを行います。ディスクアドミニストレータの詳細については、ヘルプを参照してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画（Global Flash 区画）を作成する場合、起動ディスク（アクティブパーティションを作成するディスク）に存在するすべての区画を削除してください。
- ▶ アクティブパーティションを、必ず C ドライブに設定してください。
- ▶ RAID システム構成ツールで RAID 構築を行っても、ディスクアドミニストレータを起動した時に、以前の区画情報が残っている場合があります。この場合、ディスクのすべての区画を削除し、新しく区画を作成し直してください。
- ▶ 設定可能な区画サイズに制限があります。「A.1 インストール先区画サイズについて」(P.212) を参照して、設定可能な区画サイズを確認してください。
- ▶ すでに Windows 2000 Server を NTFS 区画にインストールしている環境に、Windows NT Server 4.0 はインストールできません。区画をすべて削除してから、インストールしてください。

- 1 [ディスクアドミニストレータを使用する] をクリックします。
ディスクアドミニストレータが起動します。



- 2 使用する区画を作成し、フォーマットします。
- 3 「パーティション」メニューから [ディスクアドミニストレータの終了] を選択します。
ディスクアドミニストレータを終了し、エキスパートモードの画面に戻ります。

3.4.5 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメインコントローラを構成する場合は、「B ネットワークパターン別 設定方法」(P.241) を参照してください。

POINT

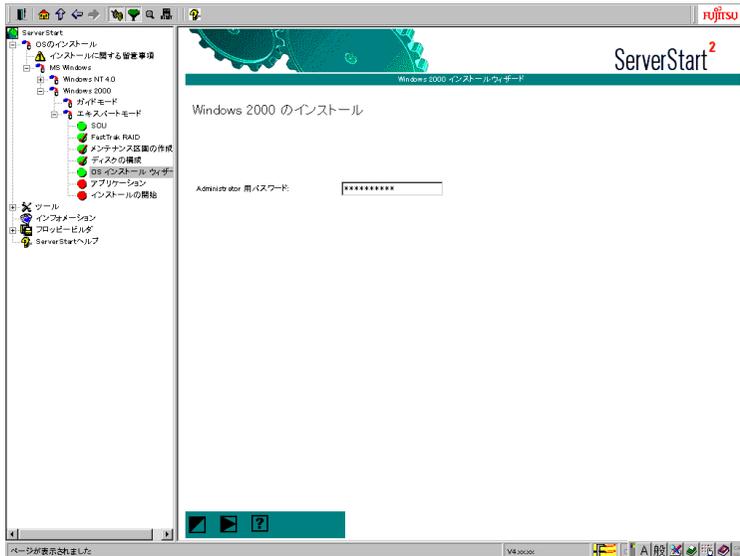
- ▶ インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

- 1 [Windows 2000 ウィザードを実行する] をクリックします。
コンフィグレーションファイルを指定するメッセージが表示されます。



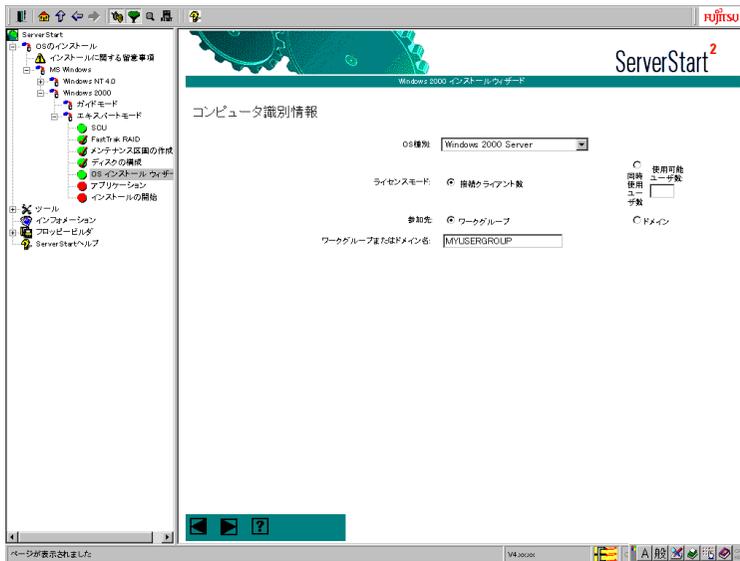
2 [いいえ] をクリックします。

「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。

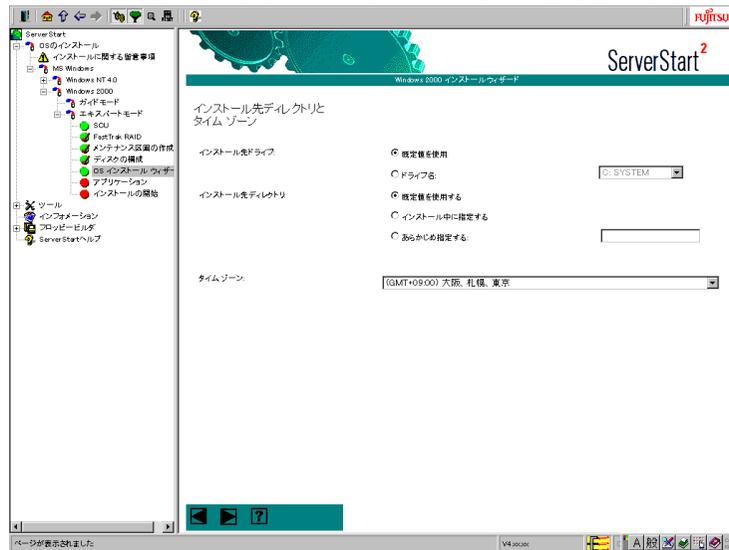


3 Administrator のパスワードを入力し、[▶(次へ)] をクリックします。

「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。



- 4 各項目を設定し、[▶(次へ)]をクリックします。
「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面が表示されます。



- 5 各項目を設定し、[▶(次へ)]をクリックします。
「ユーザ情報」画面が表示されます。



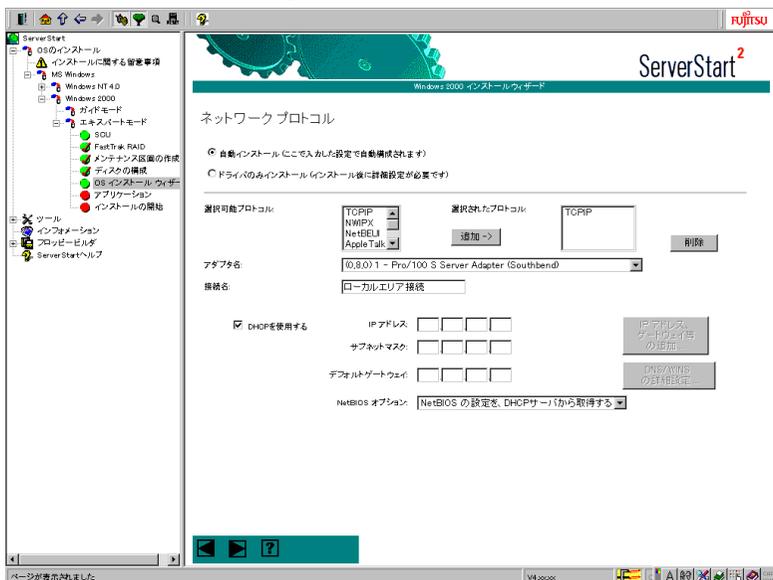
- 6** 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
 「画面の設定」画面が表示されます。プレインストールモードの場合は、手順 **7** に進みます。



 **重要**

- インストールするOSがWindows NT Server 4.0の場合は、正しい設定値がわからない場合でも、「ログオン後に画面設定を行う」にはチェックを付けずに、初期設定のまま [次へ] をクリックしてください。「ログオン後に画面設定を行う」にチェックを付けてインストールを行った場合、インストールは正常に行われますが、イベントログに複数のエラーが検出されます。

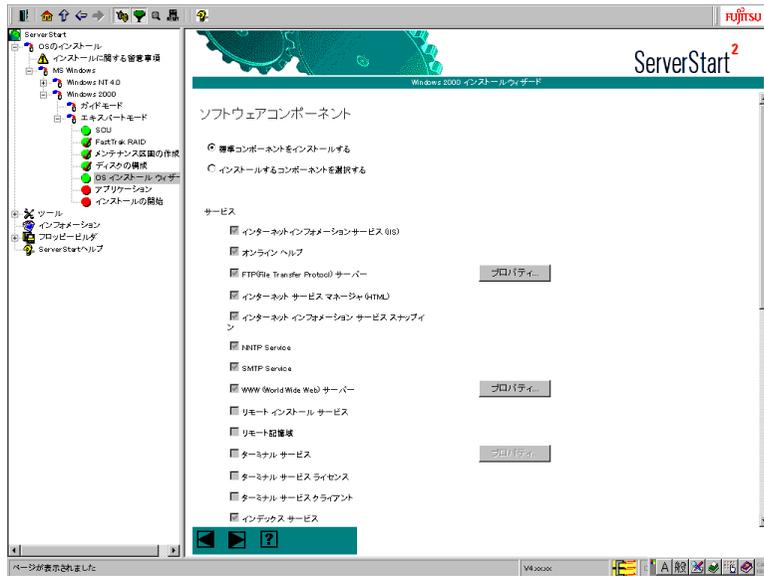
- 7** 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
 「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。



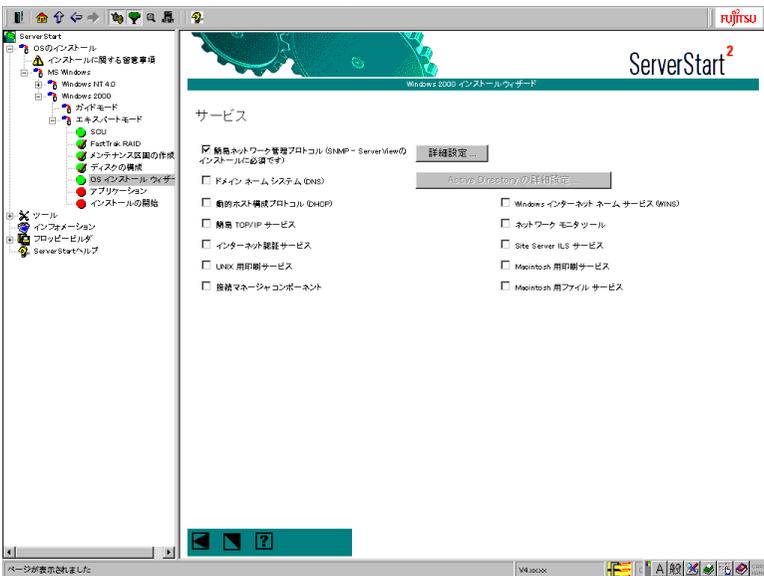
重要

- ▶ インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」をチェックを付けると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

- 8 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。



- 9 各項目を設定し、[ (次へ)] をクリックします。
「サービス」画面が表示されます。



- 10 各項目を設定し、[ (ウィザード終了)] をクリックします。
エキスパートモードの画面に戻ります。

3.4.6 アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

アプリケーションウィザードの詳細については、「3.2.6 アプリケーションウィザード (P.51)」を参照してください。

3.4.7 インストールの開始

OS をインストールします。

重要

- ▶ インストール用の区画が空き区画でない場合は、確認メッセージが表示されます。問題がない場合は、[OK] をクリックしてインストールを続行してください。
- ▶ インストール中、あらかじめ設定した内容 (CD キーなど) に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。

1 [Windows 2000 のインストールを開始する] をクリックします。

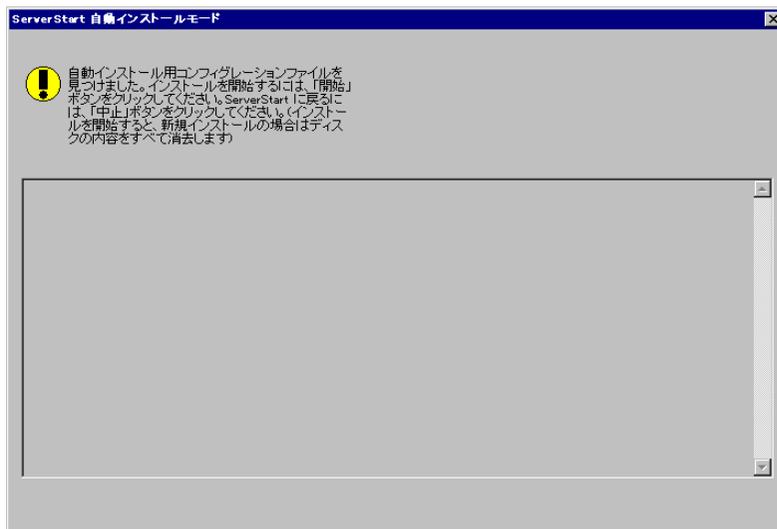
現在の設定を保存するか、確認画面が表示されます。

2 [はい] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルのバックアップコピー」画面が表示されます。



- 3** ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。
「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

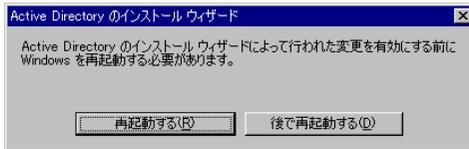
- 4** PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
ファイルのコピーが行われます。
終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。

1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。

OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

- 5** OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
ライセンス契約の画面が表示されます。
- 6** [同意する] をクリックします。
ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。
- 7** CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。
システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。
自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

8 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する]をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

9 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストールはすべて自動で行われます。

10 インストール OS が Windows NT 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。
パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- ▶ 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

11 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

12 システムを再起動します。

「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して[OK] をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.5 複数台（2台目以降）へのインストール

ServerStart を使用して、複数台のサーバをインストールする方法について説明します。

同じ機種で同じ構成のサーバを複数台インストールする場合は、1台目のインストール時に作成したコンフィグレーションファイルを編集して、2台目以降をインストールすることができます。これにより、設定時間の短縮が図れます。ただし、1台目のインストールを、ServerStart を使用してガイドモードまたは事前設定モードで行う必要があります。

重要

- ▶ 1台目のサーバに添付されている ServerStart のバージョンと、2台目以降のサーバに添付されている ServerStart のバージョンが同じであることを確認してください。バージョンが違う場合、この方法でのインストールはできません。

3.5.1 インストールの準備

■ 必要なソフトウェア

2台目以降のサーバをインストールするには、次のソフトウェアが必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- インストールする OS の CD-ROM
- Service Pack CD-ROM
- ServerStart CD-ROM
- ServerStart フロッピーディスク
 - A：1台目のインストール時に使用したコンフィグレーションファイルの入った「ServerStart フロッピーディスク」
 - B：2台目以降のサーバに添付されている ServerStart CD-ROM に添付の「ServerStart フロッピーディスク」
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD（ServerView のインストール）
- インストールするサーバアプリケーションの CD-ROM（ARCserve2000、ServerProtect 等）

■ インストール前の操作

インストールの前に、次の作業を行ってください。

A をコピー元、B をコピー先として Windows Explorer またはコマンドプロンプトでディスクコピーを実行してください。

3.5.2 ガイドモードでインストールを行う

ガイドモードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。

- 1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 2 事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
- 3 [ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する] をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
- 4 [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
- 5 [Microsoft Windows Operating System のインストール] をクリックします。
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。
- 6 インストールする OS をクリックします。
- 7 [(OS) のインストール - ガイドモード] をクリックします。
 - ・ Windows NT 4.0 の場合は、[Windows NT 4.0 のインストール - ガイドモード] をクリックします。
 - ・ Windows 2000 の場合は、[Windows 2000 のインストール - ガイドモード] をクリックします。
 ガイドモードが起動します。
- 8 [コンフィグレーションファイルを開く / 作成する] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。
- 9 A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して、[開く] をクリックします。
ガイドモードの画面に戻ります。
各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.2 ガイドモード」(P.40) を参照してください。

各ウィザードの設定項目には、1 台目のインストール時に設定した内容が設定されています。2 台目以降のインストールでは、[OS インストールウィザード] の、以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

変更しないウィザードは、起動する必要はありません。

1 台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、もう一度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.5.3 事前設定モードでインストールを行う

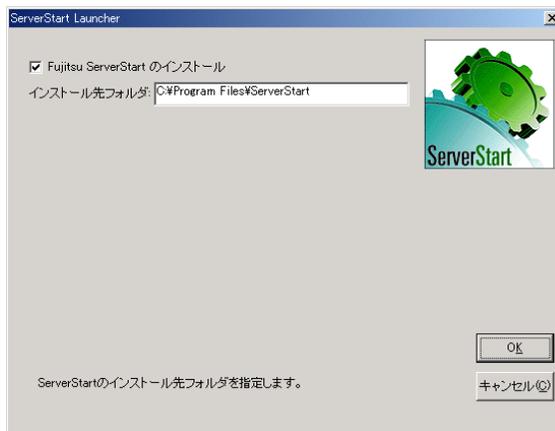
事前設定モードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。あらかじめ事前設定モードを実行するクライアントコンピュータを用意してください。

- 1 事前設定を行うクライアントコンピュータに、すでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストール方法については、「A.14 ServerStart のアンインストール」(P.224)を参照してください。

重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能や、インストールウィザード機能が正常に動作しない可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

- 2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。
「ServerStart Launcher」画面が表示されます。
「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。
はじめて ServerStart をインストールする場合は、次の画面が表示されます。



- 3 [Microsoft Windows Operating Systems のインストール - 事前設定モード] をクリックします。
「Microsoft Windows Operating Systems のインストール」画面が表示されます。
- 4 インストールする OS を選択します。
 - ・ Windows NT 4.0 の場合は、[Microsoft Windows NT 4.0 新規インストール - 事前設定モード] をクリックします。
 - ・ Windows 2000 の場合は、[Microsoft Windows 2000 新規インストール - 事前設定モード] をクリックします。
 事前設定モードが起動します。

- 5** フロッピーディスクドライブに、事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをセットし、[コンフィグレーションファイルを開く / 作成する] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

- 6** A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して、[開く] をクリックします。事前設定モードの画面に戻ります。

各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.3 事前設定モード (P.58)」を参照してください。各ウィザードの設定項目には、1 台目のインストール時に設定した内容が設定されています。2 台目以降のインストールでは、[OS インストールウィザード] の、以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1 台目と 2 台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

変更しないウィザードは、起動する必要はありません。

1 台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、もう一度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.6 再インストール

ServerStart を使用してサーバを再インストールする方法について説明します。
ServerStart を使用しない場合は、「3.7 OS の手動インストール」(P.84)を参照してインストールを行ってください。

3.6.1 再インストールの前に

■ 再インストール時の注意事項

再インストールをする前に、以下の注意事項をよくお読みください。

● 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置(ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など)を増設している場合は、再インストールの前に取り外してください。再度 SCSI オプション装置を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は、「A.7 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて」(P.219)を参照してください。

POINT

- ▶ その他の注意事項については、初回インストールの場合と同じです。

■ インストール方法の選択

前回のインストールをどの方法で行ったかによって、再インストールの方法は異なります。以下の表を参照して該当する参照先へお進みください。

前回のインストール	再インストール	参照
OS インストールタイプの開封	ガイドモード	「3.2 ガイドモード」(P.40)
	事前設定モード	「3.3 事前設定モード」(P.58)
	エキスパートモード	「3.4 エキスパートモード」(P.64)
	手動	「3.7 OS の手動インストール」(P.84)
ガイドモード 事前設定モード	事前設定モード	「3.6.3 ガイドモード / 事前設定モードでの再インストール」(P.82)
エキスパートモード	エキスパートモード	「3.6.4 エキスパートモードでの再インストール」(P.83)

3.6.2 OS インストールタイプの再インストール

OS インストールタイプの開封を行った場合、再インストールは、他の方法の初回インストールと同じ手順で行ってください。

OS のインストール完了後、必ず以下の手順で OEM 情報をインストールしてください。

CD-ROM ドライブを D: として説明しています。ご使用の環境に合わせて読み替えてください。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerStart CD-ROM をセットします。
「Server Start」画面が表示されたら、いったん Server Start を終了します。
- 3 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 4 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。
d: 【Enter】キー
oemcopy 【Enter】キー
- 5 以降は、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

POINT

- ▶ インストールしたサポート情報は、以下の手順で見ることができます。
 1. 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. [システム] アイコンをダブルクリックし、起動させます。
 3. [全般] タブの [サポート情報] をクリックします。サポート情報が表示されます。

3.6.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール

前回のインストールをガイドモードまたは事前設定モードで行った場合、再インストールには、前回のインストールで使用した「ServerStart フロッピーディスク」をそのまま使用できます。前回のインストールと全く同じ設定で再インストールを行う場合は、「ServerStart フロッピーディスク」内のコンフィグレーションファイルを編集する必要はありません。「3.3.3 インストールの開始」(P.61) を参照してインストールを行ってください。

3.6.4 エキスパートモードでの再インストール

前回のインストールをエキスパートモードで行った場合、再インストールには、前回のインストール時に保存したコンフィグレーションファイルを使用できます。コンフィグレーションファイルは、ServerStart フロッピーディスク内に保存されている必要があります。

ただし、コンフィグレーションファイルに保存されている設定項目は、「OS インストールウィザード」と「アプリケーションウィザード」のみです。

設定が保存されていない項目については、初回インストール時と同様に設定が必要です。「3.4 エキスパートモード」(P.64)を参照し、エキスパートモードでのインストールを行ってください。

POINT

- ▶ 以下の項目は設定が保存されていません。それぞれ設定してください。
 - ・システム構成ウィザード(通常設定する必要はありません。)
 - ・RAID の構築
 - ・メンテナンス区画の作成
 - ・区画の作成 / フォーマット

設定が保存されている項目については、以下の操作を行い、コンフィグレーションファイルの設定内容を読み込みます。

- 1** エキスパートモードを起動します。
- 2** [(OS) ウィザード] を起動すると、コンフィグレーションファイルを指定するようメッセージが表示されます。
- 3** コンフィグレーションファイルの入ったフロッピーディスクをセットし、[はい] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。
- 4** A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して[開く] をクリックします。
設定内容を読み込まれ、OS インストールウィザードに反映されます。
- 5** 各設定項目に値が反映されているか確認し、ウィザードを終了します。
アプリケーションウィザードも同様に、各設定項目が正しく反映されているか確認します。
以降の手順は初回インストール時と同様です。

3.7 OSの手動インストール

ServerStart を使用しない場合の、OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「2.4 OS を手動インストールする前に」(P.31) を
お読みになり、留意事項を確認してください。

3.7.1 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- ▶ サーバ本体に搭載の SCSI または IDE アレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象としています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。
Windows 2000 Server で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものも
あります。Windows 2000 Server で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方
法の詳細については、「第7章 ドライバの作成方法」(P.204) を参照してください。

インストール時に使用するドライバ

オプションカード/オンボードコントローラ	ドライバ
チップセット	C150 Chipset Driver V1.0
グラフィックカード	C150 Display Driver for Windows 2000 V6.55.01-010107x-906c
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-1891)	*
IDE アレイコントローラカード	*
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	*
SCSI カード (PG-128)	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード (PG-129B)	*
FAX モデムカード (FMV-FX533)	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、
ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合
は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスパートモードの
機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」(P.64) および「3.4.3
メンテナンス区画の作成」(P.67) を参照してください。なお、メンテナンス区画作
成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切断してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

```
Press any key to boot from CD....
```

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

```
Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver ...
```

重要

- ▶ このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

```
To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows 2000, including those for which you have a device support disk from a mass storage device manufacturer, press S.
```

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

以下のメッセージが表示されます。

```
You have chosen to configure a SCSI Adapter for use with Windows 2000, using a device support disk provided by an adapter manufacturer.
```

```
Select the SCSI Adapter you want from the following list, or press ESC to return to the previous screen.
```

3. 以下を選択します。

・ IDE アレイコントローラの場合

```
Win2000 Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (RX100  
C150E TX150 BX300)
```

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。
インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。
 - ・ IDE アレイコントローラカードの場合
「Onboard/IDE RAID Card FastTrak100LP Drivers Disk V2.04L30」

 **POINT**

- ▶ 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順4、5を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

SBS 2000 をインストールの場合

- ・ インストールするハードディスクユニットのパーティションを選択するようメッセージが表示されます。
画面の指示に従って、4GB 以上のパーティションを作成します。必ず NTFS ファイルシステムでフォーマット後、インストールを続けてください。
- ・ フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。
- ・ インストール終了後、画面の指示に従って再起動してください。ログオン後、「Small Business Server 2000 セットアップ」画面が表示されます。
[Small Business Server 2000 セットアップ] をクリックし、画面の指示に従って SBS 2000 のインストールを行ってください。

 **POINT**

- ▶ インストールの要件を満たしていないシステムにインストールを行った場合、インストール中に「Suite 要件」画面が表示され、説明が表示されます。説明を参考に、要件を満たすように変更後、インストールを継続してください。

 **重要**

▶ 再起動時の注意

インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。
この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM を使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール(Windows 2000 Server)」(P.208)を参照してください。

8 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。

[CD-ROMドライブ] :%DRIVERS%ChipSet%Intel%infinst_autol.exe

3. 以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。
4. 「InstallShield(R) ウィザードが完了しました。」と画面に表示されたら、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、[完了] をクリックしてシステムを再起動します。

9 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。
3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「その他のデバイス」配下の「ビデオコントローラ (VGA 互換)」をダブルクリックします。
5. ビデオコントローラ (VGA 互換) のプロパティ画面が表示されたら、「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。
6. デバイス ドライバのアップグレードウィザードの開始画面で [次へ] をクリックします。
7. ハードウェア デバイス ドライバのインストール画面で「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ] をクリックします。
8. ドライバ ファイルの特定画面で「場所の指定」のみを選択し、[次へ] をクリックします。
9. 「製造元のファイルのコピー元」を「D:\DRIVERS\VIDEO\ATI\Rage128\W2K」に指定し、[OK] をクリックします。
10. 「ドライバファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、[次へ] をクリックします。

```
次のドライバが検索されました。
ビデオ コントローラ (VGA 互換)
現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。このドライバを
インストールするには、[次へ] をクリックしてください。
d:\drivers\video\ati\rage_128\w2k\atii2kaa.inf
```

11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面で以下のメッセージが表示されるので、[完了] をクリックします。

```
RAGE 128 ULTRA
このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。
```

12. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

10 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

[CD-ROMドライブ] : %w2ksp3.exe

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」(P.93)を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.7.2 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- ▶ サーバ本体に搭載の SCSI または RAID アレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバの作成方法」(P.204)を参照してください。

インストール時に使用するドライバ

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	C150 Display Driver for Windows NT Vers.6.55.01-010107x-906c
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-1891)	*
IDE アレイコントローラカード	*
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	*
SCSI カード (PG-128)	*
SCSI カード (PG-129B)	*
FAX モデムカード (FMV-FX533)	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM から作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」(P.64)および「3.4.3 メンテナンス区画の作成」(P.67)を参照してください。

なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了してサーバ本体の電源を切断してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。

このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。

セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。

Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コントローラを手動で選択してインストールできます。

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

3. 以下を選択します。

IDE CD-ROM(ATAPI 2.2)/PCI IDE Controller

4. 画面の指示に従って、「Windows NT Server Setup Disk #3」をフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

ドライバがインストールされます。

6 手動でドライバを組み込みます。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

2. 以下を選択します。

その他 (ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを、フロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

4. 以下を選択します。

・IDE アレイコントローラの場合

WinNT Promise FastTrak100 (tm) LP Controller (RX100 C150E TX150 BX300)

ドライバがインストールされます。

- 7** 選択したコントローラが表示されます。
確認後、【Enter】キーを押します。
- 8** セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。
Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。
- 9** Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。
- 10** ドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
ServerStart CD-ROMから作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、【Enter】キーを押します。
 - ・ IDE アレイコントローラカードの場合
「Onboard/IDE RAID Card FastTrak100LP Drivers Disk V2.04L30」
- 11** 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

重要

- ▶ 再起動時の注意
インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1分ほど待ってから、再起動してください。
SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

- 12** LAN ドライバをインストールします。
「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.2 LAN ドライバのインストール(Windows NT Server 4.0)」(P.209)を参照してください。
- 13** インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。
本サーバに添付されている Service Pack のうち、最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

重要

- ▶ ドライバは置換しないでください。
Service Pack適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

14 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
2. ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。
[CD-ROMドライブ] : %DRIVERS%¥VIDEO¥ATI¥Rage128¥NT4¥setup.exe
画面の指示に従い、インストールを行います。
3. インストール終了後、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」(P.93) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.7.3 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。また、HD タイプ / ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、下記の URL の Linux 情報を参照してください。

<http://fmworld.net/biz/primergy/linux/>

第 4 章

OS インストール後の操作

この章では、OS インストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

4.1	メモリダンプ/ページングファイルの設定	94
4.2	システム修復ディスクの作成	102
4.3	保守ツールの作成	104
4.4	サーバ運用前の留意事項	110

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定

サーバの運用を始める前に、メモリダンプを取得するための設定を行ってください。Windows NT Server 4.0 と Windows 2000 Server では、設定方法が異なります。

メモリダンプの設定をしておく、Windows NT Server 4.0 および Windows 2000 Server で STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析することができます。特に大容量メモリ搭載時には、メモリダンプファイルの設定には注意が必要です。メモリダンプ取得のための設定は、運用に使用するファイル(OS やアプリケーションなど)をインストールした後で行います。

4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows 2000 Server の場合)

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認し、設定を行ってください。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを行うと、システムに搭載されているすべての物理メモリの内容がファイルとして作成されます。このため、ダンプファイルを格納する場合は、ハードディスク容量が十分に存在することを確認してください。

取得可能なダンプの種類と必要なハードディスク容量は以下のとおりです。

● 完全メモリ（フル）ダンプ

システムが予期せず停止したときに、システムメモリ全体の内容が記録されます。このオプションを選択した場合、ブートボリュームには、物理メモリ全体の1.3倍のページングファイルを保持するだけの領域が必要です。

- ・ 含まれる情報：共通ヘッダ、STOP時にページアウトされていない仮想アドレスページのすべて
- ・ 必要なサイズ：搭載物理メモリ × 1.3

● カーネルメモリダンプ

カーネルメモリ空間のみの情報が記録されます。システムが予期せず停止したときに、情報をログに記録する処理が高速化されます。サーバに搭載されているメモリの容量に応じて、ブートボリュームにはページングファイル用に50～800MBの利用可能な領域が必要です。

- ・ 含まれる情報：共通ヘッダ、サマリダンプヘッダ（完全メモリダンプ）（ユーザプロセス空間のページ）（キャッシュ領域ページ）（未使用プール領域ページ）
- ・ 必要なサイズ：STOP時のカーネルモードアドレス空間の使用量に依存する

● 最小メモリダンプ

問題の識別に役立つ最小限の情報が記録されます。このオプションでは、ブートボリュームに最低 2 MB のページングファイルが必要です。また、システムが予期せず停止することにより、新しいファイルを作成します。

これらのファイルの履歴は、[最小ダンプ ディレクトリ] に表示されているディレクトリ (通常は C:\%windir%\minidump) に格納されます。

- ・ 含まれる情報：共通ヘッダ、ミニダンプヘッダ、カーネルモジュール・メモリ情報プロセス情報・プロセス情報・スレッド情報・スタックページ・アンロードモジュール情報
- ・ 必要なサイズ：2MB 以上

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
前述の「ハードディスクの空き容量の確認」で必要な空き容量を確認してください。ドライブに空き容量がない場合は、「A.10 メモリダンプが取得できない場合」(P.221) を参照してください。
- 3 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4 [システム] アイコンをダブルクリックします。
システムのプロパティが表示されます。
- 5 [詳細] タブを表示し、[起動 / 回復] をクリックします。
「起動 / 回復」画面が表示されます。



- 6 以下の設定を行います。
 1. 「デバッグ情報の書き込み」で、メモリダンプファイルの種類を選択します。

- ・最小メモリダンプ (2MB 以上)
最小限の情報がメモリダンプファイルに記録されます。
致命的なエラーが発生するたびに、「最小ダンプディレクトリ」に指定したディレクトリに新しいファイルを作成します。
 - ・カーネルメモリダンプ
カーネルメモリだけがメモリダンプファイルに記録されます。
 - ・完全メモリダンプファイル (推奨)
システムメモリのすべての内容がメモリダンプファイルに記録されます。
2. 「ダンプファイル」または「最小ダンプディレクトリ」に、メモリダンプファイルを保存するディレクトリをフルパスで指定します。
カーネルメモリダンプ、または完全メモリダンプの場合、「既存ファイルに上書きする」をチェックすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

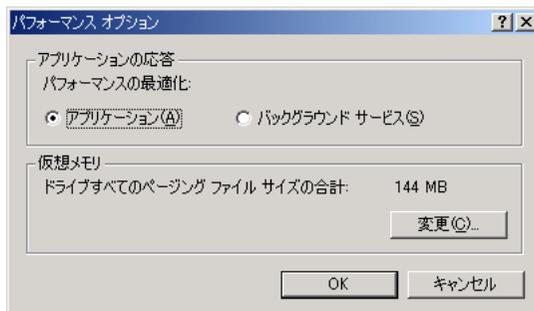
7 [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。

8 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

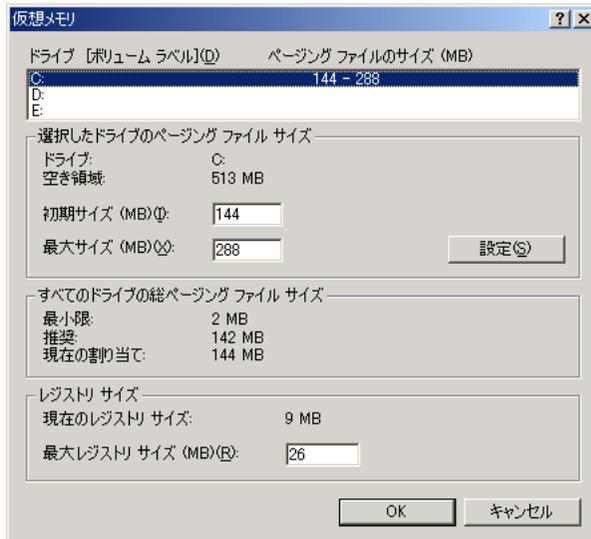
■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルを設定します。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
前述の「ハードディスクの空き容量の確認」で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.10 メモリダンプが取得できない場合」(P.221)
を参照してください。
- 3** 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4** [システム] アイコンをダブルクリックします。
システムのプロパティが表示されます。
- 5** [詳細] タブを表示し、[パフォーマンスオプション] をクリックします。
「パフォーマンス」画面が表示されます。



- 6** [仮想メモリ]の[変更]をクリックします。
「仮想メモリ」画面が表示されます。



- 7** ページングファイルを作成するドライブを指定します。
「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。
選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。
- 8** 「初期サイズ」を指定します。
設定したダンプファイルの種類によって値を設定します。
すべてのドライブの総ページングファイルサイズの[推奨]より大きい値を設定します。

重要

- ▶ ページングファイルサイズを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。ページングファイルは、推奨値以上に設定することをお勧めします。

- 9** 「最大サイズ」を指定します。
「初期サイズ」より大きい値を設定します。
- 10** 設定を保存します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の[設定]をクリックします。
設定が保存され、「ドライブ」の「ページングファイルのサイズ」に設定した値が表示されます。
- 11** [OK]をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。
- 12** [OK]をクリックし、システムのプロパティを終了します。
- 13** システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows NT Server 4.0 の場合)

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認し、設定を行ってください。

■ 最新の Service Pack の確認

Windows NT Server 4.0 インストール時には、必ず最新の Service Pack が適用されているか確認してください。

最新の Service Pack には、メモリダンプに関する修正が含まれています。

Service Pack のバージョンは、以下の操作で確認できます。

1. 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
2. 名前に "winver" を入力し、[OK] をクリックします。
「Windows のバージョン情報」画面が表示され、Service Pack のバージョン情報が表示されます。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、それぞれ以下のディスク空き容量が必要です。

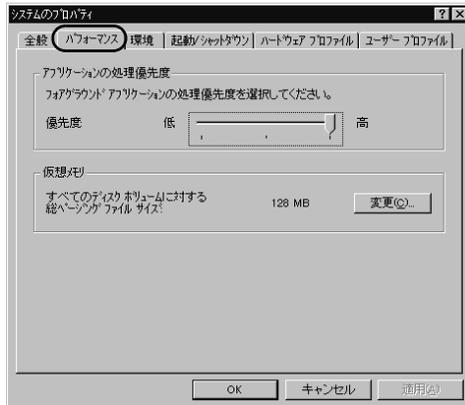
ファイルの種類	必要な空き容量
ページングファイル	システムがインストールされているドライブに「搭載メモリサイズ + 11MB」以上の空き容量。 ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、PAGEFILE.SYS となります。
メモリダンプファイル	任意のドライブに「搭載メモリサイズと同量」の空き容量。 メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にのみ作成されます。STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように常に確保しておいてください。

■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルの設定を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
ページングファイルを作成するには、「搭載メモリサイズ + 11MB」以上の空き容量が必要です。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.10 メモリダンプが取得できない場合」(P.221) を参照してください。
- 3 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4 [システム] アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

5 [パフォーマンス] タブをクリックします。



6 「仮想メモリ」の [変更] をクリックします。 「仮想メモリ」画面が表示されます。



1. ページングファイルを作成するドライブを指定します。
「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。
選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。
2. 「初期サイズ」を指定します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」に、「搭載メモリサイズ」以上を設定します。
3. 「最大サイズ」を指定します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「最大サイズ」に、「搭載メモリサイズ + 11MB」以上を設定します。
4. 設定を保存します。
「選択したドライブのページングファイルサイズ」の [設定] をクリックします。
設定が保存され、[ドライブ] の [ページングファイルのサイズ] に設定した値が表示されます。

7 [OK] をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。

8 [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。

- 9 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
メモリダンプファイルを作成するには、「搭載メモリサイズと同量」の空き容量が必要です。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.10 メモリダンプが取得できない場合」(P.221)
を参照してください。
- 3 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4 [システム] アイコンをダブルクリックします。
システムのプロパティが表示されます。
- 5 [起動/シャットダウン] タブをクリックします。



- 6 [回復] で以下の設定を行います。
 1. 「デバッグ情報を次へ書き込む」をチェックします。
STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、メモリダンプが取得されます。
 - ・入力フィールドに、メモリダンプファイルを保存するファイル名をフルパスで指定します。
例) F:\MEMORY.DMP
 - ・「既存のファイルに上書きする」をチェックすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。
 2. 「自動的に再起動する」をチェックします。
エラー発生時のデバッグ情報取得後に、システムが自動的に再起動します。
- 7 [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。

- 8 システムを再起動します。
システム再起動後、設定が有効になります。

4.2 システム修復ディスクの作成

OS インストールタイプの開封を手動で行った場合や、OS を手動でインストールした場合は、システム修復ディスクの作成を行ってください。

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、作成したシステム修復ディスクに保存されている修復情報を使って、これらを再構築できます。修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが1枚必要です。あらかじめ用意してください。

4.2.1 システム修復ディスクの作成 (Windows 2000 Server の場合)

Windows 2000 Server セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが1枚必要です。

- 1** フロッピーディスクに、「Windows 2000 システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 2** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「アクセサリ」 「システム ツール」 「バックアップ」の順にクリックします。
バックアップ画面が表示されます。
- 3** 「ウィザード」タブをクリックして[システム修復ディスク]をクリックします。
以降、画面の指示に従って、システム修復ディスクを作成してください。

4.2.2 システム修復ディスクの作成 (Windows NT Server 4.0 の場合)

Windows NT Server 4.0 セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

- 1 フロッピーディスクに、「Windows NT システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に以下のように入力して [OK] をクリックします。
Rdisk
- 4 [修復情報の更新] をクリックします。
「この操作を続行しますか?」というメッセージが表示されるので、[はい] をクリックして続行します。
- 5 再度メッセージが表示されるので [はい] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。
修復ディスクの作成が開始します。作成が終了したら、[OK] をクリックし、終了してください。

4.3 保守ツールの作成

サーバを保守するためのツールの作成方法について説明します。

ServerStart では、フロッピービルダ機能により、以下のツールが作成できます。

- ・ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
- ・Global Array Manager
- ・Storage Manager
- ・ハードウェア構成ツール (BIOS Environment Support Tools など)

フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

- ・クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合 (推奨)
- ・サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合

4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成

各種ツール起動時に必要な起動ディスクを作成します。

1 ServerStart を起動します。

クライアントコンピュータで作成する場合 (推奨)

1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストールの方法については、「A.14 ServerStart のアンインストール」(P.224) を参照してください。

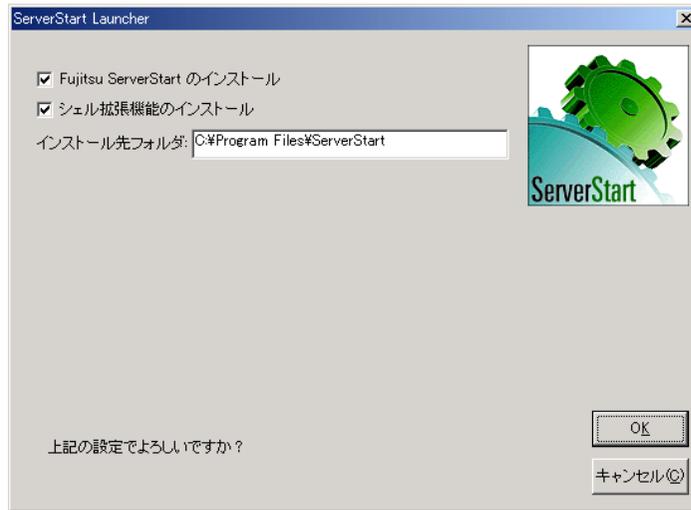
重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、かならずアンインストールしてください。

2. クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。



3. チェックボックスがすべて選択されていることを確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。
インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れてすぐに、ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
 4. ServerStart フロッピーディスクを取り出します。
- 2** 「フロッピービルダ」をクリックします。
「フロッピービルダ」画面が表示されます。
- 3** 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。



メッセージに従って、本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

- 4** 以降、画面のメッセージに従って、操作を行います。
フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、表示が消えたら作成は終了です。フロッピーディスクを取り出してください。

4.3.2 Global Array Manager / Storage Manager の作成方法

Global Array Manager / Storage Manager のインストール用ファイルは、ドライバディスク内に格納されます。ドライバディスクの作成方法は、「7.1 ドライバの作成方法」(P.204)を参照してください。

また、Global Array Manager / Storage Manager のインストールに関する詳細は、各 SCSI アレイコントローラカードに添付されている取扱説明書を参照してください。

4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法

ハードウェア構成ツールを ServerStart CD-ROM から作成する方法について説明します。
 あらかじめ、作成するツールの数のフロッピーディスクを用意してください。
 ハードウェア構成ツールの種類は、お使いの機種によって異なります。

1 ServerStart を起動します。

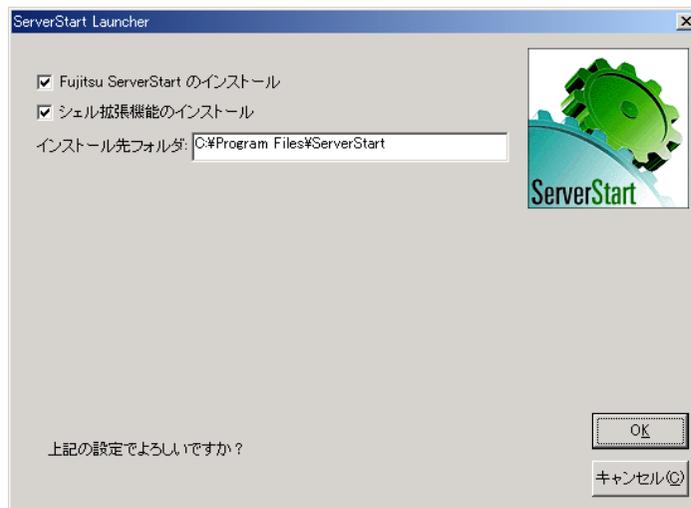
クライアントコンピュータで作成する場合（推奨）

1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
 アンインストールの方法については、「A.14 ServerStart のアンインストール」(P.224) を参照してください。

重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

2. クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。
 「ServerStart Launcher」画面が表示されます。
 自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の
 "Launcher.exe" を実行してください。



3. チェックボックスがすべて選択されていることを確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。
 インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れてすぐに、ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
 2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
 3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
- 2** 「フロッピービルダ」をクリックします。
- 3** 「ハードウェア構成ツール」をクリックします。



- 4 作成するツールをクリックします。
メッセージに従って、用意したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしてください。
- 5 以降、画面のメッセージに従って、作業を行います。
フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。各ツールの作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、表示が消えたら作成は終了です。フロッピーディスクを取り出してください。

4.4 サーバ運用前の留意事項

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『ファーストステップガイド』を参照してください。

- LAN カードを増設する場合、「7.2 ドライバのインストール」(P.208)を参照してドライバをインストールしてください。
- SCSI 外部オプション装置 (ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど) を接続する場合、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照して接続してください。
- インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

4.4.1 Windows Update (システムを最新にする)

Windows Update は、Windows 2000 システムをお使いの場合に利用できます。

Windows Update を実行すると、ご使用の OS に適用可能な最新の QFE (修正モジュール) を自動的に検索して適用し、システムを最新の状態に更新することができます。ご利用のシステムに潜在する問題を未然に防ぐためにも、定期的に Windows Update を実行してください。Windows Update の実行には、インターネットに接続可能なネットワーク環境が必要になります。

4.4.2 Code Red ワーム対策プログラムの適用について

Code Red ワームは、Microsoft 社の Internet Information Server (IIS) の脆弱性を利用する、強い感染力を持ったウイルスプログラムです。

Windows NT または Windows 2000 の導入後には、ServerStart CD-ROM に格納されている「Code Red ワーム対策プログラム (CrFix2KJ.exe または CrFixNTJ.exe)」を必ず適用してください。

なお、Code Red ワームに関する情報、防護策と対処方法については、下記の Web サイトをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/topics/codealrt.asp>

■ Windows 2000 Server の場合

IIS 5.0 および Indexing Service がインストールされている場合、「Code Red ワーム対策プログラム」を適用してください。なお、Service Pack 3 が適用されている場合は、Code Red ワームの対応が行われていますので、適用作業は不要です。

● 適用方法

- 1 サーバをネットワークから切断します。
修正モジュール適用中の感染を防ぐために、サーバをネットワークから切断します。LAN に接続されている場合は、LAN ケーブルを抜いてください。
- 2 Windows 2000 Service Pack 2 を適用します。
すでに適用済みの場合は、再適用する必要はありません。なお、特殊な事情などにより、Service Pack 2 の適用が困難な場合は、Service Pack 1 を適用してください。
- 3 「Code Red ワーム対策プログラム」を適用します。
 1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
 2. 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
 3. 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : %DRIVERS%UTILS%QFE%CrFix2kJ.exe
修正モジュールが適用され、システムが自動的に再起動します。

● 適用後の確認方法

サーバに以下のレジストリキーが作成されていれば、「Code Red ワーム対策プログラム」は正しくインストールされています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Updates\Windows 2000\SP3\Q300972
```

■ Windows NT Server 4.0 の場合

IIS 4.0 および Index Server 2.0 がインストールされている場合、「Code Red ワーム対策プログラム」を適用してください。なお、セキュリティロールアップパッケージが適用されている場合は、Code Red ワームの対応が行われていますので、適用作業は不要です。

● 適用方法

- 1 サーバをネットワークから切断します。
修正モジュール適用中の感染を防ぐために、サーバをネットワークから切断します。LAN に接続されている場合は、LAN ケーブルを抜いてください。
- 2 Windows NT 4.0 Service Pack 6a を適用します。
Service Pack 適用後、再起動を要求されますので、再起動してください。なお、すでに適用済みの場合は、再適用する必要はありません。
- 3 「Code Red ワーム対策プログラム」を適用します。
 1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
 2. 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
 3. 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : %DRIVERS%UTILS%QFE%CrFixNTJ.exe
修正モジュールが適用され、システムが自動的に再起動します。

● 適用後の確認方法

サーバに以下のレジストリキーが作成されていれば、「Code Red ワーム対策プログラム」は正しくインストールされています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Hotfix\Q300972
```

4.4.3 手動で OS のインストールまたは開封を行った場合

ServerStart を使用せずに、OS インストールタイプの開封を行った場合、または OS のインストールを行った場合は、以下の操作が必要です。

■ 高信頼ツールのインストール

高信頼ツールのインストールを行います。「第5章 高信頼ツール」(P.119)を参照し、各ツールの標準インストーラでインストールしてください。

■ ファイルシステムについて (Windows NT Server 4.0 インストール時)

セットアップ完了後、ファイルシステムが NTFS に変換されていない場合は、以下の操作を行って NTFS に変換してください。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 コマンドプロンプトを起動し、コマンドライン上で次のコマンドを入力します。
C:¥>CONVERT C:/FS:NTFS /V
- 3 コマンドラインに、次のメッセージが表示されます。

ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N) ?

- 4 【Y】キーを押すと、再起動時に自動的に変換が行われる旨のメッセージが表示されます。メッセージを確認後、再起動してください。

■ 不明デバイス用 Class driver のインストール (Windows 2000 Server インストール時)

Windows 2000 Server では、GEM318 (SAF-TE コントローラ) は不明デバイスとして認識されますが、このデバイス専用 Class driver をインストールすることで、「FSC Termination Module GEM318」として認識させることが可能です。

以下の方法でインストールを行います (C: は OS のインストールされているドライブ、D: は CD-ROM ドライブとして説明します)。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

- 3 ServerStart CD-ROMの"D:¥Siemens¥W2k-inf"フォルダ内の以下のファイルを"C:¥winnt¥wnf"へコピーします。
"stmscsi.cat"
"stmscsi.inf"
- 4 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「管理」をクリックします。
- 5 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 6 「その他のデバイス」の「SDR GEM318 SCSI Processor Devise」をダブルクリックします。
「ドライバ」タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックします。
- 7 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面で、「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックします。
- 8 「ドライバファイルの検索」画面で、「場所の指定」のみにチェックを付け、他のチェックを外して[次へ]をクリックします。
- 9 製造元のファイルのコピー元を「D:¥FSC¥W2k-inf」と入力し、[OK]をクリックします。
- 10 「ドライバファイルの検索」画面で、「SDR GEM318 SCSI Processor Devise」が表示されたら、[次へ]をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。
- 11 インストールが終了したら、[完了]をクリックします。
デバイスマネージャの一覧に「FSC SCSI Termination Model GEM318」が追加されます。

4.4.4 Service Pack の適用

ServerStart CD-ROMには、追加/修正モジュールを組み込むためのService Packが同梱されています。OSインストールタイプには、あらかじめ添付のService Packがインストールされています。

このService Packより新しいService Packが提供されている場合は、Service Packの「README.TXT」を参照してインストールしてください。

4.4.5 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて

Windows 2000のインストールが完了した後に、デバイスマネージャを表示すると、「その他のデバイス」として、デバイスが正しく認識されない場合があります。この場合、次の手順で確認して正しく構成する必要があります。

■ 確認 / 構成方法

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3 [システム] アイコンをダブルクリックします。
- 4 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」が存在するか確認します。
「その他のデバイス」が存在する場合
 1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
 2. [エクスプローラ] を起動し、CD-ROM の次のフォルダ内の INF (拡張子 *.inf) を OS インストールフォルダ (例 C:\Winnt) 配下の inf フォルダ内にコピーします。
 - ・ Adaptec Management SCSI Processor Device の場合
¥Drivers¥SCSI¥Dpt¥W2k
- 6 「その他のデバイス」を選択し、右クリックします。
プロパティが表示されます。
- 7 [全般] タブの [ドライバの再インストール...] をクリックして、デバイスドライバのアップグレードウィザードを実行します。

4.4.6 不要なファイルについて

OS のインストールが完了した後に Runonce および Runonce2 というフォルダが、それぞれ次のドライブに残る場合があります。これらのフォルダは、システムをご利用になる上で必要ありませんので削除してください。

Runonce フォルダ : OS をインストールしたドライブ

Runonce2 フォルダ : C ドライブ

4.4.7 CD-ROM からの自動実行機能について

サーバインストール後に、CD-ROM からの自動実行機能の設定を変更するには、以下の操作を行ってください。

- 1 レジストリを編集できる状態にし、以下のレジストリキーの Autorun の値を以下のように変更します。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥CDRom
自動実行を設定する場合は Autorun の値を「 1 」に、自動実行しない場合は「 0 」にします。
- 2 システムを再起動します。
再起動後、設定が有効になります。

4.4.8 OS インストールタイプをお使いの方へ

■ インストール環境

OS インストールタイプでの OS のインストール環境は以下のとおりです。

項目	Windows 2000
インストールドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	4GB (C ドライブ)
ファイルシステム	NTFS
ディレクトリ名	WINNT
ディスプレイの設定 (解像度 / 色数)	800 × 600 ピクセル / 65536 色 *
メンテナンス区画	150MB

* Windows 2000 の場合、ディスプレイの設定のリフレッシュレートは 60Hz になります。
ただし、接続されたディスプレイによって設定が異なります。

■ アレイカード搭載モデルをお使いの場合

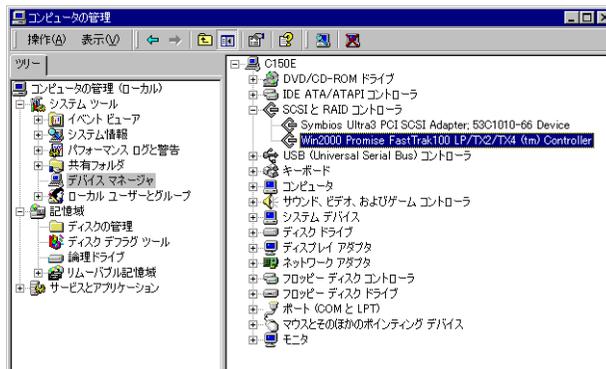
OS インストールタイプのアレイコントローラカードが搭載されているモデルで、導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

重要

- ▶ Windows 2000 アレイタイプの場合
IDE RAID ドライバが最新の版数ではない場合があります。OS を開封後、以下の方法で版数を確認し、旧版の場合はアップデートしてください。

● 版数の確認方法

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 [管理ツール] をダブルクリックし、[コンピュータの管理] をダブルクリックします。
「コンピュータの管理」画面が表示されます。



3 「Win2000 Promise FastTrak100 LP/TX2/TX4(tm) Controller」を右クリックし、プロパティをクリックします。

4 [ドライバ] タブをクリックし、「バージョン」を確認します。

旧版：2.0.64.20

新版：2.0.64.27

旧版の場合は、引き続きアップデートを実施してください。

新版の場合は、[OK] をクリックし、プロパティを終了します。

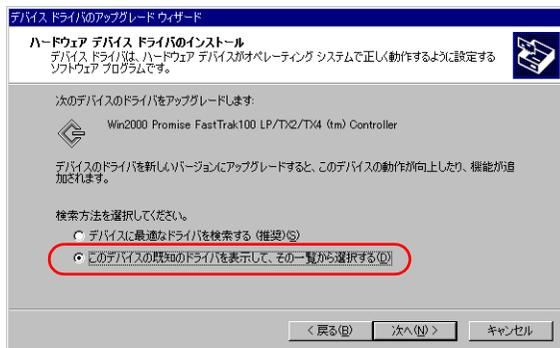
● アップデート方法

1 [ドライバの更新] をクリックします。

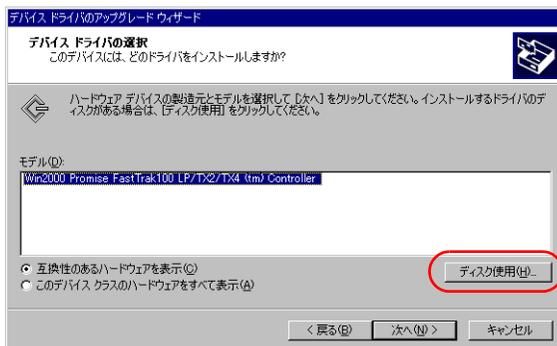
デバイスドライバのアップグレードウィザードが起動します。

2 [次へ] をクリックします。

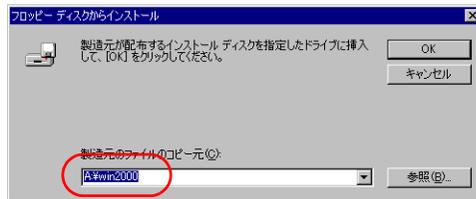
3 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択して、「次へ」をクリックします。



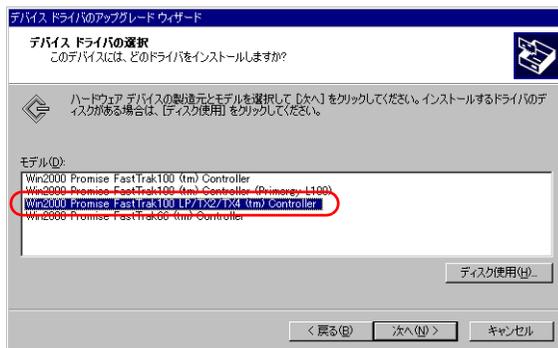
4 [ディスク使用] をクリックします。



- 5 「製造元のファイルのコピー元」に「A:¥win2000」と入力して、「OK」をクリックします。



- 6 「Win2000 Promise FastTrak100 LP/TX2/TX4 (tm) Controller」を選択して、「次へ」をクリックします。



- 7 以降、ウィザードに従ってインストールを行います。
インストール後、システムを再起動します。再起動後、ドライバの変更が反映されます。

■ 複数の LAN アダプタを搭載した場合

複数の LAN アダプタを搭載したプレインストールタイプを開封する際、ServerStart では 1 つの LAN アダプタに対してのみネットワークプロトコルを設定することができます。他の LAN アダプタについては、開封作業終了後、手動でネットワークの設定を行ってください。また、オプション LAN カードを搭載している場合は、ドライバが自動インストールされないことがあります。フロッピービルダを使って、搭載しているオプション LAN カード用のドライバディスクを作成し、手動でドライバをインストールしてください。詳細は、「7.1 ドライバの作成方法」(P.204) および「7.2 ドライバのインストール」(P.208) を参照してください。

■ Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server のインストールに失敗したとき

ServerStart を使用してインストールを行っている途中に失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。インストール時に使用していたコンフィグレーションファイルは、再インストールには利用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

■ [アプリケーションウィザード] で「ServerView」を選択した場合

インストール完了後、「SNMP Service」の「スタートアップの種類」の設定を「自動」に変更してください。

4.4.9 バックアップについて

本サーバは、信頼性の高い部品やハードディスクを使用しておりますが、万一の故障に備え、データの定期的なバックアップを必ず実施してください。

■ バックアップの必要性

サーバのデータがバックアップされていれば、ハードウェアの故障や操作ミスなどにより、ハードディスクユニット内のデータが破壊された場合でも、バックアップデータからシステムを復旧させることが可能です。バックアップが作成されていないと、お客様の大事なデータが失われてしまいます。システムを安心して運用していただくためにも、定期的なバックアップを実施してください。

■ バックアップデバイスとソフトウェア、および運用

バックアップの運用方法は、ご使用になる OS やアプリケーション、システム運用方法によって異なります。そのため、弊社担当営業にご相談の上で、次のものを準備してバックアップを実施してください。

- ・バックアップデバイス（DDS4 ドライブなど）
- ・バックアップソフトウェア
（OS 標準提供のバックアップ用ソフトウェア、BrightStor ARCserve2000 など）
- ・バックアップの運用方法（スケジュールなど）
バックアップデバイス、およびソフトウェアは弊社純正品をご使用ください。バックアップ媒体（テープなど）の保管にあたっては、保管条件をお守りください。

第 5 章

高信頼ツール

PRIMERGY では、高信頼ツールを導入することを推奨しています。
この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

5.1 RAS 支援サービス	120
5.2 サーバ監視ツール [ServerView]	126
5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	127
5.4 システム環境の診断機能 [FM Advisor]	128
5.5 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO]	130
5.6 トラブル原因の早期発見 [DSNAP]	133
5.7 サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]	134
5.8 REMCS エージェント	137

5.1 RAS 支援サービス

RAS (Reliability, Availability, Serviceability) 支援サービスは、本サーバの定期交換部品である電源 / ファン / UPS のバッテリーの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知するソフトウェアです。定期交換部品の故障による、本サーバの運用停止状態を回避できます。

以下の定期交換部品を監視します。

- ・電源ユニット
- ・システムファン
- ・CPU ファン
- ・SCSI アレイコントローラ (オプション) 上のバッテリー
- ・高性能無停電電源装置 (オプション) のバッテリー

5.1.1 RAS 支援サービスのインストール方法

RAS 支援サービスは、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと同時に一括インストールされます。

ServerStart を使用しないで OS をインストールした場合は、RAS 支援サービスを手動でインストールする必要があります。

RAS 支援サービスを手動でインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
- 3 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に、以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:%Programs%Japanese%Elis%Setup.bat
- 5 インストール終了後、CD-ROM を取り出して、システムを再起動します。

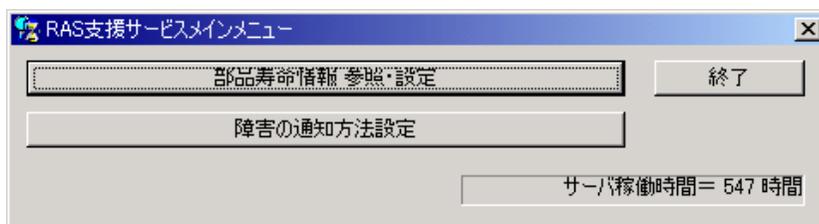
重要

- ▶ RAS 支援サービスを使用する上での注意事項
 - ・RAS 支援サービスは、アンインストールしないでください。
 - ・RAS 支援サービスの Windows 2000 / Windows NT サービス (F5EP50) は停止しないでください。

5.1.2 RAS 支援サービスの使用方法

RAS 支援サービスを起動します。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「RAS 支援サービス」の順にクリックします。
メニュー画面が表示されます。



メニュー	説明
部品寿命情報 参照・設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ SCSI アレイコントローラカード上のバッテリー / UPS のバッテリーの交換予定日、搭載日を表示します。 ・ バッテリーの交換を行った際に、搭載日を今日の日付にリセットします。 ・ 電源 / FAN の稼働時間、定期交換時期を表示します。 ・ 電源 / FAN の交換を行った際に、稼働時間を 0 時間にリセットします。 ・ 本サーバの稼働時間を表示します。 ・ 本サーバの稼働時間の手入力が可能です。
障害の通知方法設定	定期交換部品の交換時期を知らせるメッセージを、画面に表示するかどうかを設定します。

- 3 終了する場合は、[終了] をクリックします。

5.1.3 部品寿命情報

「部品寿命情報 参照・設定」メニューで、本サーバの定期交換部品の状態、交換推奨時期を確認します。本サーバの運用開始前、および本サーバの定期交換部品の交換を行った場合、最新の情報に変更しておいてください。

1 [部品寿命情報 参照・設定] をクリックします。

「部品寿命情報 参照・設定」画面が表示されます。

項目	説明
寿命部品名	定期交換部品の種類を表示します。
搭載日	RAID カード (SCSI アレイコントローラカード) のバッテリー、UPS のバッテリーの搭載日を表示します。 各バッテリーを交換した場合、交換した日付を入力します。 すでにお手持ちの UPS を本サーバに搭載した場合は、UPS を購入した日を搭載日として入力してください。
交換予定日	定期交換部品の交換推奨日時を表示します。
稼働時間	CPU FAN / 筐体 FAN / 電源ユニットの稼働時間を表示します。 単位は、時間 (hour) です。 CPU FAN / 筐体 FAN / 電源ユニットを定期交換した場合、稼働時間に 0 を入力します。 ただし、1 台が交換周期を経過する前に故障して交換しても、本項目は変更しません。また、電源ユニット増設時にも本項目は変更しません。
寿命時間	CPU FAN / 筐体 FAN / 電源ユニットの定期交換時間を表示します。 単位は、時間 (hour) です。
サーバ稼働時間	稼働時間を表示します。
搭載日を今日にする	ボタンをクリックすると、[搭載日] のカーソル位置の日付が今日の日付になります。 運用開始時や、UPS のバッテリーをすべて交換した場合にクリックすると、入力の手間が省けて便利です。

重要

- ▶ RAS 支援サービスのインストールは、本サーバの運用開始前に行ってください。
- ▶ RAS 支援サービスのインストール直後、搭載日には初期値として、RAS 支援サービスのインストール日が表示されます。したがって、UPS のバッテリーを搭載して長期間が経過したあとに、RAS 支援サービスをインストールした場合は、手動で搭載日を修正してください。しない場合は交換推奨時期の誤差が大きくなります。

POINT

- ▶ 寿命について
 - ・ UPS のバッテリーは、サーバの電源が切れている状態でも寿命を消費します。
 - ・ 電源、FAN の寿命は、サーバの電源が入っている時間に依存します。
- ▶ 定期交換部品の交換周期について
本サーバの定期交換部品の交換周期を以下に示します。交換の際の参考にしてください。
なお、下記の値は本サーバ本体の設置環境温度（10 ~ 35 °C）で使用している場合のもので、10 °C の温度上昇で寿命期間はほぼ 1/2 に低下します。

定期交換部品	交換周期	備考
電源	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
FAN	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
SCSI アレイコントローラカードに登録されているバッテリー	約 2 年間 *	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
UPS のバッテリー	約 2 年間	8 時間運用の場合も 24 時間運用の場合も約 2 年間

*) SCSI アレイコントローラカード (PG-144B) 搭載時、約 1 年半になります。なお、他の SCSI アレイコントローラカード (PG-142C) も搭載している場合は、そのカードも約 1 年半になります。

- ▶ サーバ稼働時間の再設定
システム運用時、万が一システムクラッシュなどで OS の再インストールが必要になった場合、稼働時間の再設定が必要となります。ただし、リモートサービスボード (PG-RSB101) 搭載時は、再設定の必要はありません。
計算方法は、以下のとおりです。
稼働時間 = 使用月数 × 30 × 24 × 稼働率 / 月 × 稼働率 / 日
・ 1 日 8 時間、1 ヶ月に 20 日稼働しているシステムが 4 ヶ月使用時にシステムクラッシュした場合
稼働時間 = 使用月数 (4) × 30 × 24 × 稼働率 / 月 (20/30) × 稼働率 / 日 (8/24)
= 640 時間

- 各情報の確認、および設定が終了したら、[OK] をクリックします。
設定を変更した場合は、変更を保存するかどうかの確認のメッセージが表示されます。
- [OK] をクリックして、終了します。

重要

- ▶ 定期交換部品の交換周期について
定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。
定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25 と想定しています。したがって、年間平均温度が 25 を超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。一般的に温度が 10 上がると（年間平均温度 35 ）、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。
他のサーバで使用されていた UPS を本サーバに搭載した場合、使用期間分の寿命を消費しています。累積使用期間が交換周期に達した場合は、バッテリーを交換してください。
- ▶ 他のサーバで使用していた SCSI アレイコントローラカード、UPS を本サーバに搭載した場合、使用期間分の寿命を消費しています。累積使用期間が交換周期に達した場合は、バッテリーを交換してください。

5.1.4 障害の通知方法の設定

定期交換部品が交換時期になったときに、交換時期を通知するメッセージを画面に表示するかどうかを設定します。

- 1 [障害の通知方法設定] をクリックします。
「障害の通知方法設定」画面が表示されます。



- 2 「画面への表示」を選択し、[OK] をクリックします。
部品の交換周期を過ぎた場合に、メッセージが画面に表示されます（初期設定値）。
チェックしない場合は、部品の交換周期を過ぎても、メッセージが画面に表示されません。

■ 定期交換部品交換時期のメッセージ

メッセージが表示されたら、表示された定期交換部品を交換してください。

● 表示されるメッセージと表示先

メッセージ	表示先	対処
寿命を超えている部品があります。	ディスプレイ	寿命部品の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 CPU FAN の使用時期がしきい値を超えました。	システムイベントログ	CPU FAN (プロセッサのファン) の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 CPU FAN を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 FAN (ハウジングファン) の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	筐体 FAN (冷却ファン) の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 FAN (ハウジングファン) を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 PSU (電源供給装置) の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	電源ユニットの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 PSU (電源供給装置) を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 UPS BBU の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	UPS のバッテリーの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 UPS BBU を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 RAID 電池 (RAID Card#nn) の使用時間がしきい値を超えました。	システムイベントログ	SCSI アレイコントローラカードのバッテリーの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。 nn:SCSI アレイコントローラカードの スロット番号
寿命部品 RAID 電池を交換してください。	ディスプレイ	

■ 異常時にシステムイベントログに表示されるメッセージ

異常時に、システムイベントログに表示されるエラーメッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 でエラーが発生しました。	担当保守員に連絡してください。

■ システムイベントログに表示される通知メッセージ

RAS 支援サービスのインストール時、および運用開始後にシステムイベントログに表示される通知メッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 をインストールしました。	RAS 支援サービスが正常にインストールされました。
F5EP50 の実行を開始しました。	RAS 支援サービスが正常に起動しました。
F5EP50 を実行を停止しました。	RAS 支援サービスが正常に停止しました。

5.2 サーバ監視ツール [ServerView]

ServerView は、ネットワーク上の各サーバのハードウェアの状態を常時監視するとともに、管理者がすべてのサーバの状態を一目で確認できるコンソールを提供します。また、万一異常が発生した場合には、早期対応が図れるように、管理者にリアルタイムに通知します。

5.2.1 ServerView のインストール

ServerView は、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと同時に一括インストールすることができます。ただし、ServerStart でインストールされるのは、ServerView Basic のみです。ServerView Full および ServerView Console をインストールする場合には、OS 導入後に、『ServerView ユーザーズガイド 第2章 インストール』を参照して、インストールを行ってください。

なお、Linux の場合は、ServerStart によるインストールをサポートしていません。

Linux での ServerView のインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照して行ってください。

重要

- ▶ ServerView をインストールする前に、必ず RAS 支援サービスおよび SNMP サービスをインストールしておいてください。

5.2.2 インストール後の処理について

■ 管理端末の構築

任意のパソコンでサーバの監視状態を確認する場合、管理端末を構築する必要があります。管理端末に使用するパソコンに、ServerView Console をインストールしてください。操作方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「第2章 インストール 4 ServerView の管理端末を構築する」を参照してください。

■ インストール後の設定

運用を開始する前に、『ServerView ユーザーズガイド』の「第2章 インストール 5 インストールの処理について」を参照し、必要な設定を行ってください。

■ オプション装置の監視

サーバに搭載 / 接続されているオプション装置を監視する場合は、各オプション装置の監視ソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については『ServerView ユーザーズガイド』の「第2章 インストール 9 アレイコントローラのインストール処理」を参照してください。

5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]

Tape Maintenance Checker を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

重要

- ▶ インストールする前に
 - ・メンテナンス対象のテープ装置がサーバに装着されていることを確認してから行ってください。
 - ・すべてのプログラム（ウィルスワクチンプログラムなど）を終了してください。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
- 3 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : ¥PROGRAMS¥Japanese¥TMCHECK¥Setup.exe
- 5 インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、CD-ROM を取り出して、システムを再起動します。

5.4 システム環境の診断機能 [FM Advisor]

FM Advisor を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
- 3 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: %PROGRAMS%Japanese\FMADV\SETUP.EXE
- 5 インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

5.4.1 診断方法

FM Advisor を実行すると自動的に調査が開始され、調査結果が表示されます。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「FM Advisor」の順にクリックします。
FM Advisor が起動します。
- 2 [OK] をクリックします。
自動的に定義ファイルが読み込まれ、調査が実行されます。
調査の状況はウィンドウのグラフに表示され、進行状況をチェックすることができません。なお、ファイルの検索をキャンセルしたい場合は、[キャンセル] をクリックしてください。ファイルの検索をキャンセルしても、次のシステム情報の取得が行われず。
- 3 ファイルの検索が終了すると、自動的にシステム情報の取得を実行します。
調査結果が表示されます。[OK] をクリックして詳細情報を確認します。

POINT

- ▶ システム情報の表示について
「表示」メニューの「システム情報の表示」で表示する環境情報において、[コンピュータ] タブ内の [機種情報] の内容が正しく表示されない場合があります。
この場合は、サーバ監視ツール「ServerView」および『ハードウェアガイド 第7章 技術情報』などで機種名を確認してください。

5.4.2 定義ファイルの入手方法

最新の定義ファイルは弊社情報サイト FMWORLD.NET の「ソフトウェアライブラリ」(以下 URL) で公開されています。コンピュータを正確に診断するには、定義ファイルは非常に重要な役割を担います。最新の定義ファイルをご利用ください。

http://www.fmworld.net/index_down.html

FM Advisor の最新バージョンの定義ファイルは、Windows 95/98 用、Windows 2000/NT 用の 2 種類があります。各 OS に対応した定義ファイルをご利用ください。異なった定義ファイルを使用した場合、FM Advisor は正確にコンピュータを診断できません。

5.5 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO]

標準のインストーラを使用して PROBEPRO をインストールする方法と PROBEPRO の動作環境の定義について説明します。ServerStart から PROBEPRO をインストールした場合には、PROBEPRO の動作環境の定義（ P.131 ）のみ行ってください。

5.5.1 インストール方法

PROBEPRO を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
- 3** 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4** 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : %PROGRAMS%Japanese%PROBEPRO%SETUP.EXE
インストーラが起動します。
- 5** 画面のメッセージに従ってインストールします。
PROBEPRO のインストールが終了すると、動作環境の定義を行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 6** [はい] をクリックします。
定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

POINT

- ▶ PROBEPRO を再インストールする場合は、PROBEPRO をアンインストール（ P.132 ）してから再インストールを行ってください。

5.5.2 動作環境を定義する

PROBEPRO をご使用になるには、PROBEPRO の動作環境を定義する必要があります。動作環境の定義は、標準のインストーラでのインストール時、または定義ウィザードにより行えます。ServerStart で PROBEPRO をインストールした場合は、インストール時には動作環境が定義できないので、インストール後に定義ウィザードを起動して動作環境を定義してください。

定義ウィザードを起動して動作環境を定義するには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「PROBEPRO V2.0L20B」 「PROBEPRO 定義ウィザード」の順にクリックします。
定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。
- 3 [次へ] をクリックします。
PROBEPRO で収集できる情報の種類が表示されます。
- 4 収集したい情報を選択します。
- 5 [次へ] をクリックして設定していきます。
シンボルパス名の設定画面が表示された場合は、「シンボルファイルの準備」(P.132) を参照して、シンボルファイルを準備してください。
- 6 「定義内容の設定確認」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

5.5.3 初回インストール時の初期設定について

■ システム情報の収集契機

機能	収集契機
モジュール情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
レジストリ情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
パフォーマンス情報の収集	30 分インターバル

■ 出力先ディレクトリ

PROBEPRO が収集したシステム情報は以下のディレクトリに出力されます。

C:\Program Files\FUJITSU\PROBEPRO\Data

5.5.4 アンインストール方法

PROBEPRO をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「PROBEPRO V2.0L20B」 「PROBEPRO アンインストール」の順にクリックします。
アンインストーラが起動します。
- 3 画面のメッセージに従ってアンインストールを行います。

5.5.5 シンボルファイルの準備

シンボルパス名の設定画面が表示された場合、次のように操作して、シンボルファイルを準備します。

- 1 シンボルファイルを入手します。
 - Windows NT の場合
次のいずれかの方法で入手できます。
 - Windows NT インストール用 CD-ROM
Service Pack を適用していない場合にご用意ください。通常「¥SUPPORT¥DEBUG」配下に収められています。
 - Service Pack の CD-ROM
Service Pack を適用している場合にご用意ください。変更モジュールに対応するシンボルファイルが同時提供されていますので、該当する SP のシンボルで上書きしてください。
 - Windows 2000 の場合
次のいずれかの方法で入手できます。
 - Windows 2000 Customer Support and Diagnostics Tools CD-ROM
 - Microsoft Web サイト
次の URL からダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/windows2000/downloads/tools/symbols/default.asp>
インストールの方法については、次の URL を参照してください。
<http://www.microsoft.com/JAPAN/support/kb/articles/J054/0/84.htm>
なお、上記 URL などは変更されることもあります。あらかじめご了承ください。
- 2 システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリにコピーします。
ディレクトリ名の最後は、必ず「¥Symbols」としてください。

5.6 トラブル原因の早期発見 [DSNAP]

DSNAP は、サーバ環境情報などの障害調査用資料を一括取得するためのツールです。

DSNAP をインストールする方法について説明します。

ServerStart CD-ROM の "%PROGRAMS%Japanese%DSNAP" フォルダに、以下のファイルが格納されています。

- DSNAP.EXE
- README.TXT

サーバのハードディスク内にコピーしてください。使用方法については、"README.TXT" を参照してください。

5.7 サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]

Chronoworker/S は、NTP (Network Time Protocol) および SNTP (Simple Network Time Protocol) のネットワークを利用したコンピュータ同士の時刻合わせを行うアプリケーションです。サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせが行えます。

Chronoworker/S の使用方法については、インストール後のオンラインマニュアル ([ヘルプ]) を参照してください。

5.7.1 インストール方法

Chronoworker/S をインストールするには、次の操作を行います。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん終了します。
- 3** 「スタート」ボタン 「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4** 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
[CD-ROM ドライブ] : %PROGRAMS%Japanese%crnwrk%Setup%Setup.exe
- 5** インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。

5.7.2 運用の手順

Chronoworker/S を運用するには、「スタートアップモード」による疎通確認を行ってから、「サービスモード」でシステムを運用します。

■「スタートアップモード」による疎通確認

最初に「スタート」ボタンから「Chronoworker」を起動すると、Chronoworker/S は「スタートアップモード」が選択されています。Chronoworker/S の導入当初は、Chronoworker/S を「スタートアップモード」で数回起動させ、タイムサーバの登録や時刻合わせパラメータの調整を行います。

疎通確認に際して、次のパラメータの設定や変更が必要です。

- タイムサーバの登録（必須）
時刻を取得するタイムサーバの登録を行います。
- SNTP サーバとして動作（必要に応じて）
他のサーバやクライアントに時刻を供給する場合に指定します。
- 時刻合わせパラメータ（必要に応じて）
タイムサーバとの繰り返し時刻合わせ間隔や、タイムサーバからの応答待ち監視時間、タイムサーバ時刻と内部時計との誤差の修正範囲を指定します。デフォルト値は LAN 接続の最適値が設定されています。外部公開サーバと通信を行う場合は変更が必要です。
- LAN 接続 / ダイアルアップ接続（必要に応じて）
タイムサーバとの接続形態を指定します。ダイアルアップ接続の場合や、Socks5 Proxy サーバ経由の場合に変更が必要です。

■「サービスモード」でのシステム運用

「スタートアップモード」でパラメータの調整後、Chronoworker/S の動作モードを「サービスモード」に切り替え、通常のシステムの運用を行います。「サービスモード」では、Windows NT / Windows 2000 のサービス (ChronoNTService) が時刻合わせを行います。

時刻合わせのサービス (ChronoNTService) を停止する場合、および動作パラメータの再変更を行う場合は、管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンし、「スタート」ボタンから Chronoworker/S を起動します。

5.7.3 起動と終了の方法

■ 起動方法

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「Chronoworker」の順にクリックします。
- 3 タイムサーバの名前、またはアドレスを登録後、[スタート]をクリックします。

POINT

- ▶ タイムサーバ名について
あらかじめ登録されているタイムサーバ名は、インターネット上に公開されている公開NTPサーバのもので、ファイアウォール等で使用できない場合は、使用可能なタイムサーバをネットワーク管理者にご確認ください。

■ 終了方法

● サービスモードで運転中の場合

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン 「Chronoworker」の順にクリックします。
- 3 [ストップ]をクリックします。

● スタートアップモードで運転中の場合

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 タスクトレイの [Chronoworker] アイコンを右クリックしてメニューを表示させ、「終了」を選択します。

5.7.4 アンインストール方法

Chronoworker/S をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Chronoworker/S を終了します。
- 2 「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で、Chronoworker/S をアンインストールします。

5.8 REMCS エージェント

REMCS エージェントは、弊社サポートセンターとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

5.8.1 REMCS エージェントのインストール

インストールの前に、REMCS センタとの接続形態を決めておく必要があります。REMCS エージェントの概要およびインストールについては、『REMCS エージェント 運用ガイド』を参照してください。

REMCS エージェントを使用するには、「ServerView」がインストールされている必要があります。必要な環境については、『REMCS エージェント 運用ガイド』の「1.3 必要なシステム」でご確認ください。

第 6 章

6

クライアントのインストール

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

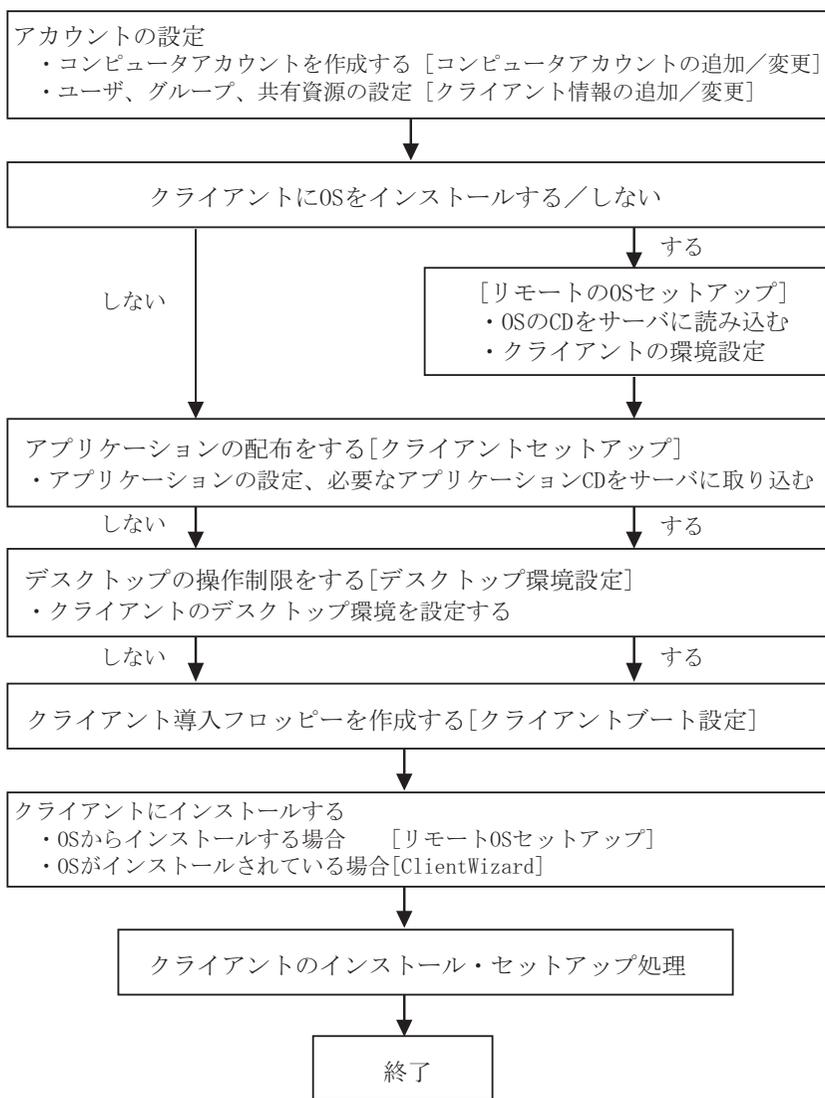
6.1	クライアントのセットアップ	140
6.2	クライアントコンピュータの追加 / 変更	145
6.3	ユーザ、グループ、共有資源の追加 / 変更	150
6.4	リモート OS セットアップ	157
6.5	クライアントセットアップ	162
6.6	クライアントのデスクトップ環境を設定する	172
6.7	クライアントブート設定	177
6.8	クライアントへのインストール	183
6.9	変更した情報の登録	188
6.10	WizardConsole 使用時の留意事項	189
6.11	WizardMenu によるデスクトップメニューの作成	196
6.12	WizardConsole のアンインストール	200

6.1 クライアントのセットアップ

ここでは、WizardConsole を使ったクライアントセットアップの概要を説明します。

6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ

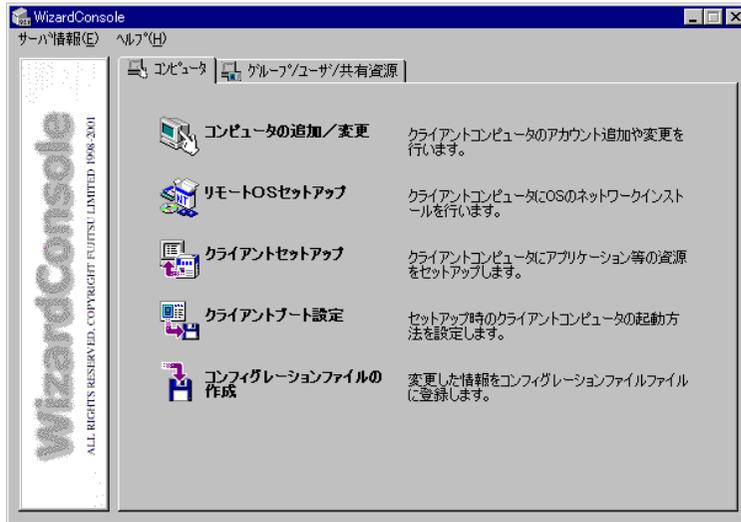
クライアントへのインストール、セットアップは、以下の流れで行います。



6.1.2 WizardConsole の各機能

- 1 「スタート」ボタン 「ServerStart」 「WizardConsole」の順にクリックします。

WizardConsole が起動します。



■ [コンピュータ] タブ



コンピュータの追加/変更

ネットワーク環境を構築するためのコンピュータアカウントを登録します。
OS 種別が同じクライアントコンピュータを、一括して大量に登録することもできます。



リモート OS セットアップ

OS をインストールしていないクライアントコンピュータに、OS のインストールを行う機能です。OS のインストールだけでなく、セットアップ、アプリケーションのインストールまでを行うことができます。



クライアントセットアップ

クライアントに同一アプリケーションや、同一ファイルのインストールを行うための設定です。ここで設定したアプリケーションなどは、クライアントがサーバにログオンすると自動的にインストールされます。それぞれのクライアントへインストールする作業が軽減できます。



クライアントブート設定

クライアントをセットアップするときに使用するクライアント起動用フロッピーディスクを作成します。



コンフィグレーションファイルの作成

WizardConsole で追加、変更した設定情報を、フロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。

■ [グループ/ユーザ/共有資源] タブ

● クライアント情報の追加/変更



ユーザの追加、グループの追加、共有資源の設定など、ネットワークに必要なアカウントを作成したり、変更する機能です。設定したアカウントは一覧で表示され、関連付けも簡単です。

● デスクトップ環境設定



クライアントのデスクトップの表示状態を設定できます。たとえば、業務に必要な機能のみを表示させたり、スタートメニューなどを設定することができます。

6.1.3 各 OS 環境における利用可能な機能

■ 各機能と使用可能な OS 種別

クライアントの個別セットアップには、リモート OS セットアップ、クライアントセットアップ、デスクトップ環境設定機能がありますが、ご使用になる OS とネットワーク環境によっては使用できない機能があります。各機能における使用可能 OS とネットワークの関係は以下のとおりです。

OS	ネットワークタイプ	WizardConsole の機能		
		リモート OS セットアップ	クライアント セットアップ	デスクトップ 環境設定
Windows NT Server 4.0	プライマリドメイン コントローラ	×	×	×
	バックアップドメイン コントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	
Windows 2000 Server	ドメインコントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	
Windows NT Workstation 4.0	ドメインメンバ			
Windows 2000 Professional	ドメインメンバ			
Windows XP	ドメインメンバ	×		
Windows 98	ドメインメンバ	×		
Windows 95	ドメインメンバ	×		
Windows Me	ドメインメンバ	×		×

6.1.4 WizardConsole を利用するための準備

■ クライアント側の準備

● ハードウェアのセットアップ

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、コンピュータを正しく設置してください。

LAN カードを装着し、サーバと接続できる状態にしておきます。

接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータに複数の LAN カードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LAN カードの装着は 1 つのみにしてください。

● ソフトウェアの準備

MS-DOS

リモート OS セットアップを使用する場合には、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要になります。MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクは、以下の方法により作成してください。

- FD バックアップコマンドを使用する

クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成できます。

FD バックアップコマンドの使用方法に関しては、クライアントコンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

- Windows 95 / 98 から作成する

1. A ドライブに初期化可能なフロッピーディスクをセットします。
2. マイコンピュータから A: ドライブを選択します。
3. 右クリックし、フォーマットを選択します。
4. フォーマットの種類に「起動専用 (C)」を選択し、[開始 (S)] をクリックします。

使用可能な MS-DOS のバージョンは、以下の通りです。

- ・ MS-DOS V6.2
- ・ MS-DOS V7.0 (Windows 95)
- ・ MS-DOS V7.1 (Windows 98)

重要

▶ ソフトウェアのライセンス

どの方法による作成でも、必ず使用するクライアント台数分のライセンスが必要となります。ご契約の内容を確認して作成してください。

MS-DOS® LAN マネージャ

以下の MS-DOS® LAN マネージャのファイルが必要です。

Protman.dos / Protman.exe / Netbind.com

次の方法で入手してください。

- ・ Windows NT Server 4.0 の CD-ROM
¥CLIENTS¥MSCLIENT¥NETSETUP
- ・ Microsoft の Web サイトからダウンロードする。
<ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/disk3-1.exe>

重要

▶ Web サイトからダウンロードした場合は、ファイルが圧縮されています。次の手順でファイルを展開してください。

1. disk3-1.exe を実行します。
2. Expand コマンドでファイルを展開します。
例) c:%temp% に disk3-1.exe を展開した場合
Expand c:%temp%\protman.do_ /r 【Enter】
Expand c:%temp%\protman.ex_ /r 【Enter】

■ ネットワーク環境の設定

WizardConsole をご使用いただくには、以下のネットワーク設定が必要です。

● TCP/IP プロトコルの設定

WizardConsole をインストールするコンピュータには、TCP/IP プロトコルが必要です。

あらかじめ TCP/IP プロトコルのインストールおよび設定を行ってください。

また、WizardConsole をインストールしたコンピュータには、固定の IP アドレスを設定するようにしてください。詳しい IP アドレスの設定方法は各 OS のマニュアルを参照してください。

● 複数セグメントを含んだネットワークでの留意点

ルータと複数のセグメントを含んだ TCP/IP ネットワークで、WizardConsole をご利用になる場合、以下の注意が必要です。

- コンピュータの追加 / 変更

コンピュータの追加 / 変更で、クライアントコンピュータの設定を行う際、各セグメントに所属するクライアントコンピュータごとに、適切なデフォルトゲートウェイを指定してください。デフォルトゲートウェイを指定しない場合、クライアントセットアップが正常に利用できなくなります。

例) セグメント 1 のゲートウェイアドレスが 192.168.1.1、セグメント 2 のゲートウェイアドレスが 192.168.2.1 の場合

セグメント 1 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.1.1 に、セグメント 2 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.2.1 を指定する必要があります。

- クライアントセットアップ

ドメインコントローラが存在しないセグメントに含まれるクライアントコンピュータがドメインに参加するためには、WINS を使用するか、LMHOSTS ファイルにドメインコントローラの IP アドレスを記述してください。

WINS または、LMHOSTS の設定方法は、ネットワーク管理者にご相談ください。

● クライアントコンピュータの設定

インストールモデルなどで、すでに OS がインストール済みのコンピュータに対してクライアントセットアップを行う場合は、あらかじめ「TCP/IP プロトコル」、「Microsoft ネットワーククライアントサービス」(Windows 95/98/Me の場合) を設定しておく必要があります。各 OS のマニュアルを参照して、インストールおよび設定を行ってください。

6.2 クライアントコンピュータの追加 / 変更

WizardConsole で管理するクライアントコンピュータを登録します。

コンピュータの登録方法には、次の3つの方法があります。

- 登録済みのコンピュータ情報を変更する場合、または個別の情報を持つクライアントコンピュータを追加する場合は、「6.2.1 コンピュータの変更、追加」(P.148)を行ってください。
- WizardConsole をインストールする前に、すでにコンピュータを登録している場合は、「6.2.2 コンピュータ情報の取得」(P.148)を行ってください。
- OS 種別が同じクライアントコンピュータを大量に一括登録する場合は、「6.2.3 コンピュータの一括導入」(P.149)を行ってください。

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[コンピュータの追加 / 変更] をクリックします。
「クライアントシステム設計 - コンピュータの追加 / 変更」画面が表示されます。

No.	コンピュータ名	OS	IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
1	WATANABECP	WindowsNT WS 4.0	10.10.1.5	255.255.255.0	10.10.1.1
2	CP905	Windows98	10.10.1.6	255.255.255.0	10.10.1.1
3	CP733	WindowsNT WS 4.0	DHCP	DHCP	DHCP
4	CP912	Windows2000 Professional	10.10.1.9	255.255.255.0	10.10.1.1
5	CP1001	WindowsXP Professional	10.10.1.10	255.255.255.0	10.10.1.1
6	CP1190	WindowsMe	DHCP	DHCP	DHCP
7					

重要

- ▶ 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
- ▶ 登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックし、表示された画面で修正を行ってください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。

■「クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更」画面のツールバー



■「クライアントシステム設計-コンピュータの追加／変更」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	設定されている IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	設定されているサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。

■「クライアントシステム設計-コンピュータの追加/変更」画面のメニュー

項目	説明
「ファイル」メニュー	
コンピュータの取込み	コンピュータ情報を取り込みます。
CSV ファイル	あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておき、まとめてコンピュータを登録できます。CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」(P.195) を参照してください。
コンピュータ情報の取得	ネットワーク上でドメインメンバとして動作中のコンピュータ情報を取得します。ツールバーまたはメニューの「適用」が有効な場合は選択できません。
CSV ファイル出力	登録されているコンピュータ情報を CSV 形式のファイルに書き出します。
導入ウィザード	同じ OS 種別のコンピュータを大量に一括して登録します。
アプリケーションの終了	クライアントシステム設計を終了します。
「編集」メニュー	
切り取り	選択したコンピュータ情報を切り取り、クリップボードに保存します。
コピー	選択したコンピュータ情報を、クリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードに保存された内容を、貼り付けます。
削除	削除するコンピュータを選択し、登録済みのコンピュータを削除します。
適用	入力した情報を登録します。

 **重要**

- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン 「プログラム」 「管理ツール」の「サーバマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してコンピュータを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- ▶ クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、「クライアントセットアップ」画面から次のいずれかを行ってください。
 - ・セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、「セットアップ資源の取り込み」画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
 - ・セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。

6.2.1 コンピュータの変更、追加

登録済みのコンピュータの情報を変更したり、新規にコンピュータを追加します。

- 1 変更するコンピュータの欄をクリックし、[変更] をクリックします。
新規にコンピュータを追加する場合は、最終行（空行）をクリックして [追加] をクリックします。
コンピュータは 2048 件まで登録できます。
「コンピュータの変更」画面が表示されます（追加時も同様の画面が表示されます）。



[再作成] は、変更画面で OS に Windows NT Workstation 4.0、Windows NT Server 4.0 (BDC)、または Windows 2000 Professional、Windows XP を指定した場合に表示されます。

- 2 コンピュータの情報を設定します。
各項目の詳細説明については、[ヘルプ] をクリックして参照してください。
- 3 [OK] をクリックします。
コンピュータ情報が変更、または追加されます。

6.2.2 コンピュータ情報の取得

WizardConsole をインストールする前にクライアントコンピュータを登録している場合、登録されているクライアントコンピュータの情報を、WizardConsole に取り込みます。

- 1 「ファイル」メニューから「コンピュータの取込み」「コンピュータ情報の取得」を選択します。
「コンピューター一覧」画面が表示されます。すでにクライアントシステム設計に登録されているコンピュータは、グレー表示されます。
- 2 登録するコンピュータを選択します。
すべてのコンピュータを登録する場合は [全て選択] をクリックします。
- 3 [登録] をクリックします。
選択したコンピュータの情報が取り込まれ、一覧に追加されます。

重要

- ▶ [コンピュータ情報の取得] で取り込まれたサブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、起動しているマシンから取得されます。必要に応じて値を変更してください。
- ▶ DHCP 起動のコンピュータの場合、割り当てられた IP アドレスが表示されますので、登録後、IP アドレスを DHCP に変更してください。
- ▶ IP アドレスが「不明」と表示される場合は、以下の問題が考えられます。
 1. 取得されたコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
 2. DNS に登録されているホスト名と実際のコンピュータ名が異なっている。
 1. の場合、このコンピュータを選択しないか、TCP/IP プロトコルをインストールしてください。
 2. の場合、正しい値に変更してください。

6.2.3 コンピュータの一括導入

OS 種別が同じクライアントの場合は、一括で大量のクライアントコンピュータを登録できます。一括導入は、ウィザードに従って設定を行います。コンピュータ名、IP アドレスは任意の文字列に連番で取得されます。導入後、必要に応じて変更してください。

重要

- ▶ 一括導入ウィザードでコンピュータを作成する場合、次の制限があります。IP アドレス設定を選択した場合は、開始アドレス $xx.xx.xx.nn$ の $255 - (nn - 1)$ 台まで（例：開始アドレスが 10.10.1.11 の場合、 $255 - (11 - 1) = 245$ 台まで）作成できます。DHCP アドレスを選択した場合は、最大 2048 台まで作成できます。登録中にクライアント登録数が 2048 台になった時点で作成を終了します。

- 1** 「ファイル」メニューから「導入ウィザード」を選択します。一括導入ウィザードが表示されます。ウィザードに従って操作を行ってください。確認画面で [完了] をクリックすると、指定した台数分のクライアントコンピュータが追加されます。この状態ではまだ登録は行われていません（背景が白色）。設定を変更する場合は、必要に応じて設定を変更後 [適用] をクリックしてください。コンピュータが登録されます（背景が黄色）。

6.2.4 コンピュータの削除

必要のないコンピュータを、登録から削除します。

- 1** 削除するコンピュータを選択します。複数のコンピュータを選択できます。
- 2** 「編集」メニューから「削除」を選択します。選択したコンピュータが一覧から削除されます。

6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更

ユーザ、グループ、共有資源の設定を行います。

重要

- ▶ 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックし、修正してください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。
- ▶ 背景が白色で表示されているアカウントは、[適用] または [OK] をクリックすると登録されます。

- 1 「WizardConsole」画面で [グループ / ユーザ / 共有資源] タブを選択し、[クライアント情報の追加 / 変更] をクリックします。
「クライアント情報の追加 / 変更」画面が表示され、[ユーザの設定] タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると [グループの設定] タブ画面、[共有資源の設定] タブ画面に切り替わります。



- 2 各タブをクリックして設定します。

POINT

- ▶ あらかじめ登録するユーザの情報、グループ情報、共有資源情報を、それぞれ CSV 形式で記述してファイルを作成しておく、と、「ファイル」メニューから「CSV ファイル取込み」を選択して、まとめて登録できます。
また、登録したユーザの情報は、「ファイル」メニューから「CSV ファイル出力」を選択して、CSV 形式のファイルに書き出せます。
CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」(P.195) を参照してください。

6.3.1 ユーザの追加/変更

[ユーザの設定] タブが表示されていることを確認してください。

- 1 ユーザの情報を設定します。
新規にユーザを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか [追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。
「ユーザの追加」画面が表示されます。
- 2 追加するユーザの情報を設定し、[追加] をクリックします。
ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。
- 3 すべてのユーザの追加が終わったら、[閉じる] をクリックします。
「クライアント情報の追加/変更」画面に戻ります。

POINT

- ▶ ユーザ情報の変更
変更するユーザを選択して [変更] をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。
「ユーザの変更」画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ▶ ユーザの削除
削除するユーザを右クリックし [削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン 「プログラム」 「管理ツール」の「ユーザーマネージャ」または Windows 2000 の「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してユーザを追加、変更した場合、2048 件以上の情報を正常に反映できない場合があります。

6.3.2 グループの追加/変更

- 1 [グループの設定] タブをクリックします。
[グループの設定] タブ画面が表示されます。



- 2 グループの情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は [追加] をクリックします。2048 件まで設定できません。
「グループの追加」画面が表示されます。
- 3 追加するグループの情報を設定し、[追加] をクリックします。
グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。
- 4 すべてのグループの追加が終わったら、[閉じる] をクリックします。
「クライアント情報の追加 / 変更」画面に戻ります。

POINT

- ▶ グループ情報の変更
変更するグループを選択して [変更] をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。「グループの変更」画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ▶ グループの削除
削除するグループを右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン 「プログラム」 「管理ツール」の「ドメインユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してグループを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。

6.3.3 共有資源フォルダの追加 / 変更

- 1 [共有資源の設定] タブをクリックします。
[共有資源の設定] タブ画面が表示されます。



- 2 共有資源の情報を設定します。
新規にグループを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか [追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。
「共有資源の追加」画面が表示されます。
- 3 追加する共有資源の情報を設定し、[追加] をクリックします。
共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。
- 4 すべての共有資源の追加が終わったら [閉じる] をクリックします。
「クライアント情報の追加/変更」画面に戻ります。

POINT

- ▶ 共有資源情報を変更する
変更する共有資源を選択して [変更] をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。「共有資源の変更」画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ▶ 共有資源を削除する
削除する共有資源を右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- ▶ 共有資源の "SVWIZARD" とユーザ名の "SWClientSetupUser" は、WizardConsole でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
登録中は、この共有資源を削除したり、アクセス権の変更、ユーザのパスワード変更などを行わないでください。
インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- ▶ デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。
- ▶ 32 件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 32 件までしか登録できません。
- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン 「プログラム」 「管理ツール」の「ドメインユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

続いてユーザ、グループ、共有資源の関連付けの操作を行います。

6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

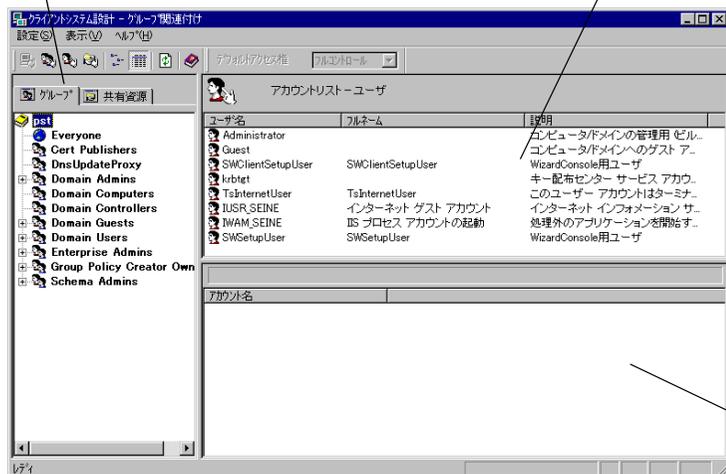
- 1 「クライアント情報の追加/変更」画面で [OK] をクリックします。
「追加変更」画面が閉じて、「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
ユーザのグループ構成、およびユーザ/グループ単位で使用できる共有資源の関連付けを行います。

■ ユーザの所属グループの設定

ユーザをグループに関連付けます。

[グループ] / [共有資源] タブをクリックすると表示が切り替わります。

選択可能なユーザ名が表示されます。ユーザ名を右クリックすると、その関連付けられているグループ共有資源を確認できます。



グループに関連付けられたユーザ名が表示されます。

POINT

- ▶ OU 設定時、ビルトイングループとして Active Directory にあらかじめ登録されているグループは、Bold 表示されます。

1 設定したいユーザを選択し、「アカウントリスト ユーザ」から、左側の [グループ] タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします (xx は選択されているグループ名)。

■ 共有資源の設定 (ユーザ/グループ単位)

グループ、ユーザを共有資源に関連付けます。



[グループ表示] をクリックすると、「アカウントリスト - グループ」の表示に切り替わります。

選択可能なグループ名、ユーザ名が表示されます。【Ctrl】キーを押しながら選択すると複数選択できます。

共有資源に関連付けられたユーザ名またはグループ名が表示されます。右クリックするとアクセス権を変更できます。

- 1 設定したいユーザまたはグループを選択し、「アカウントリスト」から左側の [共有資源] タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします (xx は選択されている共有資源名)。
選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権を変更する場合は、以降の操作を行ってください。
- 2 「関連付け一覧」からアクセス権を変更したいアカウントをダブルクリックするか、右クリックします。
ダブルクリックした場合は、「アクセス権の変更」画面が表示されます。
右クリックした場合は、ポップアップメニューが表示されます。
- 3 変更したいアクセス権を選択し、[OK] をクリックします。

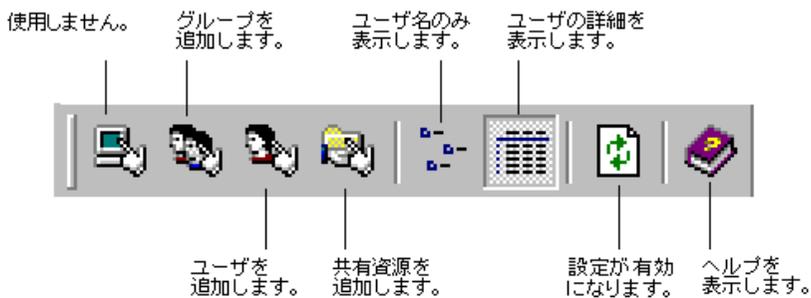
POINT

- ▶ ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
- ▶ アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
 1. 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】+【C】キーを押します。
 2. 左側の [グループ] または [共有資源] タブ内の目的のアカウントをクリックします。
 3. 【Ctrl】+【V】キーを押します。
- ▶ ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。「関連付け確認」画面が表示されます。

重要

- ▶ クライアントシステム設計での設定を反映するには、[適用] をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

■「クライアントシステム設計」画面のツールバー



■「クライアントシステム設計」画面のメニュー

項目	説明
「設定」メニュー	
追加/変更	追加/変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：使用しません。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアクセス権	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。[OK]をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替え	グループと共有資源の画面を切り替えます。 グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替え	[共有資源]タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザー一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替え	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントシステム設計のバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4 リモート OS セットアップ

クライアントに OS をインストール、セットアップするための設定を行います。

インストールする OS の CD-ROM が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。
Windows NT Workstation 4.0 の場合は、クライアントのドライバズ CD-ROM もあわせてご用意ください。

POINT

- ▶ リモート OS セットアップでインストールできる機種

Windows NT Workstation 4.0 の場合

以下の 3 つの条件を満たす FMV シリーズで利用できます。これらの条件を満たす機種の名称が「機種名」に一覧表示されます。

- ・ Windows NT Workstation 4.0 のインストールタイプモデル
- ・ ドライバズ CD-ROM / リカバリ CD-ROM が添付されている
- ・ MS-DOS 上で動作する NDIS の LAN ドライバが添付されている

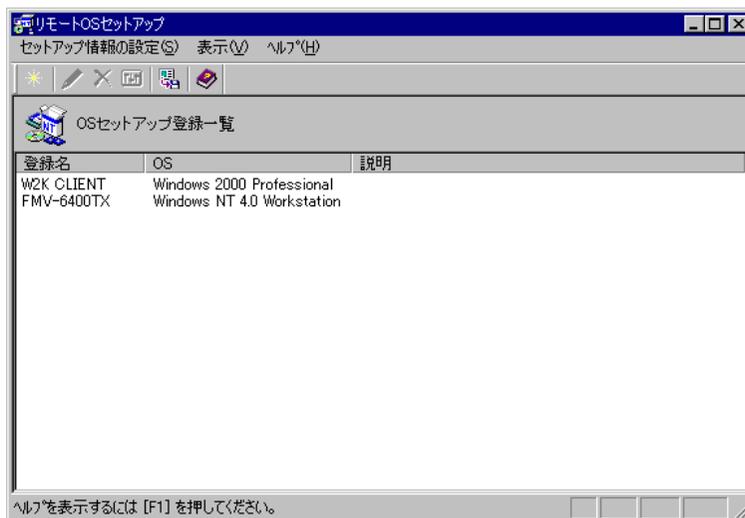
また、99 年冬モデル以降（99 年 10 月以降に出荷されたモデル）の機種名は [CD 読込] を押したあと、ドライバズ CD-ROM を入れる则表示されます。

Windows 2000 Professional の場合

Windows 2000 Professional に対応する機種で利用できます。対応機種について、詳しくは弊社パソコン情報サイト FM WORLD (<http://www.fmworld.net>) をご覧ください。

6.4.1 リモート OS セットアップを起動する

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[リモート OS セットアップ] をクリックします。
「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。



■「リモート OS セットアップ」画面のツールバー



■「リモート OS セットアップ」画面の説明

項目	説明
OS セットアップ登録一覧	登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。
登録名	入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。
OS	セットアップする OS の種別が表示されます。
説明	セットアップ情報の説明が表示されます。

■「リモート OS セットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
新規作成	クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。
登録名の変更	クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。
削除	クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。
プロパティ	セットアップ情報の内容を確認、変更します。
CD イメージの登録 / 削除	リモート OS セットアップで利用する OS の CD-ROM イメージを削除、または再登録します。
クライアントブート設定起動	クライアントブート設定を起動します。「6.7.2 OS セットアップ用」(P.179)
終了	リモート OS セットアップが終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
リモート OS セットアップのバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4.2 OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Professional の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。
「新規登録 - リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
- 2 登録名、説明などを入力して [OK] をクリックします。
Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows 2000 Professional の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ハードディスクの設定」画面が表示されますので、手順 4 へ進んでください。
- 3 Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
「ハードディスクの設定」画面が表示されます。

POINT

- ▶ Windows 2000 Professional のインストールには、1GB の容量が必要ですが、リモート OS セットアップの場合は、ワークエリアが必要になりますので最低 2GB 必要です。

- 4 OS をインストールするパーティションを設定して、[次へ] をクリックします。
「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。
- 5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。
「メンバシップの設定」画面が表示されます。
- 6 ワークグループ、またはドメインを設定してユーザ情報を設定して、[次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ ドメインに参加する場合は、コンピュータをドメインに参加させる権限のあるアカウントの名前とパスワードが必要です。パスワードは暗号化して保存されます。

- 7 ネットワークの設定を行います。
[追加] をクリックすると、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。
追加したいコンポーネントを選択し [OK] をクリックします。「ネットワークの設定」画面に戻ります。
- 8 [次へ] をクリックします。
「機能の設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は [詳細] をクリックして、各項目を設定してください。
- 9 [次へ] をクリックします。
「ドライバの追加」画面が表示されます。

- 10 Plug&Play に対応した機器のドライバをインストールする場合は、追加するドライバを指定して、[追加]をクリックします。
- 11 [完了]をクリックします。
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.3 OS セットアップ情報を設定する (Windows NT Workstation 4.0 の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。
「新規登録 - リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
- 2 各項目を設定して、[OK]をクリックします。
ドライバ CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 3 ドライバ CD-ROM をセットして、[OK]をクリックします。
サーバにドライバ CD-ROM の情報がコピーされます。コピーが終了すると Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ユーザ情報の設定」画面が表示されますので、手順 5 へ進んでください。
- 4 Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットして、[OK]をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
終了すると「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。
- 5 ユーザ情報を設定して、[次へ]をクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。
- 6 プロトコルを指定します。
[詳細]をクリックすると、「ネットワークの詳細」画面が表示されますので、必要な項目を設定し、[OK]をクリックします。
- 7 [次へ]をクリックします。
「サービスの設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は [詳細]をクリックして、各項目を設定してください。
- 8 設定するサービスを選択して、[完了]をクリックします。
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「登録名の変更」を選択します。
「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
- 2 登録名、説明を変更して [OK] をクリックします。
OS セットアップ情報が変更されます。

6.4.5 OS セットアップ情報を確認／変更する

設定した OS セットアップ情報の内容を確認、または変更します。

- 1 OS セットアップ登録一覧から操作を行う OS セットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ情報の設定」メニューから「プロパティ」を選択します。
「OS セットアップ情報のプロパティ」画面が表示されます。
- 3 各設定のタブを選択し、内容を確認して必要に応じて設定を変更してください。
- 4 [OK] をクリックします。

POINT

- ▶ 削除する場合は、「セットアップ情報の設定」メニューから「削除」を選択します。
削除を確認するメッセージが表示されますので [はい] をクリックします。
OS セットアップ情報が削除されます。

6.4.6 CD-ROM イメージを削除する

リモート OS セットアップで利用する Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional の CD-ROM イメージが不要になった場合、CD-ROM イメージを削除して、サーバのハードディスクの空き容量を増やすことができます。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「CD イメージ登録 / 削除」を選択します。
「CD イメージ登録 / 削除」画面が表示されます。
- 2 削除する CD-ROM イメージの [削除] をクリックします。
ファイルの削除が開始されます。

POINT

- ▶ 再登録する場合は、再登録する CD-ROM イメージの [読み込み] をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。

6.5 クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行するコマンドを指定します。

■ セットアップする内容

● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、あらかじめスクリプトが用意されています。

● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように設定できます。

● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

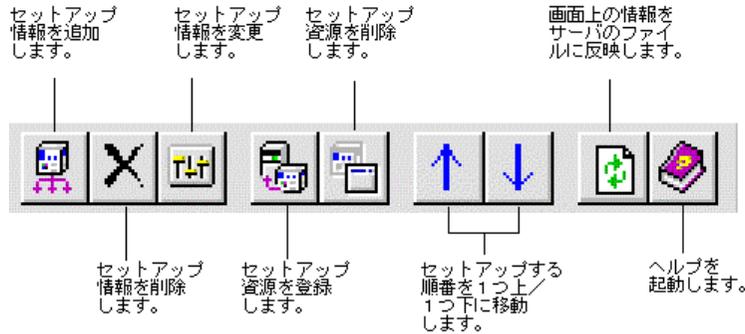
6.5.1 クライアントセットアップを起動する

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントセットアップ] をクリックします。

「クライアントセットアップ」画面が表示されます。



■「クライアントセットアップ」画面のツールバー



■「クライアントセットアップ」画面の説明

項目	説明
セットアップ情報一覧	セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源とあわせて、64個まで追加できます。複数選択はできません。
資源識別名	セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。標準対応製品についてはスクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に@が付いています。
説明	セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
種類	セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には「アプリケーション」、「ファイル」、「実行コマンド」の3種類あります。
登録済みセットアップ資源一覧	登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の上から順番に行われます。「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択はできません。
クライアント一覧	セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数のクライアントを選択できます。なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。
全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
コンピュータ名	WizardConsoleの「コンピュータの追加/変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
状態	資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。 完了：セットアップ済みです。 未完了：セットアップしていません。 エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。セットアップ情報が正しいか確認してください。

■「クライアントセットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
追加	セットアップ情報を追加します。セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて64個まで追加できます。64個を超えて追加しようとする、メッセージが表示されます。
削除	セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、「クライアントセットアップ」画面を終了します。

「セットアップ資源の操作」メニュー	
資源の登録	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定したデータフォルダです。 「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、[資源の登録] を選択すると、「資源の登録」画面が表示されます。詳細登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。
資源の削除	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。 削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。
資源の全登録	「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後に、そのままの順番で移動します。
資源の全削除	「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。
インストール順番上へ/インストール順番下へ	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を1つ上、または下に移動します。表示順番を上へ移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示/非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。
最新に更新	画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源の操作中は、「クライアントセットアップ」画面の情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。「クライアントセットアップ」画面を終了せずに、インストールを行う場合は、「表示」メニューから「最新に更新」を選択してからインストールを行ってください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。
動作環境設定	選択できません。グレー表示されます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。
各画面の項目の詳細については、[ヘルプ] をクリックして参照してください。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

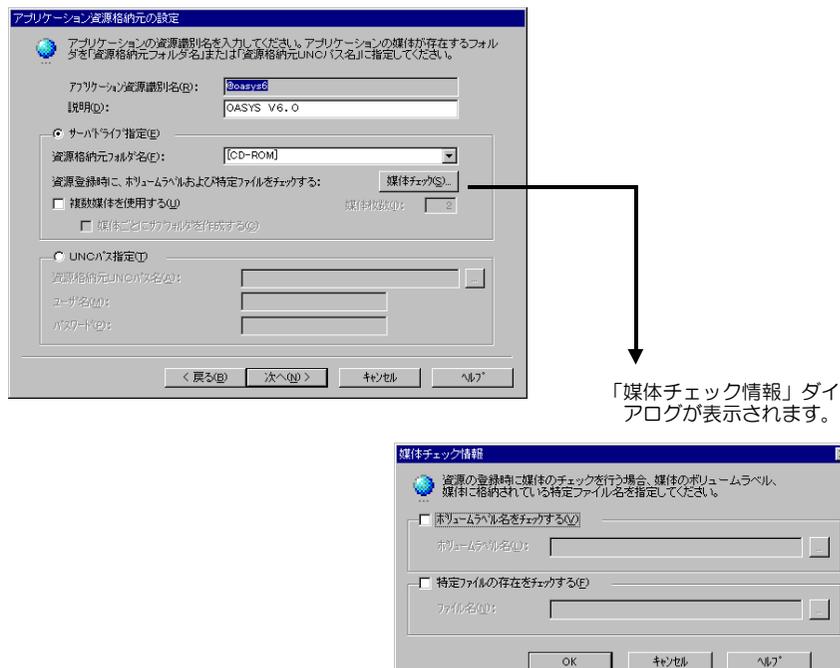


- 2 「アプリケーション」の「一覧から選択」が選択されていることを確認します。
- 3 「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、[次へ]をクリックします。
「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックを外して[次へ]をクリックします。

POINT

- ▶ 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、[キャンセル]をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test®などを使ってスクリプトを作成してください。
- ▶ 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできるOSは異なります。「6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項」(P.192)を確認してください。サポートしていないOSにインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」画面が表示されます。



- 4 サーバ内のどのドライブへアプリケーションを登録するかを指定し、[次へ]をクリックします。
「標準対応製品」から選択した場合は、「インストール詳細設定」画面が表示されます。手順5へ進みます。
「標準対応製品」から選択しなかった場合は、「インストーラ情報/スクリプト情報の設定」画面が表示されます。手順7へ進みます。
- 5 選択したアプリケーション用の詳細設定画面が表示されます。
各項目の内容については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。
- 6 各項目を設定して、[次へ]をクリックします。
セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。手順9へ進みます。
- 7 「インストーラ情報/スクリプト情報の設定」画面が表示されます。
「従来のインストーラ製品」と「Windows インストーラ製品」では、表示される項目が異なります。
- 8 各項目を設定して、[次へ]をクリックします。
セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。
- 9 設定内容を確認して、[完了]をクリックします。
アプリケーションのセットアップ情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

- 10** 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

クライアント側にコピーするファイルを指定します。

- 1** 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。
- 2** 「ファイル」を選択して、[次へ]をクリックします。
「ファイル情報設定」画面が表示されます。
- 3** 各項目を設定して、[完了]をクリックします。
ファイルの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。
- 4** 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

クライアント側で実行するコマンドを指定します。

- 1** 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。
「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。
- 2** 「実行コマンド」を選択して、[次へ]をクリックします。
「実行コマンド詳細設定」画面が表示されます。
- 3** 各項目を設定して、[完了]をクリックします。
実行するコマンドの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。
- 4** 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更

● 設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を確認するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定確認」を選択します。
各セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

● 設定内容を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を変更するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定変更」を選択します。
各セットアップ情報の設定画面が表示されます。
操作方法は、追加する場合と同じです。

6.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは [クライアント一括導入ウィザード] の「クライアントセットアップ」で設定した「共有フォルダ」です。

重要

- ▶ 各セットアップ資源の登録には、資源の格納先ハードディスクに十分な空き容量が必要です。あらかじめ、十分な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。
- ▶ 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の登録」を選択します。
「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 3 内容を確認して、[登録] をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録されます。「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。

■ まとめて登録

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバのディスクに登録します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の全登録」を選択します。
1つめの「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 2 内容を確認して、[登録]をクリックします。登録しない場合は[スキップ]をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 3 必要に応じて、手順2を繰り返します。
すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

POINT

- ▶ セットアップ資源の全登録中に[キャンセル]をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

■ クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

- 1 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。
- 2 ツールバーの[] []をクリックして、任意の位置へ移動します。
または「セットアップ資源の操作」メニューから「インストール順番上へ」「インストール順番下へ」を選択します。
インストール順が変更されます。

6.5.7 セットアップ資源の登録解除

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

- 1** 「クライアントセットアップ」画面で、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。
- 2** 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の削除」を選択します。
すべてのセットアップ資源をサーバから削除する場合は「資源の全削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。
- 3** [はい] をクリックします。
「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する

デスクトップ環境設定では、サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。

業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。

また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

■ デスクトップ環境設定の準備

重要

- ▶ Windows 2000 Server の場合は、WizardConsole のインストール時に必ず OU を設定してください。OU を設定しなかった場合は、デスクトップ環境設定でクライアント環境制御は行えません。
- ▶ デスクトップ環境設定は、Windows Me クライアントのデスクトップ制御をサポートしていません。Windows Me クライアントを使用する場合は、デスクトップ環境設定によるデスクトップ制御を行わないでください。
- ▶ サーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定により作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

- 1 「WizardConsole」画面で [グループ / ユーザ / 共有資源] タブを選択し、[デスクトップ環境設定] をクリックします。
「デスクトップ環境設定」画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は15個まで作成できます。
[設定.. (Enter)]	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すと「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を【Ctrl】+【↑】【↓】キーで変更します。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを表示します。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

■「デスクトップ環境設定」画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



■「デスクトップ環境設定」画面のメニュー

「デスクトップ環境設定」画面には、次のメニューがあります。

項目	設定
「デスクトップ環境」メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を1つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を1つ下げます。
終了	デスクトップ環境設定を終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作

「デスクトップ環境設定」画面での操作について説明します。

■ デスクトップ環境の優先順位を設定する

デスクトップ環境はドメインのグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）に対して割り当てを行います。ユーザは複数のグローバルグループに所属できます。そのためユーザが所属するグローバルグループそれぞれに、デスクトップ環境設定が割り当てられている場合、ユーザにはデスクトップ設定が複数割り当てられていることになります。その場合、デスクトップ環境設定の優先順位を決める必要があります。

- 1 「デスクトップ環境一覧」から、優先順位を変更したいデスクトップ環境を選択します。
- 2 「デスクトップ環境」メニューから「優先度上へ」 / 「優先度下へ」を選択します。
画面上の [上へ] / [下へ] をクリックしても順位を変更できます。

■ デスクトップ環境設定の追加変更

- ・ 追加
「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。
- ・ コピー
コピーするデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「コピー」を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。
- ・ 削除
削除するデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「削除」を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

■ デスクトップ環境設定を適用するグループの設定

デスクトップ環境を適用するグループを設定します。

- ・ 適用グループを追加する
「グループ一覧」から追加したいグループを選択し [追加] をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。
- ・ 適用グループを解除する
「デスクトップ環境を有効とするグループ」から削除したいグループを選択し [削除] をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

POINT

- ▶ 「グループ一覧」にはグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）の一覧が表示されています。グレー表示になっているグループは、他のデスクトップ環境設定に割り当てられているので、追加することはできません。
- ▶ [アカウントリスト] で、グローバルグループが追加できます。

6.6.2 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。各項目の詳細説明は、[ヘルプ] をクリックすると表示されます。

1 「デスクトップ環境設定」画面で、次のいずれかの操作をします。

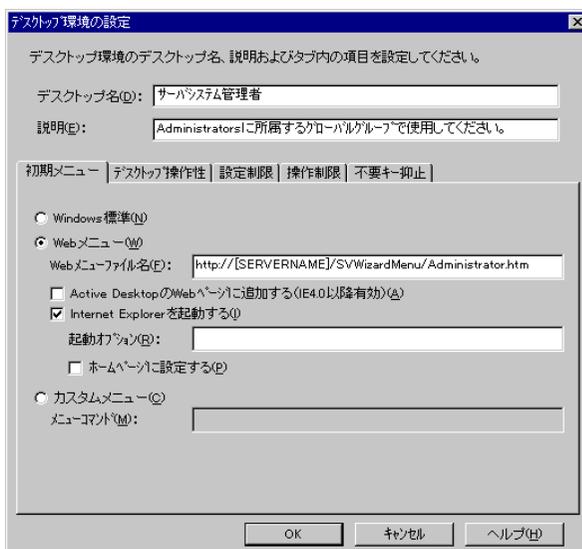
設定を変更する場合

- ・デスクトップ環境名を選択し、[設定] をクリックします。
- ・デスクトップ環境名をダブルクリックします。

追加する場合

- ・[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。
- ・「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択します。

「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。
[初期メニュー] タブ	クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。
[デスクトップ操作性] タブ	デスクトップの操作性に関する制限を行います。
[設定制限] タブ	各種設定に関する制限を行います
[操作制限] タブ	ユーザの操作に関する制限を行います。
[不要キー抑止] タブ	入力操作を無効にするキーの設定を行います。

POINT

- ▶ デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

2 各タブをクリックし、項目を設定します。

POINT

▶ [初期メニュー] タブ

Web メニュー (WizardMenu) は、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニューは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成できます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、WizardConsole インストール終了後に「スタート」ボタン 「プログラム」 「ServerStart」 「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。

Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。

IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。

1. サーバ上に IIS (バージョン 3.0 以上) を構成します。
2. 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Microsoft インターネット サーバー (共通)」 (Windows 2000 は「管理ツール」) 「インターネット サービス マネージャ」の順にクリックします。
3. WWW サービスのプロパティを開き、[ディレクトリ] タブから、以下の3つのフォルダに対し、エイリアスを追加します。
 - c:\%WZCNSL%\desktop\%CGI エイリアス名「ServerWizardMenu\%APPS」
 - c:\%WZCNSL%\desktop\%Controls エイリアス名「ServerWizardMenu\%Controls」
 - c:\%WZCNSL%\desktop\%inetpub エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. WWW サービスを再起動します。
5. デスクトップ環境設定の [初期メニュー] タブで「Web メニュー」を選択します。

▶ [デスクトップ操作性] タブ

「タスクバーを隠す」をチェックすると、「スタート」ボタンからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。

ログオフを行うには、「ExitWin.exe」コマンドを実行してください。

「ExitWin.exe」コマンドは、システムフォルダ配下 (NT の場合「C:\%Winnt%\system32») に格納されています。

3 [OK] をクリックします。

デスクトップ環境が変更、設定されます。

4 デスクトップ環境設定を終了します。

デスクトップ環境の変更、設定は、デスクトップ環境設定の終了時に適用されます。

6.7 クライアントブート設定

クライアントブート設定では、クライアントコンピュータのセットアップ内容、起動方法を設定します。

クライアントブート設定は、クライアントのセットアップ方法によって、次の2種類があります。セットアップ内容にあわせて設定を行ってください。

操作を始める前に、あらかじめ未使用のフロッピーディスクを用意してください。

● OS セットアップ用

クライアントコンピュータのハードディスクを初期化し、新規に OS をインストールする場合に使用します。

クライアントブート設定を行う前に、あらかじめ「リモート OS セットアップ」の設定を行ってください。

● ClientWizard 用

ClientWizard でセットアップを行うためのフロッピーディスクを作成します。ClientWizard は、インストールモデルなど、すでに OS がインストールされているクライアントコンピュータのネットワーク環境 (IP アドレスやドメインへの参加など) を設定する機能です。また、クライアントセットアップで設定したアプリケーションなどのセットアップも行います。

重要

- ▶ Windows NT Server のドメインのメンバサーバのアカウントは、Windows NT Workstation 4.0 と同等に扱われます。そのため、Windows NT Server 4.0 に対してもクライアント起動用フロッピーディスクの作成はできますが、Windows NT Server 4.0 に対して ClientWizard やクライアントセットアップなどの機能は使用できません。

■ MS-DOS イメージの作成

リモート OS セットアップでは、クライアントを起動するために、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクが必要です。通常は、あらかじめ MS-DOS の起動用のフロッピーディスクを作成して使用しますが、WizardConsole では、初回の起動設定時に、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを使用することで、起動に必要な情報を「MS-DOS イメージ」としてサーバに格納します。2 回目以降は、サーバに格納された MS-DOS イメージを使用して起動設定を行います。

POINT

- ▶ MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーしてください。

● MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクの作成

MS-DOS イメージを作成するための MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを、あらかじめ以下のいずれかの方法で作成してください。

- FD バックアップコマンドを使用する場合
クライアントコンピュータに添付のドライバズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成します。FD バックアップコマンドの使用方法については、ドライバズ CD-ROM に添付のマニュアルを参照してください。
- Windows 95 および Windows 98 から作成する場合
Windows 95 および Windows 98 のシステムから以下の方法で作成できます。
 1. A ドライブに、初期化してもよいフロッピーディスクをセットします。
 2. マイコンピュータの A ドライブを右クリックし、メニューから「初期化」を選択します。
 3. 「フォーマットの種類」は「起動専用 (C)」を選択し、[開始] をクリックします。

● MS-DOS イメージの削除

作成した起動用フロッピーディスク、またはネットワークからの起動が正常に行われない場合は、サーバに格納された MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動設定をやり直してください。

MS-DOS イメージを削除するには、クライアントブート設定を起動し、「起動イメージの設定」メニューから「MS-DOS イメージの削除」を選択します。

確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は [OK] をクリックします。

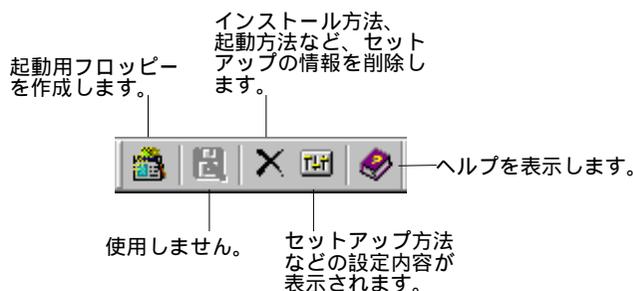
6.7.1 クライアントブート設定を起動する

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントブート設定] をクリックします。

「クライアントブート設定」画面が表示されます。



■「クライアントブート設定」画面のツールバー



■「クライアントブート設定」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
インストール方法	設定されているインストール方法が表示されます。
起動方法	起動方法が表示されます。
パラメータ	パラメータをどこで指定するかが表示されます。
LAN ドライバ	設定されている LAN ドライバが表示されます。

■「クライアントブート設定」画面のメニュー

項目	説明
「起動イメージの設定」メニュー	
FD 作成 Wizard	クライアント起動用フロッピーディスクを作成します。
MS-DOS イメージの削除	起動用フロッピーディスクの MS-DOS イメージを削除します。
削除	インストール方法、起動方法など、セットアップの情報を削除します。起動用フロッピーディスクからの起動がうまくいかない場合は、MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動用フロッピーディスクを作成し直してください。
プロパティ	セットアップ方法などの設定内容が表示されます。

6.7.2 OS セットアップ用

あらかじめリモート OS セットアップ機能を実行し、OS をセットアップするための各設定を行っておいてください。

コンピュータの OS が Windows NT 4.0 Workstation / Server (MEMBER) および Windows 2000 Professional の場合のみ有効です。それ以外の場合にはエラーメッセージが表示されます。

- 1 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。
- 2 「起動イメージの設定」メニューから「ブート/セットアップ設定」を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。

- 3 「OS セットアップ用」を選択して、[次へ]をクリックします。
「登録名の指定」画面が表示されます。
- 4 登録名を指定して、[次へ]をクリックします。
「LAN カード指定」画面が表示されます。
- 5 利用する LAN カードを指定します。
「その他のドライバ」以外を選択した場合は、手順9に進みます。
- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 「その他のドライバ」を選択した場合は、クライアントで使用する LAN カードのドライバを指定して、[次へ]をクリックします。
[参照]をクリックして、ファイルを選択できます。

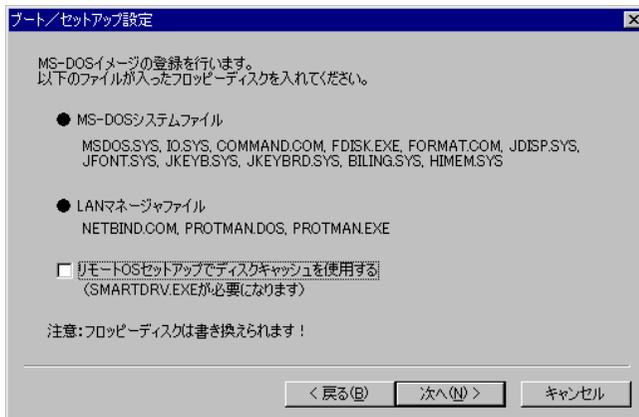
POINT

- ▶ 利用する LAN カードに「その他のドライバ」を選択した場合は、お使いのシステムによって Protocol.ini ファイルの編集が必要です。[詳細]をクリックし、設定してください。ただし、IO ポート /IRQ の設定がそれぞれ 0x300/10 の場合は、編集の必要はありません。

例)「FMV 181/2/3/4」を選択した場合、以下の行を編集します。

```
[ FMV-18x-NIF ]  
Drivename=FJN00I$$  
IOAddress =0x300  
Interrupt =10
```

- 8 LAN カードのタイプを指定します。
「NonPNP」を指定した場合は、「IO ポート」と「IRQ」を指定してください。
- 9 [次へ]をクリックします。
フロッピーディスクのセットを促す画面が表示されます。
初回設定時は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、セットしてください。



4 フロッピーディスクをセットして、[次へ]をクリックします。

POINT

- ▶ 初期化されていないフロッピーディスクの場合は [初期化する] をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると、「クライアントブート設定」画面に戻ります。

作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名 (ClientWizard 用)」と書いておいてください。

6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更

クライアントの起動設定を行ったあと、クライアントのインストール方法などの情報を変更する場合は、一度登録した情報を削除して、再度「FD 作成 Wizard」を行ってください。

- 1 変更対象のコンピュータを選択します。
- 2 「起動イメージの設定」メニューから「削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。
情報が削除されます。再度「FD 作成 Wizard」でクライアント起動設定を行ってください。

6.8 クライアントへのインストール

クライアントのインストール、セットアップを行います。
クライアントに OS がインストールされている場合と、インストールされていない場合とで、操作が異なります。

6.8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合

リモート OS セットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータに OS をインストールします。

重要

- ▶ あらかじめクライアントブート設定の「6.7.2 OS セットアップ用」(P.179)を行い、リモート OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

- 1 クライアント起動用フロッピーディスクをセットして、コンピュータの電源を入れます。
「OS セットアップ起動」画面が表示されます。

ただいまから
FMV-6400TX2
のセットアップを開始します。
Cドライブのデータはすべて削除されます！
セットアップを開始する場合はEnterキーを
中止する場合はESCキーを押してください。

- 2 登録名が正しいことを確認して、【Enter】キーを押します。
「ユーザ情報の設定」画面で指定したパーティションサイズを設定できない場合、パーティションサイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。

システム区画を 4094MB
アプリケーション区画を 2086MB で作成します。
よろしいですか？

- 3 表示されたパーティションサイズでパーティションを作成する場合は、【Enter】キーを押します。
Cドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OS のインストールが開始されます。
OS のインストール終了後、必要に応じてクライアントセットアップ機能をインストールしてください。

■ クライアントセットアップ機能のインストール

Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional のインストール終了後、デスクトップ上にある [クライアントセットアップ機能のインストール] アイコンをダブルクリックします。

クライアントセットアップ機能がインストールされます。

セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。

POINT

- ▶ セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがありますが、運用上の支障はありません。
- ▶ クライアントにセットアップ資源をインストールするタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(P.187) を参照してください。

重要

- ▶ セットアップする機種によってはインストール中に Internet Explorer や ServicePack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されることがあります。これらの CD-ROM は、ドライバやアプリケーションを正しく動作させるのに必要ですので、メッセージに従って CD-ROM をセットしてください。CD-ROM をセットせずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく行われぬ可能性があります。その他の注意点に関しては、リモート OS セットアップを開始する前に、クライアントコンピュータに添付のマニュアルでご確認ください。

6.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合

インストールモデルなど、すでに OS がインストール済みのクライアントコンピュータのセットアップを行います。クライアントセットアップで設定した内容もセットアップされません。

重要

- ▶ クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional または Windows XP を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。
- ▶ あらかじめクライアントブート設定の「6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成」(P.181) を行って、ClientWizard 用のフロッピーディスクを作成してください。

1 セットアップを行うクライアントコンピュータに、ClientWizard 用フロッピーディスクをセットします。

フロッピーディスクは、書き込み可能な状態にしておいてください。

- 2 エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



- 3 [CWizard] をダブルクリックします。

ClientWizard が起動します。

- 4 [クライアントの登録] をクリックします。

「コンピュータ選択」画面が表示され、接続するサーバ情報が表示されます。

- 5 セットアップするコンピュータを選択します。

をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。

- 6 [次へ] をクリックします。

「設定の確認」画面が表示されます。

すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。[OK] をクリックし、画面の指示に従って、コンピュータ名を変更します。

重要

- ▶ クライアントが Windows 2000 Professional または Windows XP の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行ってワークグループに変更し、もう一度最初 (ClientWizard の起動) からやり直してください。
 1. 「システムのプロパティ」画面で [ネットワーク ID] (Windows XP は [コンピュータ名]) タブをクリックします。
 2. [プロパティ] (Windows XP は [変更]) をクリックします。
 3. 「識別の変更」(Windows XP は「コンピュータ名の変更」) 画面の「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
 4. ワークグループ名 (WORKGROUP など) を入力し、[OK] をクリックします。
 5. 画面の指示に従って、再起動します。

- 7 [実行] をクリックします。

セットアップが開始されます。

セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

- 8 LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。その場合は、フロッピーディスクを取り出して、[OK] をクリックします。

再起動され、ログイン画面が表示されます。

9 以降、ご使用の OS により、操作が異なります。

Windows 95 / 98 / Me の場合

1. ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。
はじめてサーバにログオンする場合、「パスワードの確認」画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は、「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたなら OK を押してください。」というメッセージが表示されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして [OK] をクリックします。
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ClientWizard 用フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。
再起動後、ログオン画面が表示されます。

Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional / Windows XP の場合

1. 管理者用アカウントでログオンしてください。
以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、▼ をクリックしてローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたなら OK を押してください。」のメッセージ画面が表示されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして [OK] をクリックします。
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ドメイン名変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。
ネットワークパネルが表示されるので、ドメイン名を指定どおり変更して再起動してください。再起動後、ログオン画面が表示されます。

10 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。

「パスワードの確認」画面（変更）が表示されます。

ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

11 「パスワード」、「パスワード確認」を入力して [OK] をクリックします。

ログオン画面が表示されます。

12 パスワードを入力して [OK] をクリックします。

「OS の起動」画面が表示されます。

クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

 **重要**

- ▶ クライアントセットアップによるクライアントへの資源の自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定されたあとの最初のログオン時に一度だけ行われます。クライアントに資源がセットアップされるタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(P.187) を参照してください。

POINT

- ▶ 一度セットアップしたコンピュータ名は、ClientWizard 用フロッピーディスクから削除されます。
- ▶ セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、ClientWizard 用フロッピーディスクを作成し、セットアップを行ってください。
- ▶ Windows 95 / 98 でデスクトップ環境設定を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の [ユーザ別の設定] タブで確認することができます。
- ▶ Active Directory にログオンするクライアントは、ネットワークの DNS サーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- ▶ Active Directory に Windows 2000 Professional または Windows XP クライアントから Administrator アカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加 / 変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング

セットアップ資源をクライアントにインストールするタイミングを指定します。初期状態は、次にクライアントがログオンしたときにセットアップ資源がインストールされるように設定されています。セットアップを行ったクライアントコンピュータで操作します。

- 1** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「WizardConsole Client」 「クライアントセットアップ - クライアントセットアップ動作環境」の順にクリックします。
「クライアント動作環境設定」画面が表示されます。
- 2** クライアントログオン時にセットアップを実行するかしないかを選択して [OK] をクリックします。
「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログオン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

重要

- ▶ セットアップ資源のインストールに失敗した場合、「クライアントセットアップ」画面で設定したセットアップ情報が間違っていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

POINT

- ▶ 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、「クライアントセットアップ」画面のクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
 - ・サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合
 - ・サーバに同一製品を再登録した場合
 - ・クライアントの OS を入れ替えたことにより、クライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

6.9 変更した情報の登録

WizardConsole で追加、変更した設定情報を登録するには、「コンフィグレーションファイルの作成」を行い、フロッピーディスクに保存します。別のサーバ構築時に使用できます。

重要

- ▶ コンフィグレーションファイルに保存される情報は、以下の情報です。
 - ・コンピュータアカウント
 - ・ユーザアカウント、グループ、共有資源の設定
 - ・デスクトップ設計情報
- ▶ パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、コンフィグレーションファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。システムのバックアップは専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1 「WizardConsole」画面で、[コンピュータ] タブを選択し、[コンフィグレーションファイルの作成] をクリックします。
「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。
- 2 サーバ情報ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。

重要

- ▶ ファイル名には、任意の名前を使用できますが、「SerStartBatch.ini」という名前のファイルのみ OS のインストールが可能です。

- 3 [保存] をクリックします。
コンフィグレーションファイルが作成され、「WizardConsole」画面に戻ります。

重要

- ▶ WizardConsole で作成したコンフィグレーションファイルは、そのままではインストールできません。必ず ServerStart ガイドモードまたは事前設定モードでコンフィグレーションファイルの内容を確認し、適切に修正してから上書き保存してご使用ください。
- ▶ Windows NT、Windows 2000 および WizardConsole で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定し直してください。

6.10 WizardConsole 使用時の留意事項

WizardConsole 使用時にエラーなどが発生した場合、以下の事項を参照してください。

6.10.1 トラブルシューティング

■ 画面に表示されるメッセージについて

- **「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合**

サーバ側で「クライアントセットアップ」画面の操作中にクライアント側でログオンすると、「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」というメッセージが表示されます。

操作中の「クライアントセットアップ」画面で  をクリックするか、「表示」メニューから「最新に更新」を選択したあと後、「インストールコマンド」画面の [再試行] をクリックしてください。
- **クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合**

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」メニューから「最新に更新」を実行してください。

「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。

ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。
- **「デスクトップ環境設定」画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合**

Windows 2000 のドメインコントローラ上でデスクトップ環境設定を使用する場合、デスクトップ環境設定を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。

この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ環境設定をやり直してください。

■ ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーディスクでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、インターネットエクスプローラが起動することがあります。

WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、[初期メニュー] タブで「Windows 標準」を選択します。

また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、インターネットエクスプローラが起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

- 1 サーバ上に IIS (バージョン 3.0 以上) を構成します。
- 2 「スタート」ボタン 「プログラム」 「Microsoft インターネットサーバー (共通) (Windows 2000 では「管理ツール」) 「インターネットサービスマネージャ」の順にクリックします。
- 3 WWW サービスのプロパティを開き、以下の3つのフォルダに対して、[ディレクトリ] タブからエイリアスを追加します。
c:\%WZCNSL%\af12\CGI : エイリアス名「ServerWizardMenu/APPS」
c:\%WZCNSL%\af12\Controls : エイリアス名「ServerWizardMenu/Controls」
c:\%WZCNSL%\af13\inetpub : エイリアス名「ServerWizardMenu」
- 4 WWW サービスを再起動します。
- 5 デスクトップ環境設定の [初期メニュー] タブで「Web メニュー」を選択します。

■ 電源スイッチを押しても電源が切れない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、電源スイッチを4秒以上押して電源を切り、エラー要因を取り除いてください。

■ Intel® PROSet II がインストールされない場合

Windows 2000 Server インストール後、「コントロールパネル」に、「Intel® PROSet II」が登録されていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

- 1 ServerStart の CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。
%Tools%\GENERAL\Intel\%ProSetW2k%\ProSet.exe
- 2 「Automatic execution-runs setup immediately」を選択して、[OK] をクリックします。
以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

■ リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

エラーコード	原因と対策
10	パーティションが作成できませんでした。 OS セットアップを実行してパーティションサイズを変更し、フロッピーディスクを作成し直してください。
11	サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。 原因 1：LAN ケーブルが正しく接続されていません。 対策 1：LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 原因 2：サーバ上で TFTP サービスが実行されていません。 対策 2：コントロールパネルより「サービス」の「Fujitsu Systemcast Wizard/ServerStart TFTP Service」が開始されているか確認してください。 原因 3：サーバとクライアントが同じネットワーク上にいません。 対策 3：サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。 原因 4：指定されたファイルがサーバ上で見つかりません。 対策 4：OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。再度 OS セットアップを実行してドライバーズ CD-ROM をコピーし直してください。
12	情報ファイル Cwizard.ini の内容が正しくありません。 OS セットアップを実行して、フロッピーディスクを作成し直してください。
15	ファイルの書き込みができませんでした。 ディスクが利用可能な状態になっていない可能性があります。ディスクを利用可能な状態にしてください。
16	Windows NT のリモートセットアップスクリプト Unattend.txt が正しくありません。 ドライバーズ CD-ROM から正しくコピーされなかった可能性があります。
20	クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。 WizardConsole のクライアントブート設定で、再度 OS セットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

6.10.2 バックアップドメインコントローラ (BDC) に関する留意事項 (Windows NT Server 4.0 の場合)

バックアップドメインコントローラ (以下、BDC) のサーバに WizardConsole をインストールして使用する場合には、以下の注意が必要です。

■ グループ、ユーザアカウントについて

作成したグループとユーザアカウントはドメイン全体で使用されます。
そのため、プライマリドメインコントローラ (以下、PDC) に WizardConsole をインストールして使用している場合には、BDC で作成したアカウントは、PDC でも管理することができます。

■ コンピュータアカウントについて

作成したコンピュータのアカウントは、WizardConsole がインストールされているサーバごとに管理されます。ある BDC で作成したコンピュータは、PDC や他の BDC では管理できません。同様に、PDC で作成したコンピュータは、他の BDC では管理できません。

■ クライアントセットアップ情報について

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

BDC で資源の読み込みを行っても、読み込みを行った BDC 以外のサーバ (PDC や他の BDC) で使用することはできません。

クライアントコンピュータは、最初に登録したサーバに接続し、資源をコピーします。複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで資源を取り出すサーバ名を変更することもできます。

■ デスクトップ環境設定について

作成したデスクトップ環境設定の情報は、WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータでデスクトップ環境の情報を取り出すサーバ名を変更できます。

■ リモート OS セットアップについて

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

資源を他のコンピュータで管理することはできません。

■ コンフィグレーションファイルについて

BDC では WizardConsole でコンフィグレーションファイルを作成することはできません。

6.10.3 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

「クライアントセットアップ機能」で定義された資源は、ServerStart または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

6.10.4 クライアントセットアップ機能に関する留意事項

■ 同時インストールできる台数

「クライアントセットアップ機能」で定義した内容を同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項

● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。適切なインストール対象クライアントを選択してください。

● インストールに必要なハードディスク容量の確認

ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーになる場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なります。あらかじめ十分な空き容量を確認してください。

■ クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

● アプリケーションの削除方法

「クライアントセットアップ機能」でインストールしたアプリケーションをアンインストールする場合は、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

■ スクリプトに関する留意事項

● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

● アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするコンピュータと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

- 1 クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
- 2 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール（注 1）を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
- 3 インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。

- 4 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせて編集し（注2）、必要に応じてコンパイルします。
コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
- 5 インストールする製品の機能上、システムに対して再起動を要求してくる場合は再起動を実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注1)

Windows上で動作する自動化ツールとは、Windows上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例) 米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

注2)

採取したスクリプトは、イベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。

- ・ 不要関数の削除
イベント採取で不要なイベントを採取した場合は、不要な処理や関数を削除します。
- ・ 画面待ち合わせ
採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている個所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。
- ・ 画面の切り分け
インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一グループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面にあわせてそれぞれ作成してください。それぞれ第 1 フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル取り込み後、入力してください。CSV ファイルの作成は、表計算ソフトを使用すると簡単です。

■ コンピュータ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド	第 4 フィールド	第 5 フィールド
入力項目	コンピュータ名	OS 種別	IP アドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
設定値	(半角 15 文字以内)	1-Windows 95 2-Windows NT 4.0 Workstaion / Server 4.0 (MEMBER) 3-Windows 98 4-Windows NT Server 4.0 (BDC) 5-Windows 2000 Professional / Server (MEMBER) 6-Windows Me 7-Windows XP	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx (第 1 オクテットは 1 ~ 223)	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx (第 1 オクテットは 1 ~ 223)

例 1) Computer2,3,100.10.10.3,255.255.255.0,100.10.10.1

例 2) Computer4,,0,,

■ グループ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド
入力項目	グループ名	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内

例) PG Group1,PG グループ

■ ユーザ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	ユーザ名	フルネーム	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内	半角 48 文字以内

例) fuji,taro fuji, 富士太郎

■ 共有資源用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	共有資源名	ディレクトリ名	説明
設定値	半角 80 文字以内	半角 246 文字以内	半角 48 文字以内

例) tool,c:¥tool, ツール用

6.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成

WizardMenu は、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。

WizardMenu は、Internet Explorer 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。

WizardMenu 作成ツールを使って、WizardMenu のボタンに任意のアプリケーションの起動を割り当てることができます。また、ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けたり、自由な形式でアプリケーション起動ボタンを作成できます。

● メニュー作成例



WizardMenu を作成するには、「WizardMenu 作成ツール」を使用します。

WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」ボタン「プログラム」 「ServerStart」 「Wizard Menu 作成ツール」の順にクリックします。

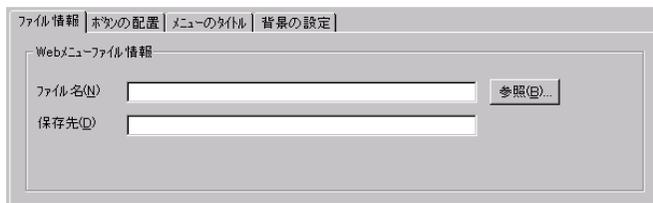
6.11.1 動作環境

項目	説明
動作 OS	Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server
必須ソフトウェア (WWW サーバ)	Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降 未インストールの場合、Wizard Menu が正しく表示されません。
必須ソフトウェア (WWW クライアント)	Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降
選択ソフトウェア	WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するときには必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft® FrontPage® Express (Microsoft インターネットエクスプローラ 4.0 に添付) ・ Microsoft® FrontPage® ・ Microsoft® Visual InterDev™

6.11.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできませんが、再度その HTML ファイルを編集することはできません。編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの「ファイル」メニューの「WizardMenu 形式」(拡張子 .SWM) で保存してから編集操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「ServerStart」 「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。
- 2 [ファイル情報] タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。



項目	説明
ファイル名	保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。
保存先	保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。
[参照]	ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。

POINT

- ▶ ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報 (ボタンの配置 / メニューのタイトル / 背景の設定) を表示することはできません。

3 [ボタンの配置] タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。



項目	内容
ボタンの個数	ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は4、横は3が設定されています。ボタンの個数(縦と横)は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1～20です。
ボタンの大きさ	ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は80、横は180が設定されています。指定できる範囲は、縦が20～200、横が20～600です。
ボタンの間隔	ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5が設定されています。指定できる範囲は、1～100です。

4 [メニューのタイトル] タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。



5 [背景の設定] タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。



項目	内容
背景の色	背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択する画面が表示され、色を変更できます。
背景の画像ファイル	背景で表示する画像ファイルを指定します。[参照]を選択すると、ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定する画面でファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPGです。

6 各ボタンの設定をします。

No.	表題	フォント名	表題の色	ボタンの色	通常時の画像	押下の画像	選択時の画像	上書き表示	ボタンの形状	二重起動抑止	コマンド	起動先
1		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
2		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
3		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
4		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
5		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
6		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
7		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
8		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
9		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
10		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
11		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client
12		System,0,14	0x000000	0xffffffff				✓	✓	✓		Client

項目	内容
表題	ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。
フォント名	表題のフォント名を指定します。
表題の色	表題の文字の色を指定します。
ボタンの色	ボタンの色を指定します。
通常時の画像ファイル	ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。
押下時の画像ファイル	ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。
フォーカス時の画像ファイル	ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。
上書き表示	チェックにすると表題の文字を画像データの上に表示します。
ボタンの形状	チェックすると立体タイプ、チェックしない場合は平面タイプのボタンを表示します。
二重起動抑止	チェックすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。
コマンド	ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。
起動先	
ClientWeb	Webメニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。
Server	サーバで指定したコマンドを起動します。
起動ホスト名	起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
タイムアウト	サーバとの通信タイムアウト時間をしていします。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
ユーザ認証	
指定なし	ユーザ名、パスワードの指定をしません。
1回のみ	ボタンを選択した1回目のみユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。
必ず指定	ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。

7 「ファイル」メニューから「WizardMenu 形式」 「保存」の順にクリックします。

WizardMenu を WizardMenu 形式 (拡張子 .SWM) で保存します。

6.12 WizardConsole のアンインストール

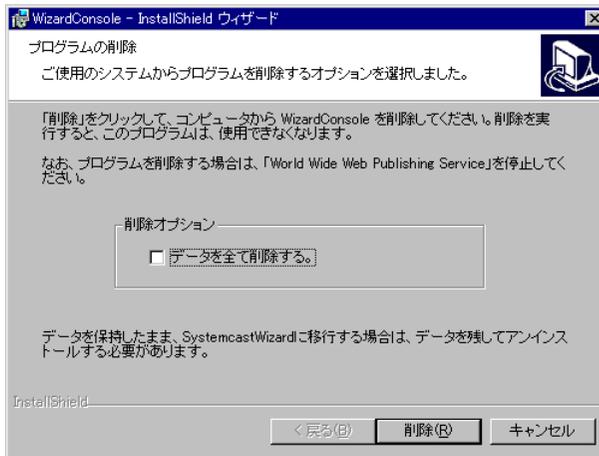
WizardConsole のアンインストール方法について説明します。

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

重要

- ▶ WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 「WizardConsole」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
次の画面が表示されます。



POINT

- ▶ 「データを全て削除する」にチェックを付けた場合は、クライアントセットアップ、リモート OS セットアップなどにより取り込み済みのデータすべてが削除されます。チェックを付けない場合は、削除されません。アンインストール後削除する場合は手動でデータフォルダを削除してください。
- 4 [削除] をクリックします。
アンインストールが行われ、完了画面が表示されます。
 - 5 [完了] をクリックします。
システムを再起動します。

 **重要**

▶ アンインストール後は、必ずシステムを再起動してください。

 **POINT**

- ▶ アンインストール後、インストール時に自動的に作成されるユーザアカウント (SWClientSetupUser、SWSetupUser) が必要ない場合は、以下の手順に従ってアカウントを削除してください。
 - ・ < Windows NT ドメインコントローラ >
「プログラム」の「管理ツール (共通)」 - 「ドメインユーザーマネージャ」を起動し、「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
 - ・ < Windows 2000 ドメインコントローラ >
コントロールパネルの「管理ツール」 - 「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を起動し、作成した OU または User から「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
- ▶ アンインストール後、次のフォルダが残る場合があります。エクスプローラなどを利用して、手動で削除してください。
C:¥WZCNSL
C:¥WZCNSL¥desktop フォルダが残っている場合は、「World Wide Web Publishing Service」を停止してからフォルダを削除してください。

第7章

各種ドライバディスク

この章では、ドライバの作成方法とインストール方法について説明しています。

7.1 ドライバの作成方法	204
7.2 ドライバのインストール	208

7.1 ドライバの作成方法

サーバの運用中にオプションカードを増設する場合や、サーバを手動でインストールする場合などに必要なドライバディスクの作成方法 / インストール方法について説明します。

ドライバディスクは、ServerStart のフロッピービルダ機能を使用して作成します。

7.1.1 ドライバの作成方法

ドライバディスク作成用のフロッピーディスクをあらかじめご用意ください。

フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

- ・クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合（推奨）
- ・サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合

1 ServerStart を起動します。

クライアントコンピュータで作成する場合

1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。

アンインストールの方法については、「A.14 ServerStart のアンインストール」(P.224) を参照してください。

重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

2. クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

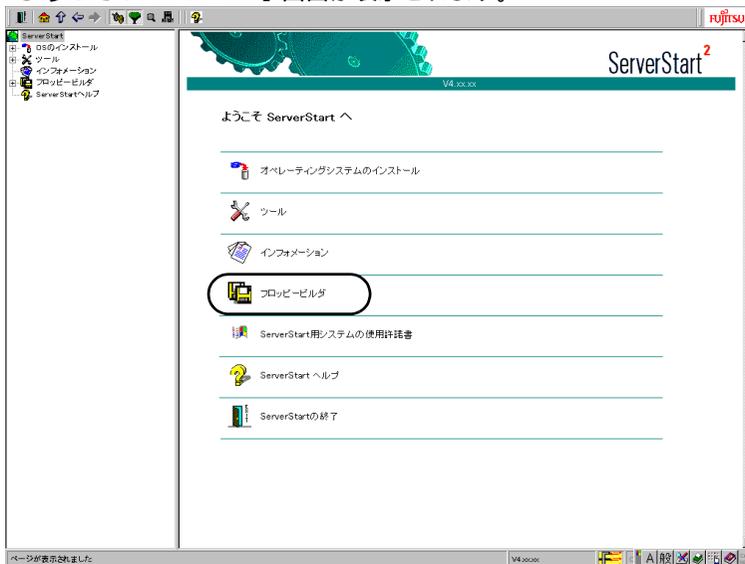
「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。



3. 「ServerStart フロッピーディスクをセットして、ServerStart を起動する」をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



4. 「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライバから抜き出します。

2 「フロッピービルダ」をクリックします。

「フロッピービルダ」画面が表示されます。



3 「ドライバディスク」をクリックします。

「フロッピービルダ ドライバディスク」画面が表示されます。

4 作成したいドライバの種類をクリックします。

- 5 作成したいドライバディスクをクリックします。
メッセージに従って、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 6 以降は画面のメッセージに従い、操作を行います。
自動的にフロッピーディスクがフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。
ドライバディスクの作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、「フロッピーディスクの作成が完了しました」というメッセージが表示されたら作成は終了です。[OK]をクリックし、フロッピーディスクを取り出してください。

POINT

- ▶ ドライバディスクは「ServerStart フロッピーディスク」とは別のものをあらかじめご用意ください。
- ▶ 作成するドライバごとにフロッピーディスクが必要です。

7.2 ドライバのインストール

LAN ドライバ、VIA チップセットドライバ、ディスプレイドライバのインストール方法について説明します。

7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)

■ LAN ドライバの更新

- 1 ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをサーバ本体にセットします。
- 2 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューの中から [管理] を選択します。
- 3 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 搭載されている LAN のポート数だけ以下の名称が表示されます。
・「その他のデバイス」配下の「イーサネット コントローラ」
これらのネットワークアダプタをダブルクリックして、以下の手順 5 ~ 10 をすべての LAN ポートに対して行います。
- 5 [ドライバ] タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 「ドライバファイルの特定」画面で、検索場所のオプションに「フロッピーディスクドライブ」のみを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 「次のデバイスドライバが検出されました」と表示されたら [次へ] をクリックします。
ドライバのインストールが開始されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 [閉じる] をクリックします。
- 12 設定内容を有効にするために、システムを再起動してください。

重要

- ▶ オンボード LAN /PG-1851/PG-1861/PG-1871/PG-1871L/PG-1881/PG-189/PG-1891 は、上記の手順 4 で、すべて「イーサネットコントローラ」と表示されるため、どのドライバディスクが適切か判断できません。間違ったドライバディスクの場合、上記の手順 7 を実行後、「このデバイスのドライバの場所を特定できません」と表示されます。ドライバディスクを交換後、再度インストールを行ってください。

■ LAN カードを増設した場合

LAN カードを新しく増設した場合、システム起動時に、以下の画面が表示される場合があります。それぞれ次のように対処してください。

- 「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示される場合
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセット後、「LAN ドライバの更新」の手順 6 から操作してください。
- 「ディスクの挿入」画面が表示され、「Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk」または、「Intel(R) PRO/1000 Disk Driver」のセットが要求される場合
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットして、ドライバのインストールを行ってください。

重要

- ▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示される場合がありますが、その場合は [はい] をクリックして、処理を続行してください。
- ▶ 「ファイルの上書き確認」画面が表示された場合は、通常、上書きは行わないでください（「すべて上書きしない」を選択してください）。

7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)

Windows NT Server 4.0 対応 LAN ドライバ（以降、Windows NT ドライバと呼びます）のインストールには、次の 2 つの方法があります。

- すでに Windows NT Sever 4.0 がインストールされている状態で、Windows NT ドライバを追加する方法（ P.209 ）
- Windows NT Sever 4.0 のシステムインストールと同時に Windows NT ドライバをインストールする方法（ P.210 ）

■ Windows NT ドライバを追加する場合

- 1** 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。
- 3** [アダプタ] をクリックし、[追加] をクリックします。

- 4 [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。
- 5 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。
- 6 「Intel (R) PRO Adapter」を選択し、[OK] をクリックします。
Windows NT ドライバがインストールされます。
- 7 設定内容を有効にするために、システムを再起動してください。

■ Windows NT Server 4.0 と同時にインストールする場合

- 1 Windows NT Server 4.0 のインストール途中で、「ネットワークアダプタ」画面が表示されます。[一覧から選択] をクリックします。
- 2 [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。
- 3 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。
- 4 「Intel(R) PRO Adapter」を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。
Windows NT ドライバがインストールされます。

重要

- ▶ Windows NT Server 4.0 で、LAN カードを取り外す時は、カードを取り外す前に、以下の手順でドライバを削除してください。
 1. 「コントロールパネル」から「ネットワーク」をダブルクリックします。
 2. [アダプタ] タブを表示し、削除するアダプタを選択して [削除] をクリックします。

7.2.3 最新のドライバについて

最新のドライバは、弊社情報サイト FMWORLD.NET の「ソフトウェアライブラリ」(以下 URL) で公開されています。

http://www.fmworld.net/index_down.html

付録

この章では、トラブルシューティングと、ネットワークパターンについて説明しています。また、ServerStart を使用してインストールを行う場合に有効なデザインシートを添付しています。

付録 A	トラブルシューティング	212
付録 B	ネットワークパターン別 設定方法	225
付録 D	デザインシート	256

付録 A トラブルシューティング

本サーバのインストール時における留意事項や、エラーメッセージなどについて説明します。

A.1 インストール先区画サイズについて

インストール先区画の設定可能なサイズは、インストール対象となる OS とフォーマット形式によって、次のようになります。

	Windows NT	Windows 2000
最小値	1024MB	2030MB
最大値	4095MB	15000MB
デフォルト値*	4000MB	15000MB
推奨構成	ファイルシステム：FAT 区画サイズ：4000MB	ファイルシステム：NTFS 区画サイズ：15000MB

* デフォルト値：ディスクウィザードで区画設定時に表示される初期値です。

- **OS および BOOT パーティションを別々の区画に設定する場合は、区画サイズに「自動設定」を選択せず、直接区画サイズを指定します。**
 - ・ BOOT
起動区画を表します。「ntldr」などの起動に必要な最小の情報が配置されます。
 - ・ OS
OS インストール区画を表します。
- **区画サイズは、次の値未満になるように設定してください。**
 - ・ OS および BOOT パーティションを同一パーティションに設定する場合
Windows NT : BOOT,OS 区画サイズ = 4000MB
Windows 2000 : BOOT,OS 区画サイズ = 15000MB
 - ・ OS および BOOT パーティションを別々の区画に設定する場合
Windows NT : BOOT + OS 合計区画サイズ = 4000MB
Windows 2000 : BOOT + OS 合計区画サイズ = 15000MB
- **次の値を超えた区画にはインストールできません。**
 - Windows NT : 4000MB
 - Windows 2000 : 15000MB

A.2 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項

ServerStart では、OS インストールウィザードで、システムに搭載された複数の LAN アダプタ（ネットワークアダプタ）をあらかじめ構成することができます。ただし、次の制限事項があります。

■ アダプタ番号について

複数の LAN カードおよび通信カード（GP5-163/165 など）を構成する場合、アダプタ 1、アダプタ 2 の順でアダプタ番号を選択し、アダプタごとに設定内容を入力します。ただし、アダプタ番号は、搭載されている LAN アダプタのスロット順と必ずしも一致するわけではありません。アダプタ 1 の設定内容が、常にオンボード LAN に設定されるとは限らないため、OS インストール完了後に、どの LAN アダプタに、どの設定内容が反映されたかを必ず確認してください。

■ OS インストールタイプの場合

OS インストールタイプでは、ServerStart を使用して開封する際に構成できるアダプタは 1 つだけです。インストール完了後に、残りの LAN アダプタの構成（ドライバのインストール、IP アドレスの設定など）を行ってください。

■ DHCP より IP アドレスを取得する場合

Windows NT Server 4.0 および Windows NT Server Enterprise Edition で複数の LAN アダプタを構成し、DHCP より IP アドレスを取得するように設定した場合、ポート 1 以外のポートに対しては、DHCP より IP アドレスを取得することができません。この場合、OS インストール完了後、再度 DHCP を選択し直し、サーバを再起動してください。

A.3 LAN ドライバの詳細設定について

LAN ドライバの詳細設定は、「コントロールパネル」に登録されている「Intel®PROSet II」から行ってください。

■ Intel® PROSet II のインストール

通常「Intel® PROSet II」は、ドライバと同時にインストールされますが、Windows 2000 Server で、ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクを使用してドライバをインストールした場合は、「Intel® PROSet II」はインストールされません。

Windows 2000 Server で、「コントロールパネル」に「Intel® PROSet II」が登録されていない場合は、次の手順に従ってインストールを行ってください。

- 1 ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。
[CD-ROM ドライブ] : ¥Tools¥GENERAL¥Intel¥Proset¥W2k¥Proset.exe
- 2 「Automatic execution-runs setup immediately」を選択して、[OK] をクリックします。
以降は、指示に従ってインストールを続行してください。

■ ヘルプ参照時の注意

ヘルプを参照するときは、次の点に注意してください。

- ・ インテル社のオンラインサービスからダウンロードできるドライバを、本サーバ上で使用しないでください。

- LAN カード (PG-1851、PG-1871/1871L) は、PRO/100S adapter、82550-based adapter に対応します。ただし、PG-1851にはSecurity offloading(IPsecのハードアシスト)機能はありません。LAN カード (PG-189/1891) は、PRO/1000 (Server) adapter、PRO/1000T model、82543-based adapter に対応します。
- LAN カード (PG-1891) は、PRO/1000 copper-based models に対応します。
- Priority Packet(802.lp/802.lq Tagging) 機能は使用しないでください。
- IPSec は、Windows 2000 Server でのみ使用可能です。Windows NT Server 4.0 で IPSec は Enable にしないでください。

■ PG-183/188x/189x LAN ドライバ V3.1 の制限事項

Gigabit Ethernet 用 LAN ドライバ PG-183/188x/189x LAN Driver V3.1 には以下の制限事項があります。

- Windows NT Server 4.0 もしくは Windows 2000 Server で PG-1891 をご使用の場合、システム起動時に、イベントビューアのシステムログに以下のログが格納される場合があります。

ソース	E1000
ID	13
種別	警告
説明	(アダプタ名) PROBLEM: Could not established link. ACTION: Check network cable ACTION: Run PROSet diagnostics *(アダプタ名) は OS やハード構成によって異なります。

このイベントログは、ネットワークのリンクは正しく確立されていても格納されますので、無視してください。

また、Windows NT Server 4.0 もしくは Windows 2000 Server で PG-1891 を使用して Teaming を構成すると、システム起動時に、イベントビューアのシステムログに以下のログから始まり、同一ソースからのログが複数格納される場合があります。

ソース	iANSMiniport
ID	11
種別	警告
説明	Adapter link down: (アダプタ名) *(アダプタ名) は OS やハード構成によって異なります。

これらのイベントログは、Teaming が正しく動作していても格納されてしまいますので無視してください。

- Gigabit Ethernet LAN カード (PG-1881/PG-1891) と Ethernet LAN カード (PG-1851/1871/1871L/ オンボード LAN) との Teaming は使用しないでください。

■ Teaming (AFT (Adapter Fault Tolerance) / ALB (Adaptive Load Balancing)) 機能について

● 留意事項

Teaming 機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT Server 4.0 では、Service Pack 6a 以降が必須です。
- Windows 2000 Server では、Service Pack 2 以降が必須です。
- 1 チームに組み込める LAN のポート数は最大 4 ポートです。

- Windows 2000 Server で、Team を作成すると、システムの「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイヤルアップ接続」に仮想アダプタ (Intel® Advanced Network Service Virtual Adapter) が作成されます。この仮想アダプタを、「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイヤルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。削除する場合は、必ず「Intel® PROSet II」を使用してください。
- Teaming 使用時は、以下の対象プロトコルのみ使用可能です。
 - IP、NetBEUI、IPX(NCP)、IPX(NetBIOS)
- Teaming 使用時は、IPSEC のハードアシスト機能は使用できません。チーム内のすべてのカードが IPSEC のハードアシスト機能を持っていても、使用しないでください。
- Teaming 使用時は、Windows Load Balancing Service (WLBS) や、Network Load Balancing (NLB) を使用することはできません。

● Teaming の設定手順

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 2 「Intel(R) PROSet II」を起動します。
- 3 Team に組み込むカードを選択し、右クリックします。
- 4 「Add to Team」の「Create New Team」をクリックします。
「Teaming Wizard」が表示されます。
- 5 作成したい Teaming のタイプを選択します。
AFT 使用時は「Adapter Fault Tolerance」、ALB 使用時は「Adaptive Load Balancing」、SFT 使用時は「Switch Fault Tolerance」を選択します。
他の Teaming のタイプは使用しないでください。
- 6 Teaming に組み込む LAN カードを選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 [完了] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。
Teaming の設定が完了すると、以下の仮想アダプタが作成されます。
 - Windows NT Server 4.0 の場合
「Intel(R) ***** Team」(例：AFT のときは、「Intel(R) Adapter Fault Tolerance Team」)
 - Windows 2000 Server の場合
「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」
上位プロトコルは、本仮想アダプタにバインドされます。
Team を構成する LAN カードにはバインドできません。
IP アドレスは、本仮想アダプタに設定できます。

■ VLAN について

● 留意事項

VLAN を使用する場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT Server 4.0 で、Wins クライアント (TCP/IP) がバインドされる VLAN は、システム全体で最大 4 本までにしてください。
Windows 2000 Server で、NetBIOS over TCP/IP が有効な VLAN は、システム全体で最大 4 本までにしてください。
- Windows NT Server 4.0 では、Service Pack 6a 以降が必須です。
- VLAN 上では、TCP/IP 以外のプロトコルは使用しないでください。
- 1 つの LAN ポートに設定可能な VLAN の数は最大 10 個までです。
- Windows 2000 Server で VLAN を追加したり、削除する場合は、必ず「Intel(R) PROSet II」を使用してください。VLAN を「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイヤルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。

● VLAN の設定手順

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 2 「Intel(R) PROSet II」を起動します。
- 3 VLAN を設定する LAN カードを選択し、右クリックします。
- 4 「ADD VLAN」をクリックします。このとき、次のメッセージが表示される場合がありますが、[はい] をクリックしてください。

IEEE VLANs (802.1Q) をサポートしているスイッチに接続する必要がありますが、QOS Packet Tagging をイネーブルにしますか？

- 5 「VLAN ID」と「VLAN Name」を設定して、[OK] をクリックします。
「VLAN ID」は、スイッチ側の設定と一致する必要があります。
「VLAN Name」は、スイッチ側の設定と一致していません。
- 6 設定したい VLAN ごとに、手順 3 ~ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。
VLAN の設定が完了すると、以下の仮想アダプタが作成されます。
 - Windows NT Server 4.0 の場合
「Intel(R) Virtual Adapter(VLAN, ID=*)」
 - Windows 2000 Server の場合
「Intel(R) Advanced Network Services Virtual Adapter」上位プロトコルは、本仮想アダプタにバインドされます。
VLAN を構成する LAN カードにはバインドできません。
IP アドレスは、本仮想アダプタに設定します。

■ ローカルアドレスの設定

次の手順に従って、ローカルアドレスを設定してください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel® PROSet」または「Intel® PROSet II」を起動します。
- 3 設定するカードを選択し、[Advanced] タブをクリックします。
- 4 「Locally Administered Address」の値に設定したいローカルアドレスを設定します。

■ Jumbo フレームについて

Gigabit Ethernet LAN カード (PG-1881/PG-1891) では、Jumbo フレームが使用できます。Jumbo フレームを使用する際は、Jumbo フレームネットワーク内の機器は、すべて Jumbo フレーム対応装置で構成し、Jumbo フレームを有効とする設定をしてください。

次の手順で、Jumbo フレームの設定を行います。

- 1 「コントロールパネル」から「Intel® PROSet II」を起動します。
- 2 設定するカードを選択し、「Advanced」タブをクリックします。
- 3 「Jumbo Frames」に、使用する最大フレームサイズを設定します。

■ その他の注意事項

- Windows NT Server 4.0 でアダプタの設定を変更する場合は、終了後システムを必ず再起動してください。
- ハブスイッチまたはルータを経由せず、クロスケーブルを用いて直接他装置と接続する運用はできません。
- Windows NT Server 4.0 をご使用の場合、ネットワークのプロパティで、LAN を複数ポート設定して、バインドおよび TCP/IP の設定を行うと、「rundll32.exe アプリケーションエラー」が発生する場合があります。この場合は、次の手順で TCP/IP を設定してください。
 1. バインド情報の設定後、TCP/IP を設定する前に、システムを再起動します。
 2. 再起動後、TCP/IP を設定します。

A.4 Windows 2000 セットアップ中に自動ログオンされない場合

ServerStart では、OS のインストール時に添付されているアプリケーションや、ハードウェアのユーティリティも同時にインストールされます。インストールやその後の再起動およびログオンは、必要に応じて自動的に行われますが、まれに自動ログオンが行われず、ログオン画面が表示される場合があります。この場合、あらかじめインストール前に設定したユーザ名、パスワードでログオンしてください。ログオン後、セットアップ処理が継続されます。

A.5 Active Directory 構築中に入力画面で停止した場合

Active Directory の構築中に自動インストールが停止してしまった場合は、最初にエラーの内容を確認してください。自動インストールでは、パスワードが必要な場合は、DNS への登録に失敗した場合などに停止することがあります。環境を確認して手動でインストールを続行してください。問題が解決しない場合は、[キャンセル]をクリックして、OS インストール終了後、手動で Active Directory の構築を行ってください。

Active Directory のインストールウィザードを手動で続行した場合は、インストールウィザードが終了すると、次のメッセージが表示されます。

“Active Directory のインストールウィザードによって行われた変更を有効にする前に Windows を再起動する必要があります。”

このメッセージが表示された場合は、[再起動する]をクリックして、インストールを続行してください。

A.6 インストール時に表示されるエラーメッセージについて

- **“WzDiskAdmin: System Error! xxxxxxxxxxxxxxxx, Last Error: デバイスの準備ができていません。”と表示される**
SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど）が接続されている可能性があります。この場合、SCSI オプション装置を外してから、再度インストールを実行してください。取り外したオプション装置は、インストールがすべて終了してから取り付けてください。
- **“WzDiskAdmin: Partition detected! Please delete all partition before starting Configuration”と表示される**
再度ガイドモード、または事前設定モードを実行し、ディスクウィザードで、「表示されているディスクに存在する、全ての区画を削除する」にチェックを付けてください。
- **“WzRaid: RAID arrays detected! Please delete all RAID arrays before starting Configuration”と表示される**
作成した ServerStart フロッピーディスクを使用して、RAID ウィザードで、「既存の RAID アレイを削除する」にチェックを付けてください。
- **CD-ROM からのファイルコピー後の再起動で “Operating System not found” と表示される**
次の問題が考えられます。確認してください。
 - ・インストール先区画サイズを 15000MB 以上にした
 - ・搭載 RAID カードの起動デバイスの順番が、Onboard SCSI より後になっている
 - ・Active フラグが指定されている
- **インストール中に “Missing Operating System” と表示される**
インストール先区画サイズが大きすぎる可能性があります。インストール先区画サイズには正しい値を指定してください。
インストール先区画サイズの詳細については、「A.1 インストール先区画サイズについて」（P.212）を参照してください。

A.7 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて

SCSI オプション装置を接続した場合、ドライブ文字が入れ替わることがあります。SCSI オプション装置を接続する場合は、必ずセットアップを終了してからディスクアドミニストレータを起動し、ディスクの構成を保存してから接続してください。ディスクの構成を保存するには、ハードディスクの構成を変更する必要があります。未使用の領域にいったんパーティションを作成してからそのパーティションを削除して、ディスクの構成情報を保存します。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ディスクアドミニストレータを起動します。
ハードディスクの未使用の領域を選択し、「パーティション」メニューから「作成」を選択します。
確認のダイアログが表示されたら、[はい]をクリックします。
- 3 プライマリパーティションの作成ダイアログが表示されます。
作成するパーティションサイズを指定して、[OK]をクリックします。
作成したパーティションを選択して、「パーティション」メニューから「削除」を選択します。
- 4 ディスクアドミニストレータを終了します。
確認のダイアログが表示されるので、[はい]をクリックします。
- 5 [ディスクアドミニストレータ]ダイアログが表示されたら、[OK]をクリックします。
- 6 システムをシャットダウンして本体の電源を切ってから、外部 SCSI オプション装置を接続します。
- 7 本体の電源を入れて、システムを起動します。

POINT

- ▶ 万が一ドライブ文字が入れ替わってしまった場合は、SCSI オプション装置をいったん取り外してシステムを再起動し、ディスクアドミニストレータを起動してドライブ文字を変更してから、SCSI オプションを取り付けてください。

A.8 スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクの使用法

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。詳しくは、光磁気ディスクユニットのマニュアルを参照してください。

A.9 Windows 2000 インストール後に発生するイベントログのエラーについて

Windows 2000 のインストールが完了した後に、イベントビューアに次のイベントが表示される場合があります。該当するイベントの対処方法を確認し、対処してください。

ID	説明	原因と対処方法
9	デバイス XXXX は、タイムアウト期間内に応答しませんでした。	PG-144B/142B/128 などの SCSI カードを搭載した場合に表示される可能性があります。問題はありません。
15	デバイス XXXX は、まだアクセスできる状態ではありません。	PG-144B/142B/128 などの SCSI カードを搭載した場合に表示される可能性があります。問題はありません。
62	このコンピュータは、フォレストのルートにあるドメインの PDC です。net コマンド「net time /setsntp:<サーバー名>」を使って、外部タイムソースから同期するように構成してください。	原因：コンポーネントとして NTP を選択すると発生します。 対処方法：ServerStart では、NTP サーバを指定する設定箇所がないため、自動構成できません。OS インストール後に、次の手順でタイムサーバの指定を行ってください。 <ol style="list-style-type: none"> 別マシンで SNTP サーバを稼働させます。 仮に SNTP サーバのアドレスを <172.22.78.246> とします。 コマンドプロンプトで次のように入力します。 net time /setsntp:172.22.78.246 w32tm -s 172.22.78.246
1000	ユーザまたはコンピュータ名を判断できません。戻り値は「1722」です。	原因：優先 DNS サーバのアドレスが無効であるか、接続できない場合に発生する可能性があります。 対処方法：次の手順でインターネットプロトコル (TCP/IP) プロパティの DNS アドレスを修正してください。 <ol style="list-style-type: none"> [マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリックして、[プロパティ] をクリックします。 [優先 DNS サーバ] ボックスに正しい DNS アドレスを入力します。

A.10 メモリダンプが取得できない場合

メモリダンプファイルが作成されない場合は、以下の方法で対処します。

■ 正しい設定を行う

メモリダンプを取得できない場合、ページングファイルの設定とダンプファイルの設定を確認してください。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定」(P.94)を参照してください。

■ システムドライブ以外にメモリダンプを取得する

システムドライブ (c:¥) にメモリダンプを取得している場合は、システムドライブ以外にメモリダンプを取得するように設定を変更します。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定」(P.94)を参照してください。

システムドライブしかない場合や、どのドライブにも空き容量がない場合には、次のどちらかの方法で対処します。

- ・ ハードディスクを増設する。
- ・ より大きな容量のハードディスクへ交換する。

■ 搭載メモリを減らしてメモリダンプを取得する

搭載メモリサイズに関係なくメモリダンプを取得する場合には、搭載メモリをメモリダンプ取得可能なメモリ容量に減らしてメモリダンプを取得します。

搭載メモリを変更した場合は、メモリダンプの設定を確認してください。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定」(P.94)を参照してください。

■ デバッグ情報の書き込みの種類を変更する (Windows 2000 Server の場合)

メモリダンプを取得できない場合、ボリュームサイズの空き容量の範囲内に収まるデバッグ情報の書き込みの種類を選択してください。

上記対処ができない場合、ハードディスクを増設するなどの方法で対処します。

■ 再インストールする (Windows NT Server 4.0 の場合)

システムドライブに十分な空き容量が確保できるシステム区画を作成し、Windows NT Server 4.0 を再インストールします。

十分な空き容量が確保できない場合には、次のどちらかの方法で対処します。

- ・ ハードディスクを増設する。
- ・ より大きな容量のハードディスクへ交換する。

POINT

▶ インストール区画について

Windows NT Server 4.0 セットアップによって作成できるブートパーティションのサイズは、4GB までです。

ただし、ハードディスクドライブを、Windows NT Server 4.0 を実行させている他の同一環境のシステムに接続し、ディスクアドミニストレータを実行して NTFS パーティションを作成すれば、最大 7.8GB でフォーマットされているパーティションにインストールが可能になります。本パーティションへ Windows NT Server 4.0 をインストールする場合、ファイルシステムの選択画面で、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択します。

A.11 カスタムメイドにおけるプレインストールタイプについて

OS インストールタイプ（Windows NT Server 4.0）では、メモリダンプを取得できない構成があります。メモリダンプの取得可能なメモリ容量を次に示します。

■ メモリダンプをシステムドライブに取得する場合

搭載可能なメモリ容量は、次の値を超えない実際のメモリの組み合わせとなります。

搭載可能なメモリ容量 = ([システム区画サイズ] - [インストールサイズ]) / 2

なお、インストールサイズには、ページングファイルのサイズは含まれません。

■ メモリダンプをシステムドライブ以外に取得する場合

搭載可能なメモリ容量は、次の値を超えない実際のメモリの組み合わせとなります。

搭載可能なメモリ容量 = [システム区画サイズ] - [インストールサイズ]

なお、インストールサイズには、ページングファイルのサイズは含まれません。

詳細については、「4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定」(P.94) を参照してください。

また、メモリダンプを取得できない場合は、「A.10 メモリダンプが取得できない場合」(P.221) を参照してください。

A.12 システムの修復について

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、インストール時に作成した修復ディスクに保存されている修復情報を使ってこれらを再構築できます。

OS インストール時や、システム構成を変更した場合は、「4.2 システム修復ディスクの作成」(P.102) を参照して、修復ディスクを作成してください。

■ Windows NT の場合

- 用意するもの
 - Windows NT Server 4.0 Disc1
 - Windows NT セットアップディスク 3 枚
 - あらかじめ作成した Windows NT システム修復ディスク
 - Windows NT Server ファーストステップガイド

- 1 「Windows NT Server ファーストステップガイド」に従って、Windows NT のセットアップを開始します。
- 2 Windows NT Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。
- 3 セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

- ▶ システム修復時の注意点
 - ・システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。
 - ・システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows NT Server 4.0 の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.6 再インストール」(P.81)を参照して再インストールしてください。
 - ・ファイルの修復中に、「セットアップが Windows NT のインストール時にコピーしたオリジナルのファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、もしくは【A】キーを押して非オリジナルファイルを修復し、システムの修復が完了したあとに、本体添付のドライバや、Windows NT 4.0 Service Packなどを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- ・ 用意するもの
 - ・ Windows 2000 Server の CD-ROM
 - ・ あらかじめ作成した Windows 2000 システム修復ディスク
 - ・ Windows 2000 Server ファーストステップガイド
- 1 「Windows 2000 Server ファーストステップガイド」(SBS 2000 の場合は、「スタート」ボタン 「ヘルプ」から「システム修復ディスクを使ってシステムを修復するには」)に従って、Windows 2000 Server のセットアップを開始します。
 - 2 Windows 2000 Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。
 - 3 セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

- ▶ システム修復時の注意点
 - ・システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。
 - ・システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows 2000 Server の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.6 再インストール」(P.81)を参照して再インストールしてください。
 - ・ファイルの修復中に、「ファイル XXXXXX.XXX は Windows 2000 のインストール時にコピーされた元のファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、もしくは【A】キーを押してファイルを修復してください。

A.13 プリンタのセットアップについて

プリンタのセットアップには対応していません。セットアップ終了後にインストールを行ってください。

A.14 ServerStart のアンインストール

事前設定モードや、ドライバフロッピーディスクの作成のため、クライアントにインストールした ServerStart をアンインストールする場合は、次の手順に従ってください。

- 1** 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 3** 「Fujitsu ServerStart」を選択し、[削除]をクリックします。
正常にアンインストールが実行されると、Fujitsu ServerStart が削除されます。

POINT

- ▶ Windows 2000 Professional でアンインストールを行った場合
「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなる場合があります。この場合、システムをログオフしてください。

付録 B ネットワークパターン別 設定方法

ここでは、ドメインコントローラ、ドメインメンバサーバおよびスタンドアロンサーバなど、パターン化されたネットワーク構成の設定のポイントについて説明します。

それぞれのネットワークパターンを構築する場合の設定について、「OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)」(P.271) または 「OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)」(P.267) のデザインシートにあらかじめ設定値を記入しておく、インストール時にスムーズに設定が行えます。

B.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン

ServerStart では、次の目的別サーバを構築できます。

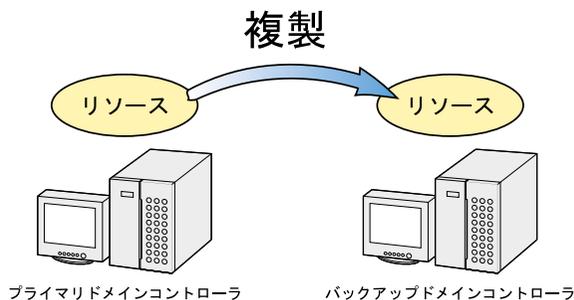
- ドメインコントローラ
 - OS の種別により、次の 2 種類のドメインがあり、それぞれいくつかのパターンが構築できます。
 - Windows NT 4.0 ドメイン
 - PDC (プライマリドメインコントローラ) / BDC (バックアップドメインコントローラ)
 - Active Directory ドメイン
 - 新しいフォレスト / 新しいツリー / 追加ドメインコントローラ / 子ドメイン
- ドメインメンバサーバ
- スタンドアロンサーバ

■ ドメインコントローラ

● Windows NT 4.0 ドメイン

Windows NT 4.0 を使ってドメインを構築する場合、ドメインコントローラには、PDC (プライマリドメインコントローラ) と BDC (バックアップドメインコントローラ) のいずれかを選択できます。

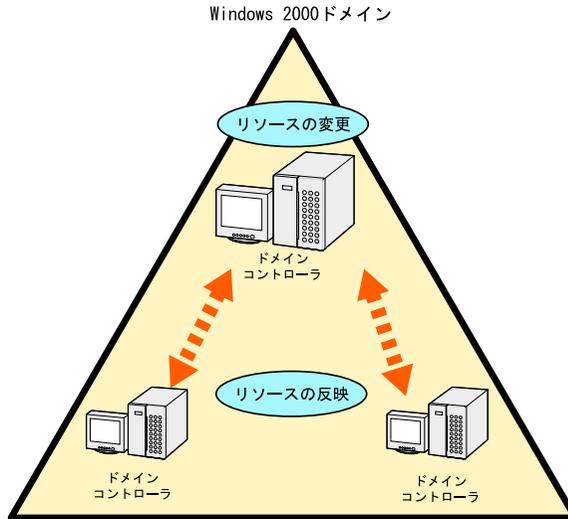
ドメイン内でリソースを変更できるのは PDC のみです。変更された内容が BDC に複製されます。



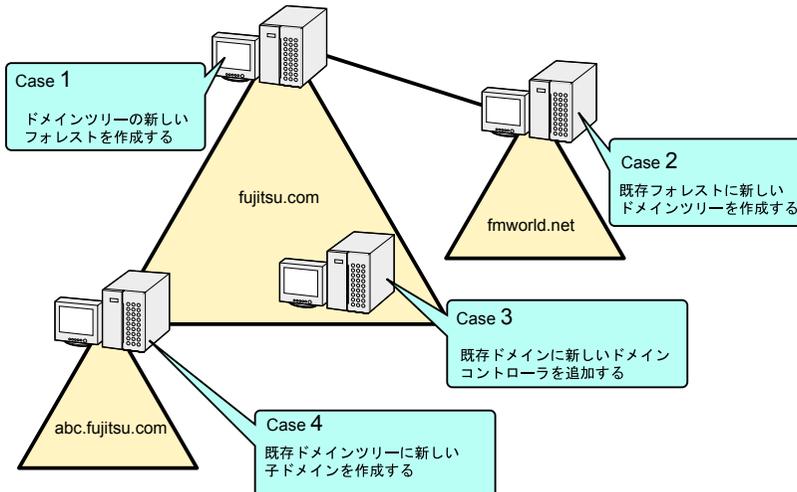
● Active Directory ドメイン

Windows 2000 ドメインは、Active Directory (LDAP をベースとしたディレクトリサービス) を基本に構築されており、一般的に Active Directory ドメインと呼ばれます。

Active Directory では、PDC (プライマリドメインコントローラ) と BDC (バックアップドメインコントローラ) という概念はなく、Active Directory 内の、あるドメインコントローラ上で変更されたリソースは、同じネットワークにあるすべてのドメインコントローラに反映されます。このため、Windows 2000 をドメインコントローラとする場合は、Active Directory に関して理解しておく必要があります。



Active Directory を構築するには、次の4つのパターンがあります。



1. ドメインツリーの新しいフォレストを作成します (新しいフォレストの構築)。
2. 既存フォレストに新しいドメインツリーを作成します (新しいツリー)。
3. 既存ドメインに新しいドメインコントローラを追加します (追加ドメインコントローラ)。
4. 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成します (子ドメイン)。

POINT

- ▶ Active Directory に関する基礎用語
 - ・ ドメインツリー
ドメインツリーは、ドメインを構成する最小単位です。既存のドメインツリーに子ドメインを作成する場合、DNS サフィックスが継承されます。
 - ・ フォレスト
1つ以上のドメインツリーが、依存関係なく接続されている関係を表します。
新しいドメインツリーを作成する場合、DNS サフィックスは継承されません。

重要

- ▶ ドメインコントローラを構築する際の注意事項
 - ・ ドメイン環境にアドオンされるクライアント OS のレベルにより、ドメインコントローラがサービスすべき WINS 等のサービスをインストールする必要があります。
 - ・ インストールするネットワークパターンによっては、事前に上位ドメインコントローラ (DNS サーバ) の設定が必要になる場合があります。

■ ドメインメンバサーバ

ドメインメンバサーバとは、ドメインに参加している多目的サーバを意味します。
権限があるドメイン内のすべてのリソースにアクセスすることができ、またアクセスされます。

■ スタンドアロンサーバ

スタンドアロンサーバとは、一般にワークグループ環境と呼ばれる小規模な環境で利用するサーバを意味します。

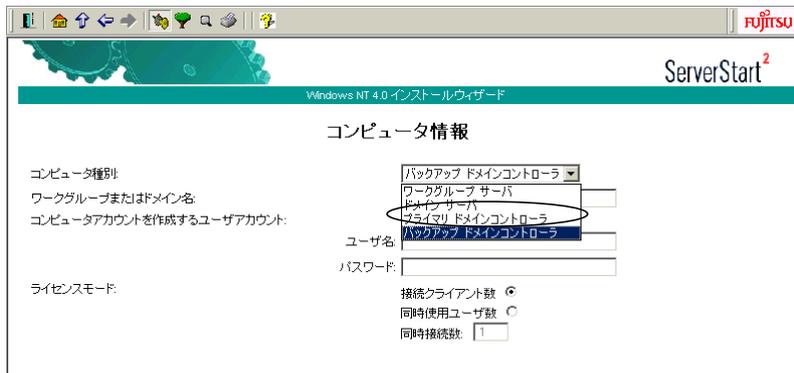
B.2 Windows NT 4.0 ドメインの構成

PDC (プライマリドメインコントローラ) または BDC (バックアップドメインコントローラ) の設定を行います。

■ PDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ情報」画面

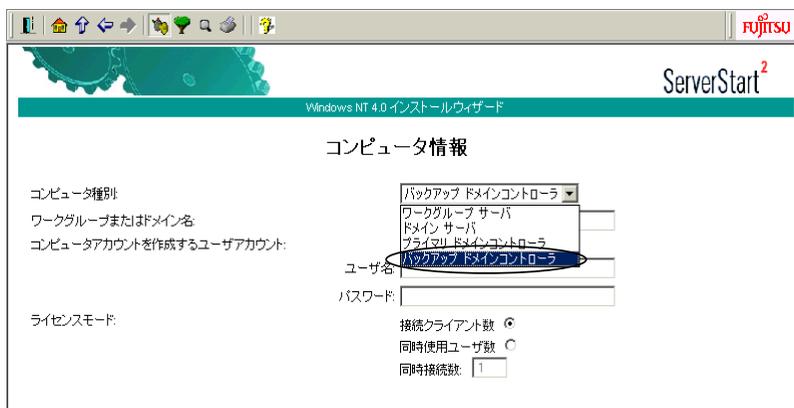


- 1 「コンピュータ種別」で「プライマリドメインコントローラ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に作成するドメイン名を指定します。
- 3 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」は空白のままです。

■ BDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ情報」画面



- 1 「コンピュータ種別」で「バックアップドメインコントローラ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。
- 3 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- ▶ ドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合
あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 3. でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

B.3 Active Directory の構成（新しいフォレスト）

新しいフォレストとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しいシステム全体のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合に、最初に行う作業となります。

Active Directory を構築する前に、ネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。

重要

- ▶ Active Directory を構築する際の注意点
 - ・ 既存の DNS サーバを利用して Active Directory を構築することはできません。
 - ・ 既存の DNS を利用してドメインを構築する場合は、スタンドアロンサーバとして OS インストールした後、手動でドメインの構築を行います。

■ 新しいフォレストのドメインを構築する

新しいフォレストとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで次のように設定してください。

● 「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

Windows 2000 インストールウィザード

ServerStart²

コンピュータ識別情報

OS種別: Windows 2000 Server

ライセンスモード: 接続クライアント数

参加先: ワークグループ

ワークグループまたはドメイン名: MYUSERGROUP

同時使用ユーザ数:

ドメイン

●「ネットワークプロトコル」画面

- 1 「DHCP を使用する」のチェックを外し、IP アドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイを指定します。
- 2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。

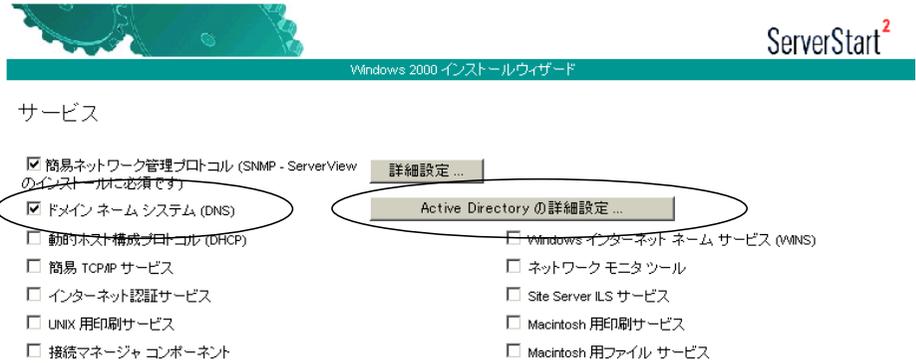
この例では、DNS ドメイン名を fujitsu.com とし、DNS サーバを自分自身 (192.168.16.1) に設定しています。DNS ドメイン名は後の設定にも利用するので、必ず覚えておいてください。

必要に応じて WINS の設定も行います。

●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



- 2 「Active Directory の詳細設定」画面で、各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「ドメインツリーの新しいフォレストを作成する」が選択されていることを確認します。
3. Windows2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. 「新しいツリーの完全な DNS 名」に DNS サーバ名を、「ドメイン NetBIOS 名」に NetBIOS 名を指定します。

B.4 Active Directory の構成（新しいツリー）

新しいツリーとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しい下部組織のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合、一番最初に行う作業となります。

新しいツリーを作成する前に、フォレストとの接続性を考えたネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ツリールートのネットワークアドレス
- 新規ツリーのドメイン名

重要

- ▶ Active Directory を構築する際の注意点
ServerStart を使ったこのパターンのインストールでは、あらかじめ新しいツリーが使用する DNS ゾーンを作成しておく必要があります。

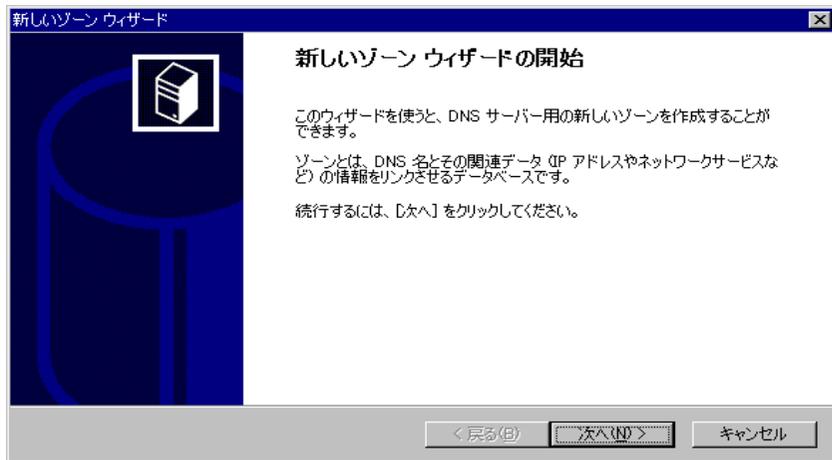
■ DNS ゾーンの作成

新しいツリーでは、DNS ゾーンを既存のフォレストに「新しいゾーン」として管理する必要があります。ここでは DNS ゾーンを作成方法について簡単に説明します。

次に、ServerStart を利用するために最低限必要な手順を示します。ただし、実際の運用・管理では、このほかに詳細なパラメータ設定が必要となる場合があります。管理方法なども含めて、Windows 2000 Server の Active Directory に関するマニュアルをご覧ください。

- 1** 既存のフォレストのルートドメインコントローラに、ドメインの管理者権限でログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「管理ツール」 「DNS」の順にクリックします。

- 3** コンソールツリーから DNS サーバを選択し、「操作」 「新しいゾーン」の順にクリックします。
新しいゾーンウィザードが起動します。

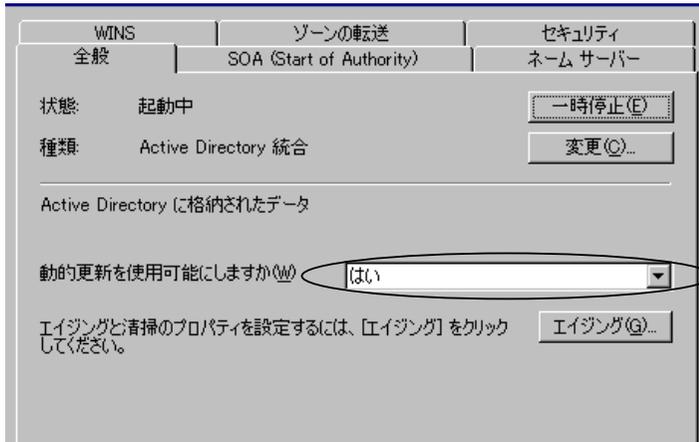


- 4** [次へ] をクリックします。
ゾーンの種類を選択する画面が表示されます。
- 5** 「Active Directory 統合」ゾーンを選択して、[次へ] をクリックします。
ゾーン名を指定する画面が表示されます。
- 6** ゾーン名を指定します。
このゾーン名が ServerStart の「DNS ドメイン名」に相当します。



- 7** [次へ] をクリックします。
完了画面が表示されるので、ゾーンが作成されていることを確認します。
- 8** DNS ゾーンの設定を行います。作成したゾーンを右クリックし、プロパティをクリックします。

- 9 「動的更新を使用可能にする」で「はい」を選択します。
これ以外のパラメータを選択すると、インストールに失敗します。

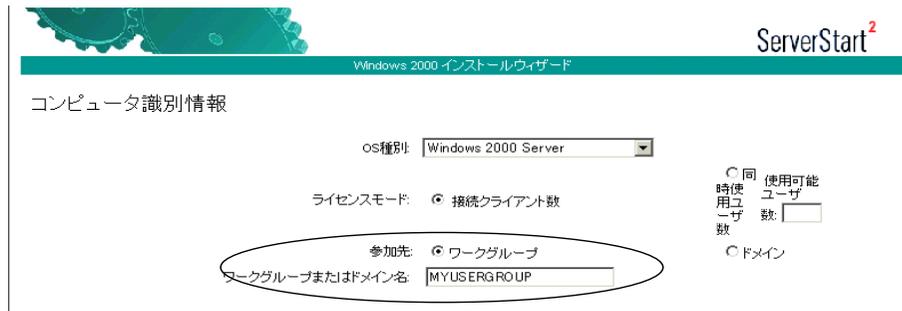


■ 新しいドメインツリーを構築する

新しいツリーとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。



●「ネットワークプロトコル」画面

1 各項目を設定します。

1. 「DHCP を使用する」のチェックを外します。
2. IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを指定します。
3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関して詳細設定を行います。

「DNS ドメイン名」に、作成するツリーのドメイン名（この例では fmworld.net）を指定します。

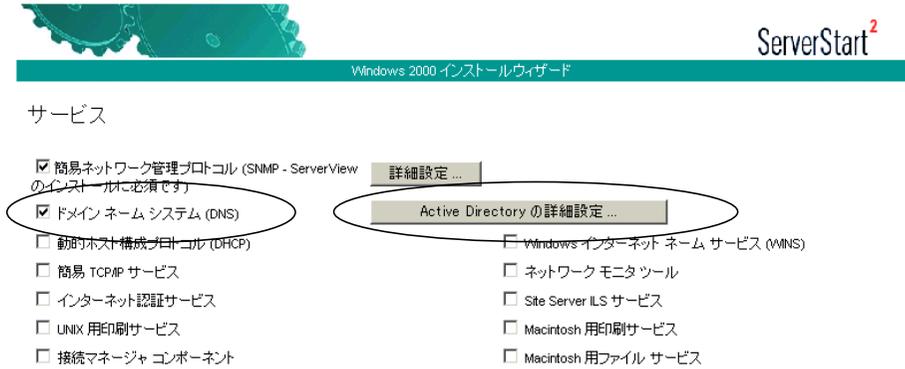
「DNS サーバ」には、次のアドレスを入力します。

- ・既存フォレストの DNS サーバ（ドメインサーバ）の IP アドレス
- ・新規作成ツリーのドメインの IP アドレス

●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



- 2 各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する」を選択します。
3. Windows 2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例: Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
新しいツリーの完全なドメイン名	新規に作成するツリーのドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

B.5 Active Directory の構成 (追加ドメインコントローラ)

新しいドメインコントローラが追加された場合は、システムの信頼性と冗長性を重要視します。

ここでは、新しいドメインコントローラが追加された場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

- ・ 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- ・ 既存ルートドメインの管理者情報
- ・ 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 追加ドメインコントローラを構築する

追加ドメインコントローラを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します (初期値: MYUSERGROUP)。

Windows 2000 インストールウィザード

ServerStart²

コンピュータ識別情報

OS種別: Windows 2000 Server

ライセンスモード: 接続クライアント数

参加先: ワークグループ

ワークグループまたはドメイン名: MYUSERGROUP

同時間使用ユーザ数:

使用可能ユーザ数:

ドメイン

●「ネットワークプロトコル」画面

1 各項目を設定します。

1. 「DHCPを使用する」のチェックを外します。
2. IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを入力します。
3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。

この例では、「DNS ドメイン名」に既存ドメイン名（この場合は fujitsu.com）を指定します。

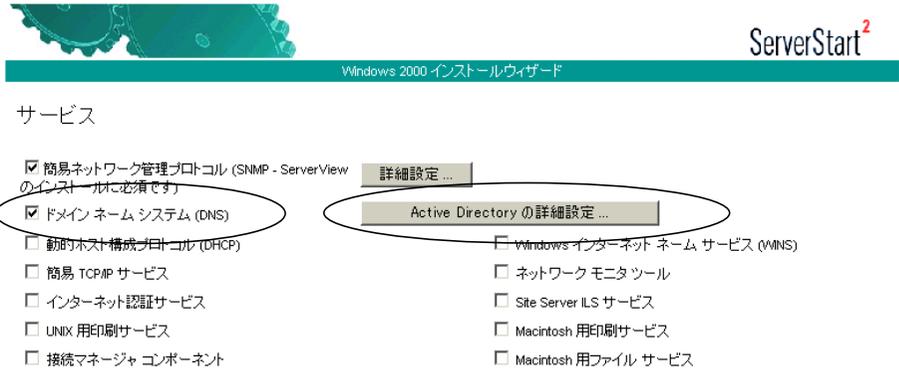
「DNS サーバ」に次のアドレスを入力します。

- ・ 既存 DNS サーバの IP アドレス
- ・ 新規作成ドメインコントローラの IP アドレス

●「サービス」画面

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」のインストールにもチェックを付ける必要があります。



2 各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する」を選択します。
3. Windows 2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例: Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
ドメイン NetBIOS 名	ドメイン NetBIOS 名

B.6 Active Directory の構成 (子ドメイン)

子メンバドメインが構成されるのは、新しい下部組織が構成される場合です。これは、新しいツリーの構成とよく似ていますが、子ドメインが上位のフォレストから DNS サフィックスを継承するのに対し、新ツリーはこれを継承しません。次のような事例の場合、最初に対応するドメインパターンを選択します。

事例	選択するドメインパターン
ABC カンパニーに新たにコンサルティング部署が設立された。	子ドメイン
ABC カンパニーからコンサルティング部署が独立し、ABC コンサルティングカンパニーが設立された。	新ツリー

重要

- ▶ 子ドメインを構築する際の注意事項
DNS サーバで、あらかじめ新しいドメインのゾーンを作成しておく必要があります。「DNS ゾーンの作成」(P.232)をお読みください。

ここでは、子ドメインを構築する場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

- ・ 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- ・ 既存ルートドメインの管理者情報
- ・ 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 子ドメインを構築する

子ドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

Windows 2000 インストールウィザード

コンピュータ識別情報

OS種別: Windows 2000 Server

ライセンスモード: 接続クライアント

参加先: ワークグループ
ワークグループまたはドメイン名: MYUSERGROUP

同 使用可能
時使用 ユーザ
ユーザ 数:

ドメイン

● 「ネットワークプロトコル」画面

- 1 各項目を設定します。

Windows 2000 インストールウィザード

ネットワーク プロトコル

自動インストール (ここで入力した設定で自動構成されます)

ドライバのみインストール (インストール後に詳細設定が必要です)

選択可能プロトコル: TCP/IP, NWIPX, NetBEUI, AppleTalk

選択されたプロトコル: TCP/IP

アダプタ名: アダプタ 1

接続名:

DHCPを使用する

IP アドレス: 192.168.16.2

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ:

NetBIOS オプション: NetBIOS over TCP/IP を使用する

IP アドレス、ゲートウェイ等の追加...

DNS/WINSの詳細設定...

1. 「DHCP を使用する」のチェックを外します。
2. IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを入力します。

3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。

Windows 2000 インストールウィザード

ServerStart²

DNS / WINS の構成

DNSドメイン名: abcd.fujitsu.com

DNSサーバ: 192.168.16.1
192.168.16.2

<-追加 DNSアドレス: [] [] [] []

削除

WINSを使用する

WINSサーバ: []

<-追加 WINSアドレス: [] [] [] []

削除

「DNS ドメイン名」に、作成する子ドメイン名（この例では abcd.fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に、次のアドレスを入力します。

- ・ 既存 DNS サーバの IP アドレス
- ・ 子ドメインのドメインコントローラサーバの IP アドレス

●「サービス」画面

1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。

Windows 2000 インストールウィザード

ServerStart²

サービス

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP - ServerView) のインストールに必須です

ドメインネームシステム (DNS)

動的ホスト構成プロトコル (DHCP)

簡易 TCP/IP サービス

インターネット認証サービス

UNIX 用印刷サービス

接続マネージャ コンポーネント

詳細設定...

Active Directory の詳細設定...

Windows インターネットネームサービス (WINS)

ネットワーク モニタツール

Site Server ILS サービス

Macintosh 用印刷サービス

Macintosh 用ファイル サービス

2 各項目を設定します。

ActiveDirectory の詳細設定

Active Directoryをインストールする

ドメインツリーの新しいフォレストを作成する

既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する

既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する

既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する

データベースの場所: %systemroot%\NTDS

ログの場所: %systemroot%\NTDS

SysVolフォルダの場所: %systemroot%\SYSVOL

Windows 2000以前のサーバと互換性があるアクセス許可

ユーザ名: administrator

パスワード: ****

ドメイン名: fujitsu.com

親ドメイン名: fujitsu.com

子ドメイン名: abcd.fujitsu.com

ドメイン/NetBIOS名: abcd

1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する」を選択します。
3. Windows2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインで、コンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例: Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
親ドメイン名	上位のドメイン名
子ドメイン名	新規に作成するドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

B.7 ドメインメンバサーバの構成

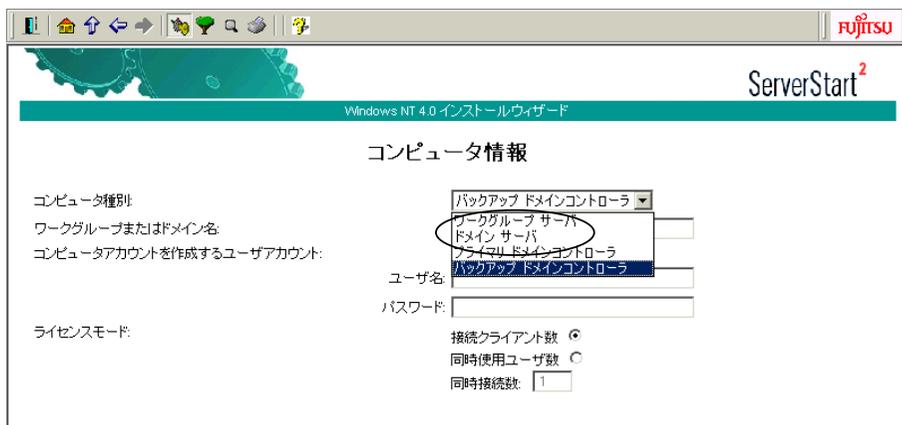
Windows NT ドメインの場合は、PDC(プライマリドメインコントローラ)上で、Windows 2000 ドメインの場合は、ドメインコントローラ上で参加するコンピュータアカウントを作成します。コンピュータアカウントの作成の際には、コンピュータ名をあらかじめ決めておく必要があります。

また、ネットワーク構成にも配慮する必要があります。DHCP を使って IP アドレスをリースする場合は、DHCP サーバのサーバオプションに DNS サーバの情報を設定し、DNS ヘサーバ登録を行ってください。

■ Windows NT Server の場合

OS インストールウィザードのコンピュータ情報画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ情報」画面



- 1 「コンピュータ種別」で「ドメインサーバ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。
- 3 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

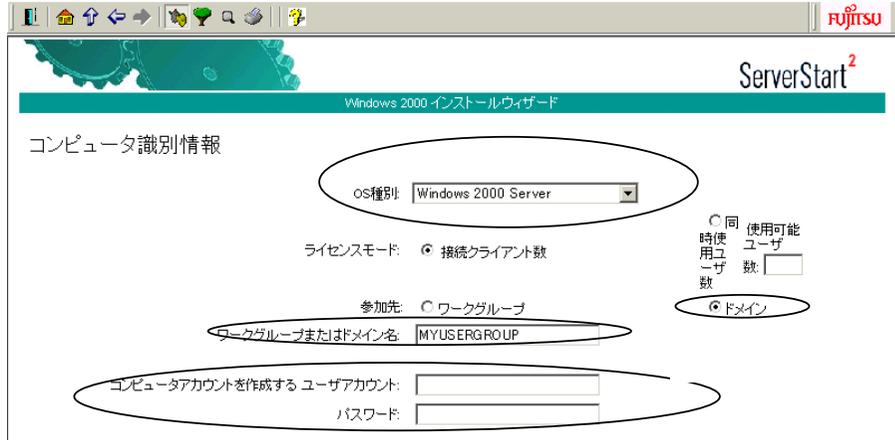
POINT

- ▶ あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順3. でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

■ Windows 2000 の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面



- 1 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
- 2 「参加先」の指定で「ドメイン」を選択します。
- 3 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメインを指定します。
- 4 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- ▶ あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 4. でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

■ DNS / WINS の設定について

● ネットワークプロトコル設定で DHCP を指定する場合

参加先ドメインに DHCP が構成されており、DHCP サーバオプションで「DNS サーバ」が正しく設定されていることを確認してください。

● ネットワークプロトコル設定で固定 IP を指定する場合

「ネットワーク設定」画面の [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS ドメイン名と DNS サーバの指定を行います。

Windows 2000 インストールウィザード

ServerStart²

DNS / WINS の構成

DNSドメイン名:

DNSサーバ:

<-追加 DNSアドレス:

削除

WINSを使用する

WINSサーバ:

<-追加 WINSアドレス:

削除

B.8 スタンドアロンサーバの構成

スタンドアロンサーバは、小規模な環境で利用するためのサーバです。このため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するので、管理性が低いという特長があります。インストールするサーバがどのタスクを担うか早期に決定し、ドメインへ移行することをおすすめします。

■ Windows NT Server の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ情報」画面

Windows NT 4.0 インストールウィザード

ServerStart²

コンピュータ情報

コンピュータ種別:

ワークグループまたはドメイン名:

コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント:

ユーザ名:

パスワード:

ライセンスモード:

接続クライアント数

同時使用ユーザ数

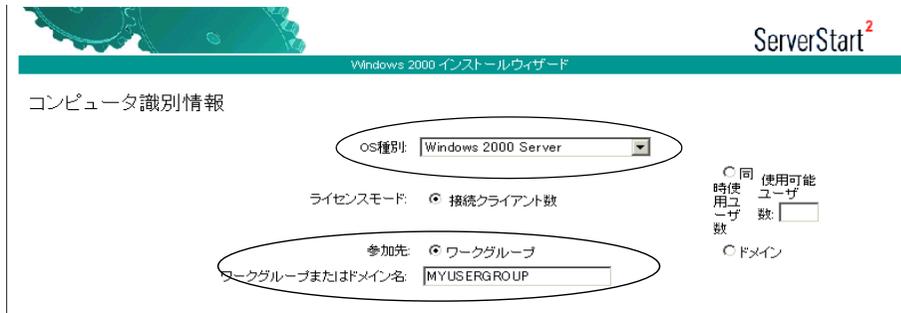
同時接続数:

- 1 「コンピュータ種別」で「ワークグループサーバ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に構成するワークグループ名を指定します。

■ Windows 2000 の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面



- 1 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
- 2 「参加先」の指定で「ワークグループ」を選択します。
- 3 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するワークグループ名を指定します。

👉 重要

▶ Active Directory の詳細設定画面では、何も設定しないでください。

付録 C IDE RAID 管理ツールについて

IDE RAID 管理ツールについて説明します。

C.1 FastCheck Monitoring Utility

FastCheck Monitoring Utility（以下、FastCheck）は、OS 上でディスクアレイの管理を行うためのソフトウェアです。FastCheck はディスクアレイ情報やハードディスク情報の表示、一貫性チェックといった機能を持っています。

FastCheck はログオン時に起動され、通常はタスクバー上にアイコン化されています。このアイコンをダブルクリックすると、画面が表示されます。

重要

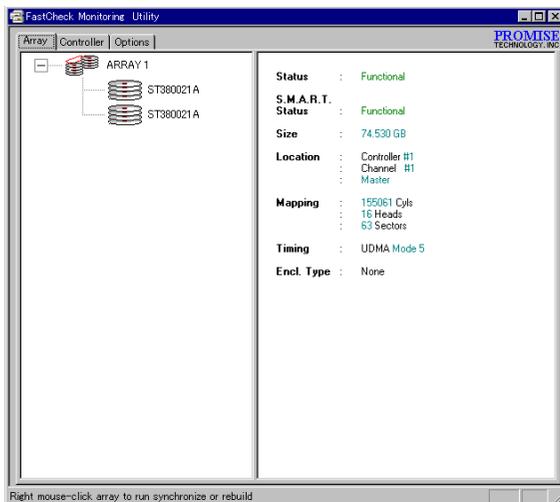
- ▶ 本サーバを安全にご使用いただくために、特に必要のない限り、FastCheck は終了しないでください。

FastCheck には以下の 3 つの画面があります。

- Array Window
ディスクアレイの構成、状態を表示します。
- Controller Window
物理的構成、およびコントローラ、チャンネル、ドライブの状態を表示します。
- Options Window
動作環境を設定します。

■ Array Window

Array Window では、本サーバ上で構成されているディスクアレイの構成、状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。また、ディスクアレイに対する一貫性チェック起動などの指示が行えます。



[構成表示フィールド]

ディスクアレイおよびディスクアレイを構成するハードディスクがツリー表示されます。またハードディスクが Offline 状態の場合は、ハードディスクが「？」付きのアイコンで表示されます。

[詳細表示フィールド]

構成表示フィールド上で各ディスクアレイ、ハードディスクのアイコンをクリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

項目	説明
ディスクアレイ	
RAID Mode	ディスクアレイの種類が表示されます。
Mapping	ディスクアレイの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Size	ディスクアレイの容量 (GB 単位) が表示されます。
Status	ディスクアレイの状態が表示されます。
Functional	ディスクアレイが正常に稼動しています。
Critical	RAID レベル 1 のディスクアレイが、初期化、再構築中あるいは 1 台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動しています。
Offline	ディスクアレイが稼動していないことを示します。RAID レベル 0 のディスクアレイ中の 1 台のハードディスクが故障した場合、または RAID レベル 1 のディスクアレイ中の 2 台のハードディスクが故障した場合に発生します。
ハードディスク	
Status	ハードディスクの状態が表示されます。
Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
Unfunctional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、または再構築 (Rebuild) が行われています。
Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。 Assignment にハードディスクの状態が Free と表示されている場合は、新規にディスクアレイを作成するか、リビルド作業を行い、アレイに組み込んだ状態でご使用ください。
Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status	ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。 該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size	ハードディスクの容量 (GB 単位) が表示されます。
Location	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID (Master/Slave) が表示されます。
Mapping	ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing	ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type	常に None が表示されます。

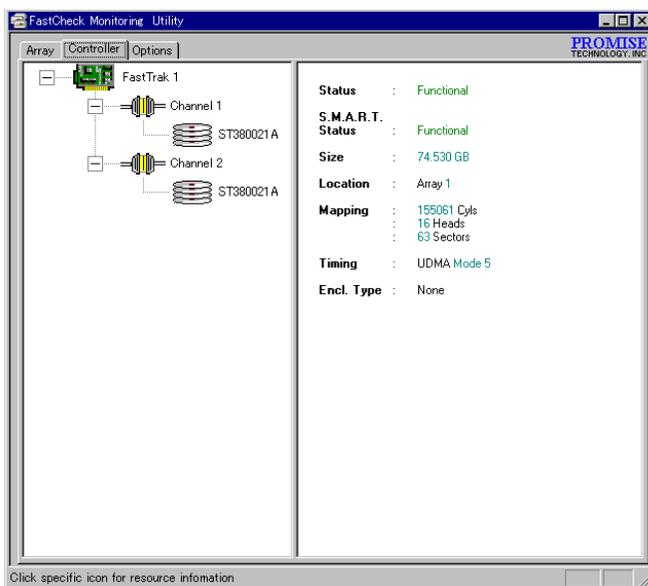
[Pop Up メニュー]

構成表示フィールド上でディスクアレイのアイコンを右クリックすると、Pop Up メニューが表示され、以下の操作を行えます。

項目	説明
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
Minimize	FastCheck ウィンドウをタスクバーにアイコン化して閉じます。
Synchronize	一貫性チェックを起動します。
Rebuild	リビルドを起動します。 本サーバでは、本機能はサポートしていません。
About	FastCheck の版数などを表示します。

■ Controller Window

Controller Window では、物理的構成、およびコントローラ、チャンネル、ドライブの状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。



[構成表示フィールド]

コントローラ、チャンネル、ドライブがツリー上に表示されます。またドライブが Offline 状態の場合は、ドライブが「×」付きのアイコンで表示されます。

[詳細表示フィールド]

構成表示フィールド上で各コントローラ、チャンネル、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

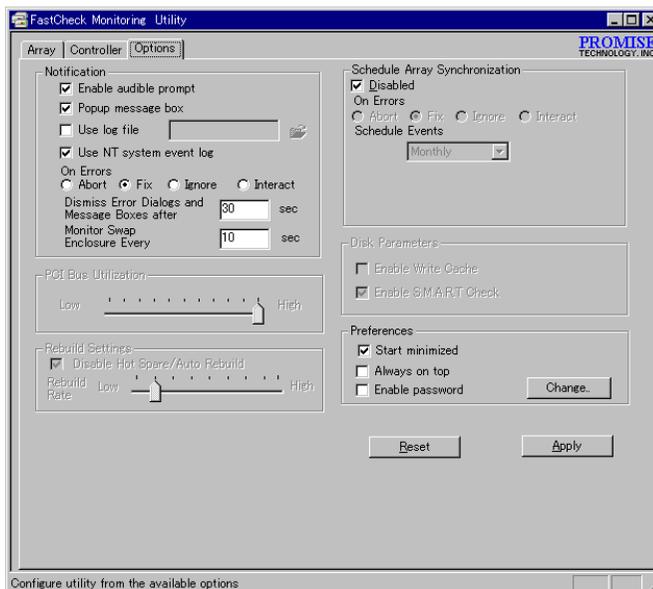
項目	説明
コントローラ	
IRQ	コントローラに割り当てられた IRQ が表示されます。
Bus Master Base	コントローラに割り当てられた Base Address が表示されます。
Driver Version	デバイスドライバのバージョンが表示されます。
Hardware Type	コントローラのモデル名が表示されます。

項目	説明
チャンネル	
Base IO Address	チャンネルに割り当てられた Base IO Address が表示されます。
ハードディスク	
Status	
Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
Functional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、あるいは再構築 (Rebuild) が行われています。
Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。
Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status	ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size	ハードディスクの容量 (GB 単位) が表示されます。
Location	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャンネル番号、ID (Master/Slave) が表示されます。
Mapping	ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing	ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type	常に None が表示されます。

■ Options Window

Options Window では、動作環境を設定します。設定変更後、[Apply] をクリックすると、設定が有効になります。

また、[Reset] をクリックすると、変更した設定が元に戻ります。



[Notification]

項目	説明
Enable audible prompt	ディスクアレイが正常な状態でない場合、ブザーを鳴らします。
Popup message box	ディスクアレイの状態に変化があった場合、メッセージボックスを表示して通知します。なお、情報レベルのメッセージについては、表示後 10 秒でメッセージボックスを自動的に閉じます。
Use log file	ディスクアレイの状態に変化があった場合、指定したファイルに記録します。
Use NT system event log	ディスクアレイの状態に変化があった場合、OS のシステムイベントログに記録します。
On Errors	Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
Fix	エラーを自動的に修復します。
Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)」(P.254) を参照してください。
Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after	イベントのメッセージボックスや Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した場合に表示されるダイアログボックスを自動的に閉じる時間を設定します。設定可能な値は 0-9999 (秒単位) で、9999 に設定した場合は入力を行うまで表示し続けます。「Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after」で設定した時間が経過すると、直前に設定された処理を実行し、ダイアログボックスを閉じます。
Monitor Swap Enclosure Every	最新の情報に更新される時間を設定します。設定可能な値は 10 ~ 3600 (秒単位) です。必ず 10 に設定してください。

[Rebuild Settings]

項目	説明
Disable Host Spare / Auto Rebuild	ホットスベア機能、オートリビルド機能を無効にします。必ず無効に設定してください。
Rebuild Rate	通常の I/O アクセスに対する、初期化処理、リビルド処理に関する I/O アクセスの割合を示します。必ず 1 に設定してください。

[PCI Bus Utilization]

本製品に関する処理が、PCI バスを占有する比率を示します。
必ず High に設定してください。

[Schedule Array Synchronization]

項目	説明
Disabled	定期的に一貫性チェックを行いません。
On Errors	Synchronize のスケジュール運用中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
Fix	エラーを自動的に修復します。
Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)」(P.254) を参照してください。
Schedule Events	一貫性チェックの実行間隔を設定します。
Monthly	1 月に 1 回。
Weekly	1 週に 1 回。
Daily	1 日に 1 回。
By Minutes	x 分毎。
By hours	x 時間毎。
Start time	Schedule Events で「Monthly」、「Weekly」、「Daily」を選択した場合に、一貫性チェックを開始する時刻を設定します。
On the	Schedule Events で「Monthly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う日を設定します。
On	Schedule Events で「Weekly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う曜日を設定します。
Every	Schedule Events で「By minutes」、「By hours」を選択した場合に、一貫性チェックを行う間隔を設定します。

[Disk Parameters]

項目	説明
Enable Write Cache	ハードディスクのライトキャッシュを有効にします。 必ず無効に設定してください。
Enabled S.M.A.R.T Check	ハードディスクの故障予測機能 (S.M.A.R.T) による情報を検出します。 必ず有効に設定してください。

[Preferences]

項目	説明
Start Minimize	FastCheck 起動時、ウィンドウをアイコン化し、タスクバー上に表示します。チェックしていない場合は、FastCheck 起動の際、画面上に表示されます。
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に画面の最前面に表示します。
Enable password	パスワードを有効にします。
「Change」ボタン	パスワードを変更します。

パスワードが有効な場合、FastCheck を開く際、およびパスワードに関する設定を変更する際に、以下のウィンドウが表示されます。設定したパスワードを入力後、[OK] をクリックしてください。



また、パスワードを設定 / 変更する場合は、以下のウィンドウが表示されます。同一のパスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。設定したパスワードが有効になります。



C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)

一貫性チェック (Synchronize) は、ミラーリングされたアレイに対して冗長情報の整合性を検査します。ミラーリングされたドライブペアがセクタごとに比較され、両方のハードディスクに含まれるデータが同一であるかどうかを検査します。データに信頼性があるかどうかを検査するための機能です。

POINT

- ▶ 一貫性チェックは、一貫性の検査を行うだけでなく、ハードディスクの媒体エラー（一貫性のエラーとは異なります）を自動的に修正する効果もあります。一貫性チェックはできるだけ頻繁に行ってください。

重要

- ▶ 一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化し、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。

■ 一貫性チェックの起動

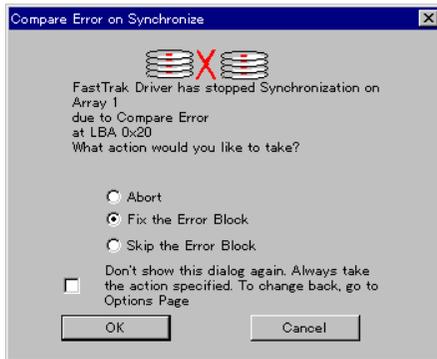
一貫性チェックの起動方法には、以下の 2 つの方法があります。該当する記述を参照して実行してください。

- OS 上の IDE RAID 管理ツールから一貫性チェックを起動
指定したディスクアレイに対する一貫性チェックを、直ちに実行します。Array Windows の「 [Pop Up メニュー]」（ P.250 ）に関する記述を参照して、実行してください。
- 定期的に一貫性チェックを起動
設定した間隔で一貫性チェックを定期的に行います。Options Window の「 [Schedule Array Synchronization]」（ P.253 ）の項を参照し、一貫性チェックの起動間隔、起動開始時間などを設定してください。
なお、定期的な一貫性チェックの設定を行った場合、OS が動作中ならば、FastCheck が起動されていなくても一貫性チェックが起動されます。

■ 一貫性チェック中のエラー通知

一貫性チェック中にデータの不一致や読取不良が検出された場合、Options Window 上の On Errors で Interact をチェックしていた場合には、一貫性チェックが一時中断し、次のようなウィンドウが表示されます（詳細は「 Options Window」（ P.251 ）参照）。適切な処置を選択して [OK] をクリックしてください。

[Cancel] をクリックした場合は、一貫性チェックを中止します。



項目	説明
Abort	一貫性チェックを中止します。
Fix the Error Block	1 台のディスクからもう 1 台のディスクへ不一致であったデータを複写し、内容を一致させた後、一貫性チェックを継続します。
Skip the Error Block	不一致であったデータをスキップして、次のデータから一貫性チェックを継続します。
Don't show this dialog again ...	以降、一貫性チェック中に異常が検出されても本ウィンドウは表示されなくなり、選択した処置が自動的に行われるようになります。

重要

- ▶ 通常は「Abort」または、「Skip the Error Block」を選択してください。「Fix the Error Block」を選択した場合、一貫性をとるように強制的にデータが書き換えられますが、信頼性のあるデータになるとは限りませんのでご注意ください。
- ▶ 一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化して、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。

C.3 FastTrak Service

FastTrak Service は、FastCheck が起動されていない場合、OS 上でディスクアレイの状態が変化した場合に、情報を OS の EventLog に通知するソフトウェアです。

FastTrak Service は OS 起動時に起動され、FastCheck が起動されると停止します。

付録 D デザインシート

RAID ウィザード

設定項目		選択項目		
RAID の構成 (RAID 構成時のみ)				
構成モード		非 RAID	自動	手動
手動、自動 設定時のみ	RAID コントローラ	PG-141B		
	コントローラ番号	(デフォルト 0)		
手動設定時 のみ	RAID レベル	RAID0	RAID1	RAID5
	ディスク数	台 (RAID0 時 2 ~ 6 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3 ~ 6 台)		
	ホットスベア	使用する	使用しない	
手動、自動 設定時のみ	既存の RAID アレイ	削除する		

ディスクウィザード

設定項目	選択項目		
ディスクの構成			
コントローラタイプ	RAID	SCSI	IDE
ディスク番号	(デフォルト 0)		
ファイルシステム	NTFS	FAT	
クイックフォーマット	する	しない	
ボリュームラベル	(デフォルト SYSTEM)		
区画サイズ	自動設定	MB	
区画の利用形態	BOOT	OS	DATA
ファイルシステム	NTFS	FAT	
クイックフォーマット	する	しない	
ボリュームラベル	(デフォルト DATA)		
区画サイズ	自動設定	MB	
区画の利用形態	BOOT	OS	DATA
ファイルシステム	NTFS	FAT	
クイックフォーマット	する	しない	
ボリュームラベル	(デフォルト DATA)		
区画サイズ	自動設定	MB	
区画の利用形態	BOOT	OS	DATA
ファイルシステム	NTFS	FAT	
クイックフォーマット	する	しない	
ボリュームラベル	(デフォルト DATA)		
区画サイズ	自動設定	MB	
区画の利用形態	BOOT	OS	DATA
表示されているディスクの すべての区画を削除する	削除する		
起動ディスクにメンテナンス区画を作成する	作成する		

複数のディスクを搭載する、またはシートが足りない場合は、コピーしてください。

OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)

設定項目		選択項目			
コンピュータ情報					
コンピュータ種別		ワークグループサーバ ドメインサーバ プライマリドメインコントローラ バックアップドメインコントローラ			
ワークグループまたはドメイン名		(デフォルト MYUSERGROUP)			
コンピュータアカウントを 作成するユーザアカウント	ユーザ名				
	パスワード				
ライセンスモード		接続クライアント数		同時使用ユーザ数	
同時接続数		(同時使用ユーザ数選択時のみ)			
インストール先ディレクトリとタイムゾーン					
インストール先ドライブ		既定値を使用する		ドライブ名	
ドライブ名					
インストール先ディレクトリ		一意の名前を作成する		インストール時に指定する インストール先を指定する	
ディレクトリ					
ファイルシステムを NTFS へ変換する		する			
タイムゾーンの選択		(デフォルト (GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク)			
ユーザ情報					
ユーザ名		(英数半角 50 文字まで 全角使用可)			
組織名		(英数半角 50 文字まで 全角使用可)			
コンピュータ名		(英数半角 50 文字まで)			
プロダクト ID / CD キー		OEM			
画面の設定					
ログオン後に画面設定を行う		行う			
色数		16 色 256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)			
デスクトップ領域 (ピクセル)		640 * 480 800 * 600 1024 * 768 1156 * 864 1280 * 1024 1600 * 1200			
リフレッシュレート (Hz)		60 70 72 75 80 85 100			

(続く)

設定項目		選択項目		
ネットワークプロトコル				
手動でネットワークの設定を行う		行う		
プロトコル		NetBEUI プロトコルのインストール NWLink IPX/SPX 互換互換トランスポートのインストール TCP/IP プロトコルのインストール DLC プロトコルのインストール RAS Point to Point Tunneling プロトコルのインストール Streams 環境のインストール		
TCP/IP パラメータ (TCP/IP プロトコルのインストール選択時)				
DHCP を使用する		する		
ネットワーク インター フェイス	1	NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子		
		DHCP を使用する 未選択時のみ	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ1	
			DNS サーバ2	
			DNS サーバ3	
			WINS プライマリ	
			WINS セカンダリ	
	DNS ドメイン名			
	2	NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子		
		DHCP を使用する 未選択時のみ	IP アドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			DNS サーバ1	
			DNS サーバ2	
			DNS サーバ3	
			WINS プライマリ	
WINS セカンダリ				
DNS ドメイン名				

3 枚以上のネットワークカードを利用する場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目		選択項目
		サービスの設定
サービス		SNMP サービス リモートアクセスサービス Microsoft DHCP サーバー Microsoft DNS サーバー Windows インターネットネームサービス 簡易 TCP/IP サービス SAP エージェント ネットワークモニタツールとエージェント Microsoft TCP/IP 印刷 Gateway (and Client) Services for NetWare
SNMP の設定 (選択時のみ)		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	する (デフォルト public)
	受け付けるコミュニティ名	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	受け付ける
	次のホストから SNMP パケットを受け付ける	
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	物理層 データリンク / アプリケーション エンド ツー エンド アプリケーション インターネット

(続く)

設定項目		選択項目		
リモートアクセスサービスの設定 (選択時)				
ポート使用の構成	ポート	COM1	COM2	COM3-COM25
	デバイス	Modem		
	ポートの使い方	ダイヤルアウトのみ ダイヤルアウトと着信	着信のみ	
RASパラメータ	ダイヤルアウトプロトコル	TCP/IP NETBEUI	IPX ALL	
RASサーバーの設定	次のリモートクライアントを許可する	TCP/IP NETBEUI	IPX ALL	
	リモート NetBEUI クライアントにアクセスを許可する	ネットワーク全体		このコンピュータのみ
	リモート TCP/IP クライアントにアクセスを許可する	ネットワーク全体		このコンピュータのみ
リモート TCP/IP クライアントのアドレス割り当てに DHCP を使う		使う		
使う未選択時	静的アドレスプールの開始アドレス StaticAddressBegin			
	静的アドレスプールの終了アドレス StaticAddressEnd			
	割り当て範囲除外			
リモートクライアントに事前で定めた IP アドレスの要求を許可する		許可する		
リモート IPX クライアントにアクセスを許可する		ネットワーク全体	このコンピュータのみ	
自動的にネットワーク番号を割り当てる		割り当てる		
ネットワークの開始番号		(割り当てる未選択時)		
すべての IPX クライアントに同じネットワーク番号を割り当てる		割り当てる		
リモートクライアントに IPX ノード番号での接続を許可する		許可する		
Microsoft Internet Information Server				
Internet Information Server のインストール		する		
ディレクトリ		(デフォルト C:¥Inetsrv)		
FTP サービスのインストール		する		
ルートディレクトリ		(デフォルト C:¥Inetsrv¥FTPRoot)		
Word Wide Web サービスのインストール		する		
ルートディレクトリ		(デフォルト C:¥Inetsrv¥WWWRoot)		
Gopher サービスのインストール		する		
ルートディレクトリ		(デフォルト C:¥Inetsrv¥GopherRoot)		
WWW サービスサンプルのインストール		する		
インターネットサービスマネージャのインストール		する		
HTMLA のインストール		する		

OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)

設定項目	選択項目
Windows2000 のインストール	
Administrator 用パスワード	
コンピュータ識別情報	
導入 OS	Windows 2000 Server Windows 2000 Advanced Server
参加先	ワークグループ ドメイン
ワークグループまたはドメイン名	(デフォルト MYUSERGROUP)
コンピュータを作成する ユーザアカウント	ユーザ名 パスワード
ライセンスモード	接続クライアント数 同時使用ユーザ数
同時接続数	(同時使用ユーザ数選択時のみ)
インストール先ディレクトリとタイムゾーン	
インストール先ドライブ	既定値を使用 ドライブ名
ドライブ名選択時	C: D: E: F: G: H: I: J: K: L: M: N: O: P: Q: R: S: T: U: V: W: X: Y: Z:
インストール先ディレクトリ	既定値を使用する インストール中に指定する あらかじめ指定する
インストール先	(デフォルト ¥ winnt)
タイムゾーンの選択	(デフォルト (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京)
ユーザ情報	
ユーザ名	
組織名	
コンピュータ名	
プロダクト ID	
画面の設定	
画面の領域	640 * 480 800 * 600 1024 * 768 1156 * 864 1280 * 1024 1600 * 1200
リフレッシュレート	60 70 72 75 80 85 100
画面の色	16 色 256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) True Color (32 ビット)

(続く)

設定項目		選択項目					
ネットワークプロトコル							
インストール方法		自動インストール ドライバのみインストール					
ネットワークプロトコルのプロパティ (自動インストール選択時)							
アダプタ 1	接続名						
	このアダプタにバインドする プロトコル		TCP/IP NetMon	NWIPX PPTP	NetBEUI	Apple Talk	DLC
	DHCP を使用する (TCP/IP 選択時)		使用する				
	使用する 未 選択 時の み	IP アドレス					
		サブネットマスク					
		デフォルトゲートウェイ					
		IP アドレス (追加)		(追加する時のみ)			
		サブネットマスク (追加)		(追加する時のみ)			
		デフォルトゲートウェイ (追加)		(追加する時のみ)			
		DNS ドメイン名		(指定する時のみ)			
		DNS サーバアドレス		(指定する時のみ)			
		WINS を使用する		使用する			
	WINS サーバアドレス		DHCP (使用する選択時のみ)				
	NetBIOS オプション		NetBIOS の設定を、DHCP サーバから取得する NetBIOS over TCP/IP を使用する NetBIOS over TCP/IP を使用しない				
	NWIPX 選 択 時 の み	内部ネットワーク番号		0x			
ネットワーク番号		0x					
フレームの種類							
アダプタ 2	接続名						
	このアダプタにバインドする プロトコル		TCP/IP NetMon	NWIPX PPTP	NetBEUI	Apple Talk	DLC
	DHCP を使用する (TCP/IP 選択時)		使用する				
	使用する 未 選択 時の み	IP アドレス					
		サブネットマスク					
		デフォルトゲートウェイ					
		IP アドレス (追加)		(追加する時のみ)			
		サブネットマスク (追加)		(追加する時のみ)			
		デフォルトゲートウェイ (追加)		(追加する時のみ)			
		DNS ドメイン名		(指定する時のみ)			
		DNS サーバアドレス		(指定する時のみ)			
		WINS を使用する		使用する			
	WINS サーバアドレス		DHCP (使用する選択時のみ)				
	NetBIOS オプション		NetBIOS の設定を、DHCP サーバから取得する NetBIOS over TCP/IP を使用する NetBIOS over TCP/IP を使用しない				
	NWIPX 選 択 時 の み	内部ネットワーク番号		0x			
ネットワーク番号		0x					
フレームの種類							

複数のアダプタをインストールする場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目		選択項目	
ソフトウェアコンポーネント			
インストール方法の選択		標準コンポーネントをインストールする インストールするコンポーネントを選択する	
インストールするコンポーネントを選択する時のみ	サービス	インターネットインフォメーションサービス (IIS) オンラインヘルプ FTP (File Transfer Protocol) サーバ インターネット サービス マネージャ (HTML) インターネット インフォメーション サービス スナップ イン NNTP Service SMTP Service WWW (World Wide Web) サーバ リモート インストール サービス リモート記憶域 ターミナル サービス ライセンス ターミナル サービス ターミナル サービス クライアント インデックス サービス COM インターネット サービス プロキシ FrontPage Server Extensions 証明書サービス 証明書サービスWEB登録のサポート 証明書サービス CA	
	FTP のルート (FTP 選択時のみ)	(デフォルト %Inetpub%\Ftproot)	
	WWW のルート (WWW 選択時のみ)	(デフォルト %Inetsrv%\WWWRoot)	
	通信	ハイパーターミナル ダイアラ チャット メッセージキューサービス その他のネットワークファイルと印刷サービス	
	マルチメディア	CD プレーヤー メディアプレーヤー ユートピアサウンド設定 サウンドレコーダー ボリュームコントロール サンプルサウンド	
	アクセサリ	ユーザ補助の設定ウィザード 文字コード表 電卓 ペイント ワードパッド ドキュメントテンプレート スクリプトデバッガ オブジェクトパッケージャ デスクトップの壁紙 マウスポインタ	
	ゲーム	フリーセル マインスイーパ ビンボール ソリティア	
サービス			
サービス	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ドメインネームシステム (DNS) 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) Windows インターネットネームサービス (WINS) 簡易 TCP/IP サービス ネットワーク モニタ ツール インターネット認証サービス Site Server ILS サービス UNIX 用印刷サービス Macintosh 用印刷サービス 接続マネージャコンポーネント Macintosh 用ファイルサービス		

(続く)

設定項目		選択項目
SNMP の詳細 (選択時のみ)		
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セキュリティ	認証トラップを送信する	送信する
	受け付けるコミュニティ名 (コミュニティ名: 権利)	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	受け付ける
	ホスト名	(指定する場合のみ)
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	物理 データリンクとサブネットワーク End-to-End アプリケーション インターネット
Active Directory の詳細設定		
Active Directory をインストールする		インストールする
ドメインツリーの新しいフォレストを作成する		既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する		既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する
データベースの場所		
ログの場所		
SyServer01 フォルダの場所		
Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可		許可する
ドメインツリーの新しいフォレストを作成する		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
ドメインの完全な DNS 名		
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
親ドメイン名		
子ドメイン名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		

アプリケーションウィザード

設定項目	選択項目
アプリケーション	WizardConsol Windows NT 4.0 / Windows 2000 サービスパック ServerView FM Advisor DSNAP PROBEPRO

サーバアプリケーションセットアップウィザード

設定項目	選択項目
サーバアプリケーション	PowerChute plus ServerProtect BrightStor ARCserve 2000 ARCserve 2000 NetpowerView F

クライアント一括導入ウィザード（クライアントシステム設計）

設定項目	選択・指定項目		
OU の指定	OU を作成する		
作成する場合	組織名（OU 名）		
コンピュータ アカウント の作成	コンピュータ名	OS	IP アドレス
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
		Win95 Win98 WinMe NT WS NT BDC Win2K WinXP	DHCP 手動設定 _____ サブネットマスク _____ デフォルトゲートウェイ _____
グループの作成	グループ名		説明

上記では次のように表記しています。

Windows 95	Win95
Windows 98	Win98
Windows Me	WinMe
Windows NT WS	NTWS
Windows NT Server（バックアップドメインコントローラの場合）	
	NT BDC
Windows 2000	Win2K
Windows XP	WinXP

（続く）

設定項目	選択・指定項目		
ユーザアカウントの作成	ユーザ名	フルネーム	説明
共有資源の設定	共有名	ディレクトリ名	説明

- * グループの作成、ユーザアカウントの作成、共有資源の設定における「説明」は省略できます。
- * ユーザアカウントの作成における「フルネーム」は省略できます。
- * 共有資源の設定における「ディレクトリ」は必ず設定してください。

クライアント一括導入ウィザード（クライアントセットアップ）

設定項目		選択・指定項目		
動作環境設定				
共有ディレクトリ		(デフォルト - [SWApIDrv] %Swrsinst)		
共有名		(デフォルト - SWRSINST)		
セットアップ資源の登録		システム導入時に ServerStart から資源を登録		
		システム導入後に WizardConsole から資源を登録		
セットアップ情報の設定				
セットアップ資源の追加		アプリケーション	ファイル 実行コマンド	
アプリケーション	一覧から選択	する	しない	
	する選択時	資源識別名		
		説明		
		サーバドライブ指定	する	しない
		資源格納元フォルダ名		
			ボリュームラベルチェック	する
		する選択時	ボリュームラベル名	
		特定ファイルチェック	する	しない
		する選択時	ファイル名	
		複数媒体の使用	する	しない
		する選択時	媒体枚数	
	する選択時	媒体ごとにサブフォルダを作成	する	しない
	UNC バス指定	する	しない	
	する選択時	資源格納元 UNC バス名		
	する選択時	ユーザ名		
する選択時	パスワード			
アプリケーション固有情報				
しない選択時	説明			
	サーバドライブ指定	する	しない	
	資源格納元フォルダ名		(デフォルト - [CD-ROM])	
		ボリュームラベルチェック	する	しない
	する選択時	ボリュームラベル名		
	特定ファイルチェック	する	しない	
	する選択時	ファイル名		
	複数媒体の使用	する	しない	
	する選択時	媒体枚数		
	する選択時	媒体ごとにサブフォルダを作成	する	しない

(続く)

設定項目		選択・指定項目	
アプリケーション	する 選択時	UNC バス指定	する しない
		資源格納元 UNC バス名	
		ユーザ名	
		パスワード	
		インストーラタイプ	従来インストーラ製品 Windows インストーラ製品
	従来 イン スト ーラ 製 品 選 択 時	インストーラ起動コマンド	
		インストーラ起動パラメタ	
		インストーラ起動コマンドフォルダを作業フォルダとして実行	する しない
		セットアップ時にスクリプトを使用する	する しない
	する 選択時	スクリプトファイル名	
		起動方法	(デフォルト - mtrun [SW_COMMAND])
	イン スト ーラ 製 品 選 択 時	Windows インストーラパッケージ	
インストール ユーザインタフェース		進行状況とエラーだけを表示 対話インストール	
ファイル	ファイル資源識別名		
	説明		
	資源格納元情報	ファイル フォルダ配下のすべてのファイル	
	ファイル格納元パス	(デフォルト - [CD-ROM])	
	セットアップ先パス名		
	同一ファイルが存在している場合	置換する 置換しない ファイルの後ろに追加する	
実行 コ マ ン ド	実行コマンド資源識別名		
	説明		
	実行コマンド格納元パス名	(デフォルト - [CD-ROM])	
	起動方法	(デフォルト - mtrun [SW_COMMAND])	

《留意事項》

クライアントセットアップ機能の使用を「しない」と選択した場合はその時点で終了です。
 ここでクライアント機能の使用を「する」と選択しないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。
 クライアントセットアップ機能を使用する場合は必ずセットアップ資源を追加しなくてはなりません。
 追加できるセットアップ資源は 64 個までです。

クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）

設定項目		選択項目	
デスクトップ名			
説明			
グループ一覧から有効とする グループ名			
初期メニュー			
Windows 標準		する	しない
Web メニュー		する	しない
す る 選 択 時 の み	Web メニューファイル名		
	Active Desktop の Web ページを追加 する（IE4.0 以降有効）	する	しない
	Internet Explorer を起動する	する	しない
	する選択 時のみ	起動オプション ホームページに設定す る	する
カスタムメニュー		する	しない
する選択時の み	メニューコマンド		
デスクトップ操作性			
デスクトップ上のすべての オブジェクトアイコン		デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコンを隠す Active Desktop の Web ページを隠さずにオブジェクトアイコンを隠す (Internet Explorer 4.0 以降有効)	
タスクバーを隠す		する	しない
ログオン時に起動するアプリケーション		する	しない
する選択時 のみ	起動するアプリケーション		
[アプリケーションの追加と削除]を無効 にする		する	しない
マイドキュメントフォルダの設定		する	しない
する選択時 のみ	フォルダの場所		
設定制限			
スタートメニュー		[設定] からフォルダを削除 [設定] から [タスクバー] を削除	
コントロールパネル		[画面] を使用不可にする [ネットワーク] を使用不可にする [パスワード] を使用不可にする [プリンタ] を使用不可にする [システム] を使用不可にする	
その他		レジストリ編集ツールを使用不可にする 終了時に設定を保存しない	

(続 く)

設定項目	選択項目			
操作制限				
スタートメニュー	[ファイル名を指定して削除]を削除 [検索]コマンドを削除 共通プログラムグループを削除			
ファイルアクセス操作	[マイコンピュータ]からドライブを隠す [ネットワークコンピュータ]を隠す [ネットワークドライブの割り当て]と[ネットワークドライブの切断]を削除			
実行操作	[MS-DOS プロンプト]を使用不可にする タスクマネージャを使用不可にする 許可されたプログラムだけ実行			
プログラム	(許可されたプログラムだけ実行選択時のみ)			
不要キー抑止				
抑止設定キー一覧				

留意事項

デスクトップ環境を設定した後、グループ一覧から有効とするグループを選択してください。

索引

あ

アカウントの関連付け	153
新しいドメインツリーを構築する	234
アプリケーションウィザード	
エキスパートモード	74
ガイドモード	51
アレイの一貫性チェック (Synchronize)	254
アンインストール	
Chronoworker/S	136
PROBEPRO	132
WizardConsole	200

い

インストール	
Chronoworker/S	134
PROBEPRO	130
RAS 支援サービス	120
ServerView	126
DSNAP	133
FM Advisor	128
Tape Maintenance Checker	127
インストール先区画サイズについて	212
インストール中のエラーメッセージ	218
インストールの開始	
エキスパートモード	74
ガイドモード	55
事前設定モード	61
インストール方法の選択	22

う

ウィルス対策プログラム	110
運用管理支援ツール	18

え

エキスパートモード	64
エキスパートモードの起動	64
遠隔保守支援ツール	19

お

オプションカード	30
----------	----

か

ガイドモードの起動	40
-----------	----

き

共有資源の追加 / 変更	152
--------------	-----

く

クライアント一括導入ウィザード	52
クライアントコンピュータ	
追加 / 変更	145
追加 / 変更時の留意事項	192
クライアントセットアップ	162
アプリケーションの削除	193
留意事項	192
クライアントセットアップファイル	27
クライアントのデスクトップ環境設定	172
クライアントブート設定	177
クライアントへのインストール	183
グループの追加 / 変更	151

こ

高信頼ツール	17
導入方法	20
コンピュータ	
一括導入	149
情報の削除	149
情報の取得	148
情報の変更 / 追加	148
コンフィグレーションファイル	27
コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する	55
コンフィグレーションファイルを開く / 作成する	43

さ

サーバアプリケーションセットアップウィザード	52
サーバ運用前の留意事項	110
サーバ監視ツール	17, 126
サーバセットアップの流れ	12
サーバ導入時に搭載するメモリ容量	25
サーバ導入前の準備	25
再インストール	81
再インストール時の注意事項	81
サポートサービス	19

し

時刻合わせツール	134
システムイベントログ	

異常時に表示されるメッセージ	125
通知メッセージ	125
システム環境の診断機能	128
システム修復ディスクの作成	
Windows NT Server 4.0	103
Windows 2000 Server	102
システム診断支援ツール	18
システムの修復方法	222
事前設定モードの起動	58
手動インストール後の操作	112
手動インストール時の注意事項	31
Windows NT Server 4.0	31, 33
Windows 2000 Server	31, 32
手動インストール (C150E の場合)	
Linux	91
Windows NT Server 4.0	88
Windows 2000 Server	84
障害の通知方法の設定	124
情報ファイル	27
シンボルファイルの準備	132

す

スーパーフロッピー形式の光磁気ディスク使用 方法	219
スタンドアロンサーバとは	227
スタンドアロンサーバの構成	246

せ

セットアップ資源	
クライアントへインストールされるタイミ ング	187
サーバへの登録	169
登録の解除	171
セットアップ情報	
登録 (アプリケーション)	165
登録 (実行コマンド)	168
登録 (ファイル)	168
内容確認 / 設定変更	169
セットアップの流れ	
クライアント	140

そ

その他のデバイス	113
----------	-----

て

定期交換部品交換時期のメッセージ	125
定義ファイルの入手方法	129
ディスクアドミニストレータ	68
ディスクウィザード	44
テープ装置のメンテナンス	127
デザインシート	256

デスクトップ環境設定	172, 175
デスクトップメニュー	196

と

ドメインコントローラとは	225
Active Directory ドメイン	226
Windows NT 4.0 ドメイン	225
ドメインメンバサーバとは	227
ドメインメンバサーバの構成	244
ドライバ	210
ドライバの作成方法	204
ドライブ文字の割り当て	219
トラブル原因の早期発見	130, 133
トラブルシューティング	212
WizardConsole 使用時	189

ね

ネットワークパターン別設定方法	225
-----------------	-----

は

ハードウェア構成ツール起動用フロッピー ディスクの作成	104
ハードウェア構成ツールの作成	107
バックアップ	118

ひ

必要なシステム	23
---------	----

ふ

複数台のインストール	77
複数 LAN アダプタ搭載時	
アダプタ番号について	213
DHCP より IP アドレスを取得する場合	213
OS インストールタイプの場合	213
複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項	212
部品寿命情報	122
不要なファイル	114

ほ

保守ツールの作成	104
----------	-----

め

メモリダンプが取得できない場合	221
メモリダンプの設定	
Windows NT Server 4.0	98
Windows 2000 Server	94
メンテナンス区画の作成	67

ゆ

ユーザの追加 / 変更 151

り

リモート OS セットアップ 157

ろ

ローカルアドレスの設定 217

A

Active Directory の構成
新しいツリー 232
Active Directory の構成 (子ドメイン) . . . 240
Active Directory の構成 (追加ドメインコン
ローラ) 237
Active Directory の構築
新しいフォレストの構築 229

B

BIOS セットアップユーティリティ 25

C

CD-ROM イメージの削除 161
CD-ROM からの自動実行機能 114
Chronoworker/S 18, 134
ClientWizard 用ブート設定 181
Code Red ワーム 110
CSV ファイルフォーマット 195

D

DNS ゾーンの設定 232
DSNAP 19, 133

F

FastCheck Monitoring Utility 248
Array Window 248
Controller Window 250
Options Window 251
FastTrak Service 255
FM Advisor 18, 128

G

Global Array Manager の作成 106

I

IDE RAID 管理ツール 248

J

Jumbo フレームについて 217

L

LAN ドライバのインストール
Windows NT Server 4.0 209
Windows 2000 Server 208
LAN ドライバの詳細設定について 213

M

MS-DOS イメージの削除 178
MS-DOS イメージの作成 177
MS-DOS LAN マネージャ 143

O

OS インストールウィザード
エキスパートモード 69
ガイドモード 46
OS インストールタイプ 115
OS インストールタイプの開封 36
ServerStart を使用しない (Windows 2000
Server) 39
ServerStart を使用する 36
OS セットアップ情報
確認 / 変更 161
登録名の変更 161
Windows NT Workstation 4.0 の設定 . . 160
Windows 2000 Professional の設定 . . 159
OS セットアップ用ブート設定 179
OS プレインストールタイプでメモリダンプが
取得できない場合 222

P

PROBEPRO 18, 130

R

RAID ウィザード 43
RAID 管理ツール 17
RAID 構成ウィザード 67
RAID 構築 26
RAID の初期化 29
RAS 支援サービス 17, 120
使用方法 121
REMCS エージェント 19

S

ServerStart 使用時の注意事項 28
ServerStart のアンインストール 224

ServerStart の特長	13
ServerView	17, 126
インストールについて	20
Service Pack	27
Service Pack の適用	113
Storage Manager の作成	106

T

Tape Maintenance Checker	18, 127
TCP/IP プロトコル	144
Teaming 機能について	214

V

VLAN	216
------	-----

W

Windows NT 4.0 ドメインの構成	
PDC の場合	228
Windows Update	110
Windows NT 4.0 ドメインの構成	
BDC の場合	228
PDC の場合	228
WizardConsole	140
アンインストール	200
各 OS で利用可能な機能	142
起動	141
機能概要	141
使用時の留意事項	189
変更した情報の登録	188
利用のための準備	143
WizardMenu	
作成	197
デスクトップメニューの作成	196

PRIMERGY C150E

ソフトウェアガイド
B7FH-1731-01-00

発行日 2003年5月
発行責任 富士通株式会社

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。